

一七四七	延享4	11/16～	竹本座	義経千本桜 五段続	初段（此、友、錦）、二段目（文字、百合、政）、三段目（島、此）、四段目（道行文字・友、百合、錦、政、島）、五段目（信濃）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※語り「舟どいやのこむすめにたまのかんむりなみまらのじゆすのおとさつくにかけのしう%＼のいかりづな／つるべずしやのはなよめにじうにひとへにゐまらのはつねのつゞみちちつぽぼうはちゝはゝのしらべなは」。 ※『浄瑠璃譜』の大夫配役は次の点で番付と異なる。初段中 信濃太夫、式段目口 百合太夫、同中 文字太夫、道行 杣太夫、ツレ 信濃太夫、五段目 杣太夫、ツレ 文字太夫（『義太夫年表 近世篇』）。 ※「此時吉田文三郎役、渡海屋銀平・鮎屋弥左衛門・佐藤忠信、三役なり。源九郎狐の人形、広袖にて、是に源氏車の模様、だんだらの丸解、人形頭そさのをにて、此時はじめて耳の動く仕掛を思ひ付し也。源九郎故、源氏車の模様を付しにはあらず。此趣向、最初より狐と見せざる事故、玉もつけられず、いろ／＼に工夫をなし、右狐場をつとむる政太夫の紋所、源氏車故、源氏のゆかりにて、源氏車の模様付し故、今も歌舞妓杯には長上下にてすれども、（中略）此姿にならねば源九郎狐めかず」（『浄瑠璃譜』）。	九郎よしつね（才治）、むさしぼうべんけい（門三郎）、わかばのないし（甚六）、主馬ノ小金吾（清三郎）、しづかごぜん（伊平次）、川ごし太郎（助三郎）、佐藤忠信（文三郎）、女ぼうおりう（助三郎）、まづな銀平（文三郎）、いがみノ権太（才治）、すしや弥左衛門（文三郎）、娘おさと（源助）、むこ弥介（文吾）、かぢはら平三（彦三郎）、横河覚範（門三郎）。
一七四八	延享5	1～3頃	伊勢 中之地蔵 陸竹小和泉座	義経千本桜 五段続	初段（島、猶、千賀）、二段目（長門、千賀、島）、三段目（初、大隅）、四段目（道行千賀・長門、今、猶、大隅、初）、五段目（岩）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※語り「附り舟問屋の娘に玉のかんむり浪枕のしゆすの音さつくにかけの主従の碇綱／并二つるべ鯨やの花嫁に十二ひとへにゐ枕のはつ音の鼓ちちつぽぼうは父母の調縄」。	よしつね（又三郎）、弁けい（庄五郎）、わかばの内侍（幸介）、主馬小きん五（庄五郎）、しつか（藤四郎）、川こへ太郎（祐十郎）、さとう忠信（祐十郎）、女ほう（音十郎）、真綱ノ銀平（勘四郎）、いがみこん太（祐十郎）、すしや弥左衛門（勘四郎）、むすめおさと（音十郎）、弥すけ（又三郎）、かち原平蔵（平十郎）、よかはのかくはん（勘四郎）。
△ 一七四八	寛延1	後半カ	江戸 肥前座	千本桜	※「肥前座へ参りては菅原の四段目、千本桜の三の切、四段目の横山の覚範は、柏菰のこは色などつかひ、いづれも当りを取り、檀浦、ひらがな、辻法印など語り、見物に腹すじをよらせ、年々の評判」（『評判鶯宿梅』名護屋播磨太夫条）。 ※『評判鶯宿梅』に拠る。	
一七五五	宝暦5	7/16～	竹本座	千本桜	狐の段（政）。 ※「庭涼操座舗」寄せ物浄瑠璃の内。	よしつね（三津八）、しづか（小八）、源九郎（文三郎）。
一七五九 ～ 一七六一	宝暦9 ～ 宝暦11	1/□～	京 竹本座	千本桜	狐の段（喜代＝甚三郎）。 ※「浪花土産年玉操」の内。 ※三味線は早稲田大学演劇博物館蔵絵尽集に拠る。	源のよしつね（藤四郎）、しつか（理助）、たゞのぶ（才治）。

△	一七六四	明和1	6	江戸 外記座	千本桜	渡海屋（住）、すしや（政）、四の中（染）、狐（政）。 ※「六月は千本桜書中もいとはぬ大入にて七月中頃より狐場出、 大切吉野花櫓、忠信と覚範の人形を燈籠にて飾り付道具一式あか りを照らし、舞台一ぱい押し也」（『義太夫執心録』）。 ※『義太夫執心録』『評判鶯宿梅』に拠る。	
	一七六五	明和2	6中旬	竹本座	千本桜	狐の段（政）。 ※「御祭礼棚閣車操」の内。「大坂宮々の祭を浄瑠璃の寄物にな し」（『浄瑠璃譜』）。	よしつね（七郎治）、しづか（門二）、たゞのぶ （文三郎）。
△	一七六八	明和5	春	伊勢 古市	千本桜	狐場。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	(不明)
	一七六九	明和6	9/29～	道頓堀亀谷芝居 竹本義太夫座	義経千本桜	嵯峨の段（弥）、堀川の段（口和、切三根）。 ※「園生の竹本」の内。	
△	一七七〇	明和7	8/6～	越前 榎島	義経千本桜	※『橘宗賢伝来年中日録』に拠る。	
	一七七二	明和9	3/10～	京 四条通北側西大芝居 亀谷久米之丞座	義経千本桜	序（大序袖、切口是、切彦）、二（切口八予、切土佐事 政）。 ※「八重一重色数桜」の内。	よしつね（岩五郎）、ぺんけい（秀十郎）、しづか （伊三郎）、川越太郎（藤五郎）、すけのつほね （文三）、渡海や銀平（才治）。
	一七七七	安永6	2カ/8～	江戸 外記座	義経千本桜 五段続	※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※語り「附り 船問屋の小娘に玉の冠波枕珠数のおとさつくにかけ る主従のいかり縄／并ニ 釣瓶鮓屋の花嫁に十二一重の新枕は初音 の鼓ちゝほほうは父母のしらべ縄」。 ※「此度去御連中様御望ニ付右千本桜奉入御覧ニ候尤道具衣装先 達而筑後一座罷下り候節之通相改奉入御覧ニ入候」（番付口上）。 ※『難有矣』に拠ると、三の中（村）、三の切（住）、四の中 （内匠）、狐場（住）。	
	一七七七	安永6	3/3～	江戸 外記座	千本桜	大序（万里）、序切（浅、拇、伊久）。 ※序切は交替出演力。	源のよしつね（三十郎）、武蔵坊弁慶（京蔵）、し づか（宇八）、川越太郎（伊三郎）。
	一七七八	安永7	9/17～	江戸 肥前座	千本桜	※「浄瑠璃相撲」の内。「座中のこらす出かたり出づかひニ相つ とめ申候／取組毎日取替奉御覧入候」（番付）。	
	一七七九	安永8	3	北ノ新地西ノ芝居 竹田万治郎座	義経千本桜	初段（序中 沢、切卯、の、逸）、二段目（口文字、切の、染、 男徳斎）、三段目（口三根、切組）。	源よしつね（貫蔵）、弁けい（才蔵）、わかばのな いし（三吾）、小きんご（虎蔵）、しづか（磯五 郎）、川越太郎（民蔵）、たゞのぶ（門蔵）、すけ のつほね（才治）、とかいや銀平（門蔵）、いがみ ノ権太（才治）、すしや弥左衛門（門蔵）、おさと （磯五郎）、弥すけ（才蔵）、かち原平三（門三 郎）。

△	一七七八 ～ 一七七九 頃	安永7 ～ 安永8 頃		堀江	千本ざくら	三段め（麓＝三二）。 ※『闇の磔』に拠る。	
△	一七七八 ～ 一七八〇 頃	安永7 ～ 安永9 頃		竹本政吉座カ	千本	四ツ目（政）。 ※『闇の磔』に拠る。	
△	一七六二 以後～ 一七八三 以前カ	宝暦12 以後～ 天明3 以前カ		江戸カ	千本	狐（政）。 ※『義太夫執心録』に拠る。	
△	一七八四	天明4	3/3～	北堀江市の側芝居	義経千本桜	二の口（村）、四の切（出語時＝寛治）。 ※人形欄は東京藝術大学附属図書館蔵「近世邦楽年表基本カード」に、その他は『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	よしつね（源吾）、べんけい（藤三郎）、しづか（弥五郎）、忠信（門蔵）。
△	一七八五	天明5	7/25～8/29	甲府	千本桜	きつね之段（出語り 政＝三式）。 ※『峡中劇場記録』に拠る。	出つかいよしつね（三五郎）、しづか（新七）、きつね（万吉）。
△	一七八九	寛政1	7/15～	曾根崎新地芝居	義経千本桜	三段目（口節、三和、切麓）。 ※利倉幸一蔵『上方芝居番付控』に拠る。	ないし（貫次郎）、小きん五（岩五郎）、いがみの権太（冠蔵）、弥左衛門（文三郎）、いもとおさん（文吾）、弥介（冠次）、かぢ原平三（冠治）。
	一七九〇	寛政2		大坂	千本桜	道行（中山一座）、狐之段あやつり（政、越）。 ※操りと首振りの打ませ興行。	よしつね（岩五郎）、しづか（三吾）、たづのふ（冠蔵）。
	一七九一	寛政3	7/29～	北堀江市の側芝居 豊竹此母座	義経千本桜	三の口（百合）、三の切（麓）。	わかばのないし（吉十郎）、小きんご（正五郎）、いがみのごん太（東十郎）、すしや弥左衛門（虎蔵）、おさと（十三郎）、すしや弥介（国八）、かぢはら平三（元五郎）。
	一七九五	寛政7	1/15～	北ほり江市ノ側芝居	義経千本桜	三の口（文字）、三の切（麓）。	ないし（辰五郎）、しゆめの小きんこ（国八）、いがみのごん太（乙五郎）、すしや弥左衛門（才治）、すしやおさと（十三郎）、すしや弥介（東作）、かぢはら平三（新吾）。
△	一七九六	寛政8	9/16～	伊勢 古市	千本桜	※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
△	一七九九	寛政11	8/17～	曾根崎新地芝居	義経千本桜	三の（口重、切麓）。 ※人形欄は東京藝術大学附属図書館蔵「近世邦楽年表基本カード」に、その他は『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	ないし（辰五郎）、小きんご（文三）、いがみの権太（千四）、弥左衛門（新吾）、おさと（十三郎）、弥介（冠三）、梶原平太（冠蔵）。

一八〇〇	寛政12	3/7~	道頓堀東芝居	義経千本桜	三段目（口吾、次美代、切麓）。	わかばのないし（東五郎）、小きん吾（文三）、いがみのごん太（千四）、弥ぎへもん（新吾）、おさと（重三郎）、弥すけ（三吾）、かぢはら平三（重五郎）。
一八〇五	文化2	9/9~	道頓堀大西芝居	義経千本桜 五段続	初段（大序鳴戸、綾、中伊勢、口重事染、切巴）、式段目（口百合、おく泉、中千賀、切内匠、氏）、三段目（口秀、巴、切麓）、道行初音の旅（泉・ツレ伊勢）、四段目（中吾、切咲、跡千賀）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（冠三）、弁けい（文三）、わかばのないし（東五郎）、小きん吾（文三）、しづかのまへ（虎蔵）、川ごへ太郎（定蔵）、さとうたゞのぶ（新吾）、ぎん平女ぼう（東作）、とかいやぎん平（千四）、いがみのごん太（千四）、すしや弥左衛門（新吾）、おさと（東作）、弥介（金吾）、かぢはら平三（定蔵）、かくはん（金吾）。
一八〇八	文化5	1/21~	御霊芝居	義経千本桜 四ノ口 四ノ切	道行（出かたり富・むら）、御殿のたん（出かたり陸、土佐）。 ※この興行は行われずに、次項の正月28日に初日を迎えたのではなかろうか（『義太夫年表 近世篇』）。	（不明）
一八〇八	文化5	1/28~	御霊芝居	義経千本桜	道行（富・むら）、御殿のたん（口陸、切土佐）。	よしつね（熊吉）、しづか御ぜん（三吾）、源九郎ぎつね・佐とう忠信（新吾）。
△ 一八〇八	文化5	4/21~	伊勢 中の地蔵大芝居	千本さくら	三段。 ※「不入ヲ怒テ四月廿六日迄ニテ政太夫蟻鳳帰坂依テ廿九日夕斗」（『伊勢歌舞伎年代記』）。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に拠る。	
一八〇九	文化6	10/28~	奈良 瓦堂芝居	義経千本桜 五段続	初段（大序口鶴、おく吾、序中菊、口国、切氏）、式段（口吾、奥生駒、中菊、切土佐）、三段（口氏、中時、切麓）、みちゆき（菊・ツレ生駒）、四段（口吾、中時、切政、出語り出づかひ）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（冠三）、武蔵坊弁けい（千次郎）、若葉の内侍（兵吉）、小金吾（冠三）、しづか御ぜん（辰造）、川ごへ太郎（門蔵）、源九郎きつね（千四）、助のつぼね（辰造）、とかいや銀平・平のとももり（音五郎）、いがみノ権太（千四）、すしや弥左衛門（門蔵）、娘おさと（冠十郎）、弥助（国八）、梶わら平三（音五郎）、忠のぶ（千四）。
一八〇九	文化6	12/25~	北の新地芝居	義経千本桜 三の切	狐のたん（切政＝伝吉・ツレ亀吉、人ぎやう出遣ひ出語りにて相勤申候）。	よしつね（冠三）、しづかごぜん（辰造）、源九郎きつね（千四）。

一八一―	文化8	3/1～	御霊境内	義経千本桜 五段続	大序（入、口定、切生駒）、初段（組、口定、中氏、切伊勢）、弐段目（口入、おく生駒、中吾、切染）、三段目（口時、切麓）、道行（伊勢・ツレ入）、四段目（中生駒、切内匠、おく氏）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（冠三）、弁けい（千次郎）、若葉の内侍（平蔵）、小金吾（冠三）、しづかごぜん（金吾）、川ごへ太郎（千次郎）、源九郎ぎつね（千四）、助のつぼね（金吾）、渡海や銀平・平の知もり（音五郎）、いがみの権太（千四）、弥左衛門（音五郎）、娘おさと（冠十郎）、すしや弥介（新二）、かぢはら平三（冠三）、さとう忠のぶ（千四）。
一八一二	文化9	3/2～	いなり境内	義経千本桜	道行（錦・ツレ和）、御殿のだん（口綾、切中）。	よしつね（小六）、しづか（国八）、源九郎狐（新吾）、佐藤忠信（大五郎）。
一八一二	文化9	6/5～	伊勢 松坂愛宕町芝居	義経千本桜	狐のだん（口氏、切中）。	よし経（冠作）、しづか（金吾）、たゞのぶ・源九郎（音五郎）。
一八一二	文化9	9/24～	道頓堀竹田芝居	義経千本桜 五段つゞき	大序（口万、おく三保、絹）、序段（口律、切八重）、弐段目（口生駒、中伊勢、切中）、三段目（口氏、切麓）、道行（九重・中）、四段目（口絹、中氏、切土佐、おく[不可知]）、五段目（[不可知]、[不可知]）。 ※四段目おく以降、破れのため番付判読できず。 ※道行の九重太夫は、八重太夫とも読める。	よしつね（才治）、べんけい（千治郎）、わかばの内侍（紋二）、小金吾（新二）、しづか御せん（辰造）、川越太郎（冠三）、狐たゞのぶ（千四）、すけのつぼね（辰造）、とかいや銀平（九孝）、いがみの権太（千四）、すしや弥左□□（九孝）、娘おさと（重五郎）、弥介（千治郎）、かぢはら平三（冠三）、かくはん（冠三）、さとう忠のぶ（千四）。
一八一六	文化13	4/19～	ざま境内	義経千本桜 五たんつゞき	初段（序綾、中淀、三保、口定、切君）、弐段目（口菊、おく頼、中吾、切磯）、三段目（口吾、おく君、切麓）、道行初音の旅路（頼・ツレ勝）、四段目（中綾、切巴、跡かけ合君・吾・定）。 ※角書「大物の船矢倉／吉野の花矢倉」。	よしつね（才治）、弁けい（金四）、内侍（定治）、小金吾（才治）、しづか（国八）、川ごへ太郎（大五郎）、源九郎ぎつね（新吾）、助のつぼね（冠十郎）、とももり（与十郎）、いがみの権太（兵吉）、弥左衛門（新吾）、おさと（国八）、弥介（大五郎）、梶わら平三（金吾）、かくはん（金吾）、さとう忠信（新吾）。
一八一七	文化14	11/15～	名古屋 若宮芝居	義経千本桜	第壹（序紋、中入、切琴）、第弐（口入、中琴、次浅、切桐）、第三（口紋、奥布、中浅、切天忠=九才亀吉）、第四道行（出語り出づかい桐、琴、口布、切紋）、第五（惣一座かけ合）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	よしつね（伝古）、べんけい（伝造）、若葉内侍（弥四郎）、小きん吾（弥四郎）、しづか御ぜん（朝七）、かわこへ太郎（左造）、源九郎ぎつね（与吉）、すけのつほね（弥四郎）、知盛（朝七）、権太（左造）、弥左衛門（与吉）、娘おさと（朝七）、三位これ盛（伝古）、梶原平三（伝造）、忠のぶ（与吉）。
一八一九	文政2	5/4～	伊勢 中之地蔵常大芝居	義経千本桜	道行（八重・勝）、狐の段（錦、宮戸）。	よしつね（三吾）、しづか（国八）、ぎつね忠信（新吾）、よ川かくはん（左蔵）、佐藤忠信（新吾）。

一八二〇	文政3	9/28～	御霊社内	義経千本桜 五段つゞき	初段（口菅、おく祖、中巴、口雛、切咲）、式段目（口祖、おく綾、中君、切八重）、三段目（口咲、中筆、切巴）、四だん目（道行八重・ツレ勝、口君、切政、跡祖、吉田進吾早がはり出つかひにて相つとめ申候）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（源十郎）、弁けい（金四）、わかばの内待（勢造）、主馬の小金吾（金四）、しづか（国八）、川こへ太郎（金吾）、源九郎狐（進吾）、すけのつぼね（金吾）、平のとももり（与十郎）、いがみの権太（金吾）、すしや弥左衛門（進吾）、おさと（国八）、すしや弥助（金四）、梶原平三（金四）、横川覚はん（与十郎）、佐藤忠信（進吾）。
一八二〇	文政3	10/1～	御霊社内	義経千本桜 三段目 四段目	三段目（口咲、おく筆、切巴）、四だん目（八重・ツレ勝、口君、切政、跡祖）。 ※前項と一連の興行。三段目四段目を残し、前浄瑠璃に別狂言を加えた番組。	よしつね（源十郎）、わかばの内待（勢造）、小金吾（金四）、しづか（国八）、源九郎きつね（進吾）、権太（金吾）、弥左衛門（進吾）、おさと（国八）、すしや弥介（金四）、かぢはら平三（金四）、覚はん（与十郎）、佐藤忠のぶ（進吾）。
一八二三	文政6	1	京 四条北側芝居	義経千本桜 大序より 四段目まで	大序（口弦、奥八尾）、序中（蔦）、序切（口菅、中祖、切咲）、二の口（口勝、奥中）、二の切（中祖、次綱、切筆）、三の口（むら）、三の切（巴）、道行（シテ紋・ツレ勝）、四の切（口綾、切中、跡須磨）。	よしつね（朝右衛門）、弁けい（金四）、若はの内待（勢造）、小金吾（金四）、しづか御前（金吾）、川こへ太郎（新二）、狐忠信（新吾）、すけの局（国八）、とかいや銀平（新二）、いがみの権太（兵吉）、弥左衛門（新吾）、おさと（新二）、すしや弥介（金吾）、梶はら平蔵（金吾）、佐藤忠のぶ（新二）。
一八二三	文政6	9/27～	座摩社内	義経千本桜 五段続	初段（大序弥生、糸、の、口土勢、おく伊勢、口長門、切伊達）、式段目（口生駒、中染、切弥）、三段目（口梶、切播磨大掾）、四段目（道行伊勢・長門、口梶、切染、跡土勢）、五段目（国）。 ※角書「吉野の花矢倉／大物の船矢倉」。 ※「文政六年（中略）九月二十七日より義経千本桜四段目狐の段勤る処此芝居半より病気にて梶太夫事後越前大掾替り役を勤めらるゝ内是も風邪にて引込河堀口長門太夫替りを勤る染太夫事是を名残にて終に養生叶はず行年六十八才にて死去せられる」（『増補浄瑠璃大系図』竹本染太夫の条）。	源ノよしつね（弥三郎）、武蔵坊弁慶（東十郎）、若葉ノ内侍（東十郎）、主馬の小金吾（仙助）、しづかごぜん（新吾）、川越太郎（三吾）、狐忠信（仙四）、祐のつぼね（伝七）、渡海や銀平・平ノ友盛（新吾）、いがみの権太（仙四）、すしや弥左衛門（文三郎）、娘おさと（伝七）、すしや弥介（三吾）、梶原平三（弥三郎）、横川覚範（文三郎）。
一八二三	文政6	10/21～	座摩社内	義経千本桜 大序ヨリ 三段目マテ	初段（大序弥生、糸、の、口土勢、おく伊勢、口長門、切伊達）、式段目（口生駒、中染、切弥）、三段目（口梶、切播磨大掾）。 ※角書「吉野の花矢倉／大物の船矢倉」。 ※前項と一連の興行。三段目迄を残し、後狂言に「恋飛脚」を追加。	源ノよしつね（弥三郎）、武蔵坊弁慶（東十郎）、若葉ノ内侍（東十郎）、主馬ノ小金五（仙助）、しづかごぜん（新吾）、川越太郎（三吾）、狐忠信（仙四）、祐のつぼね（伝七）、渡海や銀平・平の友盛（新吾）、いがみノ権太（仙四）、すしや弥左衛門（文三郎）、娘おさと（伝七）、すしや弥介（三吾）、梶原平三（弥三郎）。

一八二四	文政7	3/29~	堀江市の側芝居	義経千本桜 つゞき五段	初だん（大序 沢、政戸、中若、口音、切咲）、忒段目（口浦、中生駒、おく八重、口鐘、中咲、切筆）、三段目（口音、切巴）、四段目（道行勝・菅、口生駒、切若、忠信／源九郎狐吉田金吾 右二やく出づかひ早がはりにて奉御覧ニ入候）、五段目（八木、杣）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	よしつね（朝右衛門）、むさし坊弁慶（田吉）、若葉ノ内侍（三四）、小金吾（金吾）、しづか御前（国八）、川ごへ太郎（東十郎）、源九郎狐（金吾）、すけの局（国八）、平ノ知盛（金四）、いがみの権太（金四）、すしや弥左衛門（冠四）、娘おさと（国八）、弥介（東十郎）、梶原平三（金吾）、覚はん（新四）、佐藤忠信（金吾）。
一八二六	文政9	9/7~	名古屋 なごや若宮社内	義経千本桜	大序（元）、序切（口勝、切富）、二ノ口（口元、切生駒）、二ノ切（中和佐、おく巴、切若、跡富）、三ノ口（生駒）、三ノ切（巴）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	源のよしつね（朝之助）、弁けい（新治）、若葉の内侍（幸造）、小金吾（新治）、しすが御せん（伝七）、川越太郎（金吾）、佐藤忠信（金吾）、すけの局（伝七）、銀平・とももり（金四）、いがみの権太（金四）、すしや弥左衛門（金吾）、娘おさと（伝七）、弥介（新治）、梶原平三（新治）。
一八二七	文政10	4	伊勢 勢州中の地藏大芝居	義経千本桜 大序ヨリ 四段目迄	初段（大序 元、口桐、ヲク萩、口半、切綾）、忒段目（口半、ヲク頼、中富、巴、切此、若）、三段目（口生駒、切巴）、四段目（道行頼・ツレ半、中綾、切此、跡柴、佐藤忠信+狐忠信 吉田千四／右二役出遣ひ早替りにて相勤申候）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（金四）、弁けい（新造）、ないし（駒吉）、小金吾（新造）、しづか御せん（辰五郎）、川越太郎（勝助）、狐忠信（千四）、助のつほね（辰五郎）、平知盛（弥三郎）、権太（金四）、弥左衛門（金吾）、おさと（辰五郎）、これもり（辰造）、梶原平三（弥三郎）、佐藤忠信（千四）。
一八二七	文政10	8/12~	稲荷社内	義経千本桜	大序（口新、次久、おく亀）、初段（口和佐、切長門）、忒段（口入、中佐賀、切春）、三段（口音、切湊）。 ※角書「大物の浦辺に 怨霊の船合戦／吉野の下市に 厚情の陣羽織」。	よしつね（岩五郎）、べんけい（冠三）、わかばの内侍（三十郎）、小金吾（岩五郎）、しづか御ぜん（三吾）、川越太郎（才治）、源九郎（才治）、すけの局（三吾）、平とももり（よ十）、いがみの権太（才治）、すしや弥左衛門（冠四）、娘おさと（三吾）、すしや弥介（松次郎）、梶原平三（よ十）。

一八二八	文政11	1/2～	御霊社内	義経千本桜 大序より 五段目まで	大序（口桐、おく佐代）、初段（口苜、おく生駒、口勝、中政、切綾）、式段目（口式事越後、おく頼、中久、奥巴、切君）、三段目（口生駒、権太+大之進+小金吾 吉田金四/右三やく早がわりにて相つとめ申候、切巴）、道ゆき初音の旅（シテ頼・ツレ久・おく君）、四段目（口綾、切政、佐藤忠信+狐忠のぶ 吉田金吾/右二やく早がはりにて相つとめ申候、跡かけ合越後・久・勝）、五段目（鶴）。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。 ※語り「ふなどいやの小娘に玉のかんむり浪枕のじゆずの音ざつづくにけるしう%＼のいかりづな/つるべすしやの花嫁に十二ひとへのにみ枕初音の鼓ちゝつホ、ウはちゝはゝのしらべなわ」。	源ノよしつね（朝右衛門）、べんけい（東十郎）、若葉の内侍（東三）、主馬ノ小金吾（金四）、しづか御前（国八）、川越太郎（小六）、源九郎狐（金吾）、すけの局（国八）、渡海屋銀平・平のとも盛（金四）、いがみの権太（金四）、すしや弥左衛門（金吾）、娘おさと（国八）、中将惟盛（小六）、梶原平三（東十郎）、横川覚範（朝右衛門）、佐藤忠信（金吾）。
一八二九	文政12	5	北の新地芝居	義経千本桜 四ノ口 四の切	四段目（口織、中阿蘇、切組）。	よしつね（弥三郎）、しづか御ぜん（三吾）、源九郎（新吾）、忠のぶ（清七）。
一八二九	文政12	11/2～	いなり境内	義経千本桜 三段目	下市村すし屋のだん（口よど、切浪=三二）。	若葉ノ内侍（門治）、いかみノ権太（才治）、弥左衛門（与十）、娘おさと（辰五郎）、下男弥介（辰造）、梶原平三（辰助）。
一八三〇	文政13	7/13～	江戸 高輪如来寺境内	義経千本桜 五段続	初段（大序朝、森、口文、中尾木、切実）、式段目（口尾木、中門、切三輪）、三段目（口実、切染）、四段目（口袖、切門）、五段目（鉄、勝）。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。	源よしつね（下り伝四）、べんけい（松五郎）、若葉の内侍（磯五郎）、主馬の小金吾（松五郎）、しづか御ぜん（六三）、川越太良（冠造）、源九郎きつね（清五郎）、すけのつぼね（幸五郎）、渡海や銀平・平知もり（幸五郎）、いかみ権太（冠造）、すしや弥左衛門（幸五郎）、すしやおさと（六三）、弥介実はこれもり（清五郎）、梶原平蔵（清五郎）、横川かくはん（冠造）、佐藤忠信（清五郎）。
一八三〇	文政13	8/10～	御霊境内	義経千本桜 三段目	寿し屋のだん（湊事麓）。 ※湊太夫改メ豊竹麓太夫襲名披露。	若葉ノ内侍（東三）、権太（金四）、すしや弥左衛門（門蔵）、娘おさと（東十郎）、弥介（新四）、梶原平三（弥三郎）。

一八三一	天保2	5/17~	角の芝居	義経千本桜 大序より 三段目まで	大序（口当美、おく其）、序切（口当磨、中当賀、切照）、忒の口（吾）、大物の浦渡海屋内の段（達、錦）、三段目の口しいの木のだん（浜）、三段目の切すし屋の段（切此）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※操り歌舞妓打交興行（番付）。 ※序切（志賀）、しいの木のだん（当賀）、すし屋のだん（切此、おく時）となっている別番付あり。 ※「此度の趣向初段ハ歌舞妓にて序切ハ人形二段目銀平内の段口明より知盛行所迄ハ人形にして後知盛戻る所より道具替り歌舞妓三ノ口しいの木の段人形にて小金吾取巻の所より歌舞妓又すしや場人形にて口此太夫おく時太夫所甚不評ゆへ此太夫口切ニ出て急ニ梶原の出より歌舞妓ニ成権太役を梅玉する也（中略）すべて此度ハ役者ハ人形でし人形ハ歌舞妓の思ひ入にてする也」（『大歌舞妓外題年鑑』）。	源よしつね（東十郎）、武蔵坊弁慶（喜十郎）、若葉内侍（喜十郎）、主馬小金吾（清七）、典侍の局（三吾）、平とももり（千四）、いがみの権太（新吾）、すしや弥左衛門（東十郎）、娘おさと（三吾）、すしや弥助（弥三郎）、梶原平三（弥三郎）。
一八三一	天保2	9/29~	いなり社内	義経千本桜 大序より 四段目まで	大序（力、志那、馬、国）、初段（口富、中住、口島、切久）、忒段目（口高、おく湊、中谷、切長門、麓）、三段目（口長門、切重）、道行初音の鼓（むら・ツレ湊）、四段目（口富、おく久、切住、跡島）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※語り「ふなどいやの小娘に玉のかんむりなみまぐらのじゆずの音ざつづくにかけしう%＼のいかりづな／つるべすしやの花嫁に十二ひとへのにみまぐら初音のつづみち、つつホ、ウはち、は、のしらべなわ」。	源よしつね（朝右衛門）、べんけい（よ十）、若葉の内侍（歌六）、小金吾（岩五郎）、しづか御ぜん（国八）、川越太郎（よ十）、狐忠信（金四）、すけの局（国八）、渡海や銀平・平ノとももり（門蔵）、いかみの権太（金四）、すしや弥左衛門（門蔵）、娘おさと（国八）、中将これもり（紋三郎）、かちはら平三（岩五郎）、横川覚はん（よ十）、佐藤たづのぶ（金四）。
△ 一八三二	天保3	8月24日	江戸品川本宿 川熊	千本桜	木之実（実）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八三二	天保3	9	堺 宿院芝居	義経千本桜 大序より 五段目迄	初段（大序口巴三、おく艶、中陸奥、口鳴戸、切綾）、忒段目（口河内、おく富、次鳴戸、中巴、切時＝時造）、三段目（口綾、切巴）、道行（綾・ツレ河内）、四段目（中富、切時、跡陸奥）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（伊平治）、弁けい（冠四）、わかばの内侍（猪三郎）、小金吾（冠四）、しづか御ぜん（辰造）、川越太郎（東十郎）、狐忠信（新吾）、すけの局（東十郎）、銀平・平ノとももり（新吾）、いかみの権太（新吾）、すしや弥左衛門（東十郎）、娘おさと（辰造）、弥介（冠四）、かぢ原平三（冠四）、かくはん（東十郎）、佐藤忠のぶ（新吾）。
一八三三	天保4	1/8~	北堀江市の側芝居	義経千本桜	三段目（口時、おく内匠、切組）、道行初音の旅路（シテ錦・ワキ頼母）。 ※番付の1本に初日の「八日」を消して「十一日」と書込んだものがある。また人形欄「すしや弥介」が「すしや弥左衛門」に直されており「左衛門」には改刻の跡がある（『義太夫年表 近世篇』）。	若葉の内侍（喜十郎）、主馬ノ小金吾（辰造）、しづか御前（辰造）、忠のふ（冠四）、いがみの権太（千四）、すしや弥介（新吾）、娘おさと（国八）、弥介（冠四）、梶原平三（冠蔵）。

一八三三	天保4	2/10～	いなり境内	義経千本桜	すしやの段（江戸高麗事 上総、右御目見江浄るりに相勤申候巴上）。	若葉の内侍（朝之助）、いがみの権太（金四）、弥左衛門（門蔵）、娘おさと（辰五良）、これもり（清七）、かぢ原平三（岩五郎）。
一八三三	天保4	4/4～	名古屋 橋町芝居	義経千本桜 大序より 三段目迄	大序 御殿場（口琴、中日出、おく理津）、堀川夜討段（口理、切中）、伏見稻荷の段（菊）、知盛入水の段（中浜、おく浪、切岡）、上一村のだん（口久）、釣瓶鮎屋段（切重）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	源よしつね（松助）、弁慶（金三）、若葉内侍（松助）、小金吾（東造）、静御ぜん（三吾）、川越太郎（才治）、忠信（三右衛門）、すけのつぼね（三吾）、平知盛（よ十）、権太（才治）、弥左衛門（よ十）、おさと（三吾）、これもり（東造）、梶原平三（三吾）。
一八三四	天保5	1/11～	御霊境内	義経千本桜 大序より 三段目まで	初段（大序 登勢、登志、中直、口巴磨、切実）、式段目（口常、巴磨、次い、口豊、おく道、中巴、切若）、三段目（口実、切巴）。 ※角書「大物浜辺に怨霊船合戦／吉野下市に厚情陣羽織」。	源よしつね（新五郎）、武蔵坊弁慶（大五郎）、若葉の内侍（竹松）、小金吾（辰助）、静御前（東三）、川越太郎（源十郎）、佐藤忠のぶ（六二）、すけのつぼね（辰造）、渡海屋銀平・平ノとももり（文三）、いがみの権太（文三）、すしや弥左衛門（兵吉）、娘おさと（辰造）、平ノこれもり（辰助）、かぢ原平三（源十郎）。
一八三四	天保5	4/16～	名古屋 清寿院芝居	義経千本桜 大序より 三段目迄	大序（口巴磨、中和国、名田、口理、切筆戸）、二段目（口さの、中巴、切入）、三段目（口寿、おく筆、切巴）。	よしつね（八十八）、弁けい（金三）、ないし（新十郎）、小金吾（松助）、しづか（新十郎）、川越（東造）、助局（三吾）、友盛（新治）、権太（千四）、弥左衛門（新治）、おさと（三吾）、弥介（東造）、梶原（東造）。
一八三四	天保5	11/23～	京 因幡薬師芝居	千本桜	三段目（久我）。	
一八三五	天保6	3/6～	徳島 朝見寺	義経千本桜 大序より 四段目まで	大序（品）、初段（口登勢、切文）、二段目（口品、中文、切佐賀、雛）、三段目（口為、切長門）、道ゆき（雛・為・登勢、しつか 吉田辰造／忠のぶ 吉田金四、右道行出かたり出つかひにて相勤候）、四段目（中為、切佐賀、跡久、佐藤忠のぶ+きつね 忠のぶ 吉田金四／右二役早かわりにて相勤申候）。	よしつね（東造）、弁けい（金口）、内侍（辰三）、小金吾（鬼十郎）、しつか御前（辰造）、川こへ太郎（源吾）、忠のぶ（金四）、助のつほね（辰造）、とも盛（与十）、いかみ権太（金四）、弥左衛門（与十）、娘おさと（辰造）、これもり（鬼十郎）、かし原平二（源吾）。
一八三五	天保6	3/18～	いなり境内	義経千本桜 大序より 三段目まで	大序（口沢、おく琴）、初段（口陸、中綾、切岡）、式段目（口さと、次寿、中絹、おく綾、切綱）、三段目（口岡、切住）。 ※角書「大物浜辺に怨霊船合戦／吉野下市に厚情陣羽織」。 ※吉田金四は天保6年前半、終始大阪稻荷境内芝居の一座の番付に名がみえるが、『元木家記録』に従えば、3月18日および5月3日初日の稻荷境内芝居の興行には出演していないはずである（『義太夫年表 近世篇』）。	源よしつね（新五郎）、べんけい（東十郎）、若葉の内侍（猪三郎）、主馬ノ小金吾（とく蔵）、静御前（門三）、川ごへ太郎（とく蔵）、源九郎忠のぶ（金四）、すけのつぼね（辰五良）、とかいや銀平・とももり（門蔵）、いがみの権太（門蔵）、すしや弥左衛門（東十郎）、娘おさと（辰五良）、これもり弥介（とく蔵）、梶原平三（朝右衛門）。
一八三五	天保6	6又は7/1～	伏見 鐘木町芝居	義経千本桜	道行の段（シテ 綾・ツレ 寿・絹）。	しつか（辰五郎）、狐忠信（金四）。

	一八三五	天保6	8/16~	江戸 薩摩座	義経千本桜 五段つゞき	大序（津雲、増）、序切（口操、切鳴戸）、二段目 渡海屋の場（口盛、中久賀、切道）、三段目（口曾賀、小金吾+大之進+弥左衛門 吉田兵吉/右三やく相つとめ申候）、三段目（切氏）、道行（かけ合道・津留）、四段目（口輝、切津賀、跡鳴戸、狐たゞのぶ 吉田兵吉 相つとめ申候）。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。	よしつね（文造）、武蔵坊へんけい（六二）、なひし（東三）、小金吾（兵吉）、しづかごぜん（辰三郎）、川越太郎（文次）、狐たゞのぶ（兵吉）、助のつぼね（東三）、渡海や銀平・とももり（松五郎）、ごん太（国五郎）、弥左衛門（兵吉）、娘おさと（辰三郎）、弥助実はこれもり（文三）、かじ原平次（文次）、佐藤たゞのぶ（六二）。
	一八三五	天保6	10/14~	座摩境内	義経千本桜 すしやのだん	三段目（口い、切三光斎）。	わかばの内侍（篤次郎）、いがみノ権太（三吾）、弥左衛門（与十郎）、娘おさと（辰造）、下男弥介（新五郎）、梶原平三（東十郎）。
	一八三五	天保6	10	京 四条道場芝居	義経千本桜 すしやのたん	三段目（口当能、跡当磨、切組）。	若葉の内侍（平吉）、小金吾（市太郎）、いかみの権太（一橘）、すしや弥左衛門（新吾）、娘おさと（国八）、これもり（東蔵）、かち原平三（冠四）。
△	一八三六	天保7	10/18~	名古屋 清寿院門内豊後跡小屋	千本桜	三の口（清=宗吉）。 ※「大坂素浄瑠璃興行。評判よろしからず、三日切仕舞」（『見世物雑誌』）。 ※『見世物雑誌』に拠る。	
△	一八三七	天保8	3/28~	名古屋 大須本堂うしろ芝居 小屋	千本桜	（泉又=万造）。 ※『見世物雑誌』に拠る。	
	一八三八	天保9	8/26~	稲荷東芝居	義経千本桜 大序より 四段目まで	大序（喜代、小松）、初段（口叶、切久、跡三根）、二段目（口巴磨、おく越、口琴、中咲、切大隅）、三段目（口久、切重）、道行はつねのつゞみ（大隅・三根・叶・陸）、四段目（口島、切咲=竜蔵、跡越、狐忠信+かくはん+きつね 吉田金四/右三やく出遣ひ早がはりにて相勤申候）。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。	源ノよし経（門十郎）、武蔵坊弁慶（勝造）、若葉ノ内侍（咲造）、主馬ノ小金五（勝造）、しづか御前（辰五郎）、川越太郎（東十郎）、きつね忠信（金四）、典侍ノ局（辰造）、渡海や銀平（徳造）、いがみの権太（金四）、すしや弥左衛門（門蔵）、娘お里（辰五郎）、下男弥介（辰造）、梶原平三（東十郎）、横川覚はん（金四）、佐藤忠信（徳造）。
	一八三九	天保10	1	北はり江市の側芝居	義経千本桜 大序ヨリ 四段目迄	大内のだん（口富士、次鳴、跡増）、堀川御所のだん（口万、切筆戸）、ふしみ森のだん（口早、跡当勇）、渡海屋銀平内のだん（次高来、中多満、切小野、弥=善太郎事伊八）、しいの木のだん（口理喜、切錦）、寿しやのだん（三光斎）、道ゆき（シテ錦・ツレ高来・信・ワキ万）、御殿のだん（中小野、切筆、跡かけ合多満・当勇）。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。	よしつね（文蔵）、べんけい（新五郎）、若葉内侍（為五郎）、小金吾（新五郎）、しづかのまへ（新吾）、川越太郎（冠蔵）、源九郎狐（兵吉）、すけの局（喜十郎）、渡海や銀平（国五郎）、いがみノ権太（文三）、弥左衛門（新吾）、娘おさと（東三）、弥介・これもり（文蔵）、かぢ原平二（九幸）、衣川覚伴（国五郎）、佐藤たゞ信（喜十郎）。

一八三九	天保10	6	北新地芝居	義経千本桜	御殿の段（口当勇、切小野）。 ※糸操り浄瑠璃興行。	よし経（新四）、しづか（国造）、狐忠のぶ（冠二）、余川覚はん（七三二）、佐藤忠信（冠二）。
一八四一	天保12	1/2～	座摩社内西芝居	義経千本桜 五段続	大序（口八代、中辰、おく八百）、義経館の段（口緑り、切琴）、稲荷の段（口浜、おく佐賀）、渡海屋の段（口大島、中阿蘇、切八重）、しいの木の段（口富、おく佐賀）、すしやの段（切錦翁軒＝宗六）、道行はつねのつづみ（シテ頼母・ワキ琴・ツレ梅）、忠信住家の段（口浜、おく翁）、御てんの段（口頼母、切阿蘇、跡梅、きつね忠信／佐藤忠信 吉田一暁／右人形出遣ひ早がはりにて相勤申候）。 ※角書「大物の浦辺に怨霊の船合戦／吉野の下市に厚情の陣羽織」。 ※語り「ふな問やの小娘に玉のかんむりなみまくのしゆずの音ざつくにかけのしう%＼のいかりづな／つるべすしやの花嫁に十二ひとへのにみまからはつねのつづみち、つホ、ウは父母のしらべなわ」。	源ノよしつね（辰の助）、武蔵坊弁慶（虎造）、若葉内侍（国三郎）、主馬小金吾（清十郎）、しづか御前（重八）、川ごへ太郎（虎造）、狐忠信（一暁）、典侍ノ局（清十郎）、渡海や銀平・平ノとも盛（一暁）、いがみノ権太（一暁）、すしや弥左衛門（新吾）、娘おさと（咲造）、三位惟盛（重八）、梶原平三（虎造）、横川かくはん（虎造）、佐藤忠信（一暁）。
一八四一	天保12	1/5～	道頓堀竹田芝居	義経千本桜	椎の木の段（口半、おく力）、すしやの段（切三光斎）。	若葉内侍（善太郎）、小金吾武里（徳二郎）、いがみの権太（文三）、すしや弥左衛門（新吾）、おさと（国八）、すしや弥助（仙子）、かぢ原平三（金四）。
一八四二	天保13	1/2～	稲荷社内東芝居	義経千本桜 大序ヨリ 四だん目まで	大序（律、登代）、初段（口真島、中登茂、切文字、越）、三段目（口翁、おく小松、中勢イ見、切音羽、中長門、切梶）、三段目（口喜代、次梶、おく音羽、切綱）、道行はつねの旅（文字・錦木・喜代）、四段目（中越、次梶、切勢イ見、跡小松）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※四段目の次に「狐忠信 かくはん 愛坂坊／吉田金四 右三やく出づかひ早がはりに二而相勤申候」と記す別番付あり。 ※「序切中に役割有て渡海屋の段口より謡迄勤る」（『増補浄瑠璃大系図』竹本登茂太夫の条）。	源よし経（咲造）、武蔵坊弁慶（金三）、若葉内侍（竹吉）、主馬小金吾（新五郎）、静ござん（辰五郎）、川ごへ太郎（喜十郎）、きつね忠信（金四）、すけのつぼね（辰造）、平ノとも盛（徳蔵）、いがみノ権太（金四）、すしや弥左衛門（徳蔵）、娘お里（辰五郎）、すしや弥助（辰造）、梶原平三（喜十郎）、横川かくはん（金四）、佐藤忠信（喜十郎）。
一八四三	天保14	2	名古屋	千本桜	三段目（巴）。 ※素浄瑠璃興行力。	
一八四三	天保14	3/25～26	丹後宮津芝居 北国屋	千本桜	※豊竹橋太夫座頭、竹本梶太夫追抱きの興行。 ※『染太夫一代記』に拠る。	

一八四三	天保14	閏9	道頓堀若太夫芝居	義経千本桜 大序ヨリ 三段目マデ	大序（口和、切志賀）、初段（口登茂、次実、中頼茂、切津賀）、二段目（口真島、中千賀、切音羽）、三段目（口実、ヲク頼茂、切綱=広助）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	よしつね（金三）、弁慶（文五郎）、内侍（国五郎）、小金吾（文造）、しつか（清十郎）、川越太郎（文造）、忠信（新吾）、助の局（清十郎）、友もり（才二）、いがみノ権太（新吾）、弥左衛門（才二）、すしや娘お里（清十郎）、これもり（辰蔵）、梶原（金三）。
一八四四	天保15	1	京 宮川町芝居	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序（賀、亀）、室町館のだん（口登茂、中中、切千賀）、稻荷森のだん（口文、おく音羽）、渡海やのだん（口真島、中綱、切津賀）、椎の木の段（実、長登）、すしやの段（綱）、道行初音の旅路（むら・文・蔦・むめ）、御殿のだん（口登茂、中津賀、切長登、跡実、見台ぬけ相勤申候吉田兵吉）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	よしつね（辰之助）、弁けい（文五郎）、若葉の内侍（文二）、小金吾（重八）、しづか（兵吉）、川ごへ太郎（兵吉）、きつね忠のぶ（新吾）、すけのつばね（東三）、渡海や銀平・平ノとも盛（才治）、権太（新吾）、すしや弥左衛門（才治）、娘おさと（重八）、弥介（辰之助）、梶原平三（文五郎）、横川かくはん（兵吉）、忠信（新吾）。
△ 一八四四	天保15	8/17以後	徳島式軒家 潮見寺	千本桜	三の口木の実（長登）。 ※『染太夫一代記』に拠る。	
一八四四	天保15	9	道頓堀東竹田芝居	義経千本桜 大序より 三段目まで	大序（米、梅、大見、和、磯）、初段（口今、中巴、切島）、式段目（口栄、次多賀、おく大住、口峰、中靱、切大登）、三段目（口島、おく春、切巴）。	よしつね（徳十）、べんけい（福之助）、小金吾（福之助）、静御前（徳十）、忠のぶ（辰造）、すけの局（清十郎）、とももり（文三）、いがみノ権太（門蔵）、すしや弥左衛門（文三）、娘おさと（辰造）、弥助（辰造）、梶原平三（冠四）。
一八四六	弘化3	3	道頓堀竹田芝居	義経千本桜 大序ヨリ 四段目迄	大序（弥生、弦）、初段（口百合、中筆隅、八十、切千賀）、二段目（口弦、ヲク源、次真島、中淀、切岡）、三段目（口当久、中錦、切綱）、道行の段（シテ頼・ワキ八十・ツレ百合）、四段目（口淀、中当久、切勢見、跡真島）。	よしつね（文十郎）、弁慶（猪造）、若葉の内侍（国助）、小金吾（金吾）、静御前（重八）、川越太郎（徳蔵）、狐忠信（門蔵）、介の局（門蔵）、とももり（新五郎）、権太（徳蔵）、弥左衛門（門蔵）、おさと（新五郎）、これもり弥介（金吾）、梶原平三（猪造）、佐藤忠信（新五郎）。
一八四六	弘化3	5/9～	京 左女牛北側芝居	千本桜	三ノ口（岸）。	
一八四七	弘化4	10/5～	紀州 建がし芝居	千本桜	（大道具八段返し 狐忠信つゞみぬけ 中村常十郎早かわり仕候）。 ※淡路の座本中村久太夫による興行。	
一八四九	嘉永2	1/9～	西横堀清水町浜	千本桜	三段目（若=団平）。 ※「緑り浄瑠璃」の内。	

	一八四九	嘉永2	1	堺新地南芝居	義経千本桜	椎ノ木のだん（口町）、すしやの段（切巴）。	内侍（音吉）、小金吾（虎蔵）、いがみノ権太（新吾）、すしや弥左衛門（文三）、娘おさと（辰之助）、弥介（国三郎）、梶原平三（喜十郎）。
	一八四九	嘉永2	閏4/8～	京 左女牛北側芝居	千本桜	三（むら）。 ※素浄瑠璃興行。	
	一八五〇	嘉永3	1/19～	新築地御池橋浜	千本桜	三（小梶＝清造）。	
△	一八五〇	嘉永3	3/21～	播州 明石平松山	千本桜	三（豆熊＝熊吉）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃/12～	播州 高砂相生裏門	千本桜	三（豆熊）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 大 咲	義経千本	三（豆熊）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州 姫路竜ノ町	千本桜	三（豆熊）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州網干 綿屋作兵衛宅	義経千本桜	三（豆熊）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州網干 大 江 島	千本桜	（豆熊）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	夏頃	播州網干 横 町	千本	（豆熊）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	9前半カ	西横堀鰻谷	千本桜	三（熊登）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五〇	嘉永3	10カ/14	丹後田辺付近 願 蔵 寺	千本	（峰）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五一	嘉永4	1	道頓堀竹田芝居	義経千本桜 五段つゞき	大序大内ノ段（森、稲）、堀川御所ノ段（口梶サ、切多満、実）、伏見の森ノ段（口梶サ、おく理）、渡海屋銀平住家の段（口市、中二見、切中）、てつかいが峰一つ家の段（口佐賀、中実、切湊＝勝右衛門）、しいの木ノ段（口多満、跡喜代）、すしやノ段（切長登）、道行初音の旅（シテ八重・ツレ理・ワキ寅）、御殿ノ段（口浪、切越前大掾）。 ※角書「大物船矢倉／吉埜花矢倉」。 ※語り「船問屋の小むすめ二玉の冠浪枕の数珠の音ざつくとかける主従のいかりづな／釣瓶すしやの花嫁二十二一重のい枕はつ音のつゞみちゝぽゝは父母のしらべなわ」。	よしつね（新蔵）、弁けい（大治郎）、若葉ノ内侍（市松）、小金吾（新五郎）、静御前（辰造）、川こへ太郎（新蔵）、狐忠信（門蔵）、郷の局（新蔵）、銀平・平ノ友もり（新五郎）、権太（文三）、弥左衛門（門蔵）、娘おさと（辰造）、すしや弥介（新蔵）、梶原平三（新五郎）、佐藤忠信（門蔵）。
	一八五二	嘉永5	1	清水町浜小家	千本桜	三ノ口（梶さ）。	
	一八五二	嘉永5	8/16～	京 寺町道場南新小屋	（義経千本桜）	北さが（叶）。	

	一八五二	嘉永5		芸州 己斐村あたこ□芝居	千本桜	道行（忠信－小梅・しづか－小巻力）。 ※太夫による芝居興行の可能性あり。	
	一八五三	嘉永6	1/13～	新築地清水町浜小家	義経千本桜 大序より 四段目まで	寿橋弁慶（シテ綱・ワキ対馬）、大内山の段（田勢、咲代、咲美）、菴室段（輝、光）、堀川御所の段（口久、切当久）、稻荷森の段（口塚、次田喜）、渡海屋の段（中三国、切咲）、椎樹の段（口当久）、鮎やの段（切三光斎）、道行初音の鼓（むら・ツレ田喜・咲尾）、吉野山御殿の段（口久、切綱、跡三国）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	
△	一八五三	嘉永6	11月30日	播州 明石平松山	千本	（左の）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△	一八五三	嘉永6	12月1日	播州 明石平松山	千本	（さの）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
	一八五五	安政2	1/2～	京 寺町寅薬師寺内	義経千本桜	椎の木のたん（寿）、すしやのたん（三光斎）、道ゆき（山登・寿・蔦・初）、御てんの段（中成、切津賀）。 ※「かげゑ」浄瑠璃興行。	
	一八五五	安政2	10/6～	京 四条北側大芝居	義経千本桜	しいの木之段（勇）、すしやのたん（巴＝燕三）。	若葉内侍（文六）、小金吾（勇蔵）、いかみごん太（文三）、すしや弥左衛門（兼三郎）、娘おさと（喜十郎）、すしや弥介（国三郎）、梶原景時（喜十郎）。
	一八五六	安政3		1 江戸 堺町楽屋新道 五 鱗 亭	初音の旅路段	道行の段（引合語り合＝文蔵・弥三郎、忠信＋うかれ座頭＋運平＋おふく＋きつね 吉田国五郎／右五変化所作事つゝみ抜早替り相勤申候）。	しづか（文四）、忠信（国五郎）。
	一八五六	安政3	6/22～	備中 普賢院天満宮	義経千本桜	大序ヨリ大切迄。 ※普賢院天満宮祭礼人形興行。	（不明）
	一八五七	安政4		4 御霊御社内	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序（福寿）、室町の段（三羽）、渡海屋のたん（喜の、歳、鳴戸、司）、椎の木のたん（歳、鳴戸）、すしやの段（鰻）、いなり森の段（蒼）、道行初音の旅（百合・蒼・巴根）、御殿のたん（百合、筑前）、築地の段（津加）。 ※角書「昔語／仮書」。 ※番付に人形役割はないが、「吉田連相勤申候」とあるので、おそらく人形入りで演じられたと思われる（『義太夫年表 近世篇』）。	（不明）

	一八五八	安政5	1	稲荷社内東小家	義経千本桜 大序より 五冊目迄	大内のだん（浅羽、友、千鳥）、北野松原の段（喜志、曾根）、堀川御殿の段（中田喜、切弥）、稲荷森の段（口当勢、おくむら）、嵯峨野庵の段（中理、切春）、加島村のだん（口和国、おく多満）、渡海屋のだん（中佐賀、次当久、切湊）、椎の樹の段（口音賀、おく弥）、鮎屋の段（切長登）、道行初音の鼓（カケ合むら・田喜・和国）、吉野山御殿の段（中当久、切染）、築地のだん（跡理）。 ※角書「大物舟矢倉／吉野花矢倉」。 ※『増補浄瑠璃大系図』竹本春太夫の条に「安政五年戊午二の替り千本桜嵯峨庵室の段稽古中同五日の夜芝居類焼致し」とある。また本年4月吉日よりの稲荷社内東小家「義経千本桜」の番付には「安政五年戊午 当年正月六日朝文楽類焼して…」と六代目染太夫の書込みがある。従ってこの正月興行は行われなかったことになる(『義太夫年表 近世篇』)。	よしつね（才蔵）、弁けい（文治）、若葉内侍（竹吉）、主馬小金吾（兼枝）、静御前（兵吉）、川越太郎（文三）、きつね忠信（新吾）、すけの局（兵吉）、渡海や銀平・平ノ友盛（清七）、いかみの権太（玉造）、弥左衛門（文三）、おさと（新吾）、すしや弥介・惟盛（才蔵）、梶原平三（兵吉）、横川かくはん（兼枝）、佐藤忠信（新三）、熊谷連生坊（清七）、主馬判官盛久（玉造）。
	一八五八	安政5	4	稲荷社内東小家	義経千本桜 大序より 五冊目迄	※前項興行が火事の為不能となり、再興後の第1回興行として同外題が上演された。番付は前項正月興行のものを月のみ改刻して流用している。初日については、六代目染太夫の番付書込みが「新芝居四月廿日初日」とし、他の番付書込みは「来ル十八日」とする。石割松太郎『近世邦楽年表』書入れも「十八日」とするが決定しがたい(『義太夫年表 近世篇』)。	
	一八五八	安政5	5/5～	京 四条道場北小家	千本桜	椎の木だん（鯉津＝広市）。 ※「かげゑ」浄瑠璃興行。	
△	一八六〇	安政7	3月3日	阿州 上ノ浦	義経千本桜	川越使者（狭間）、渡海屋（常、栄）、茶見世（長子）、金吾殺シ（村尾）、すし屋（筑後）、道行（栄・村尾）、御殿ノ段（当喜、鹿島）、敵討（筑さ）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	(不明)
△	一八六〇	万延1	4	御霊裏門	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序（当＝寛六）、渡海屋の段（八木＝燕勝、い＝猿之助、音の＝権四）、椎の木の段（紋＝猿八）、金吾殺の段（森＝権四）、鮎屋の段（富司＝燕二）、初音の旅路（森・加賀・鳴瀬＝燕四・猿八・猿之助・燕勝・寛六）、吉野山御殿の段（加賀＝燕勝、錦＝燕四・燕勝）。 ※首振り芝居。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	
△	一八六〇	万延1	5/21・24～25	淡州 佐野	千本桜	※『弥太夫日記』に拠る。	

△	一八六一	文久1	3	座摩裏門	義経千本桜	大序（八木）、稲荷森の段（口勝見、奥要）、渡海屋の段（口有馬、中東、切音の）、嵯峨庵の段（口要、中三浦、切森）、茶見世の段（口勝見、奥久）、鮭屋の段（切若）、道行初音の旅路（シテ錦・ワキ久・ツレ森）、御殿の段（口有馬、中三浦、切越）、築地の段（東）。 ※首振り芝居。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	
	一八六二	文久2	1	京 四条南側大芝居	義経千本桜 大序より 三段目迄	御てんのだん（菊、曾我、直、小町）、御能のだん（曾我、春の、直）、堀川御所ノ段（口小町、次鶴尾、中小津賀、切宮戸）、稲荷森の段（口氏戸、奥小津賀）、渡海屋の段（口大美、次鶴尾、切鰈）、八島ノ浦の段（富）、椎ノ木の段（口阿蘇、奥宮戸）、すしやの段（切春）。 ※角書「大物の船櫓／吉埜の花櫓」。 ※別番付では、御てんのだん（伊磨、菊、直、曾我、小町）、御能のだん（春の、直）、堀川御所ノ段（口曾我、次小町、中小津賀、切宮戸）。	よしつね（冠十郎）、弁けい（源十郎）、若葉内侍（冠三郎）、小金吾（金花）、しつか御前（辰三郎）、川越太郎（清七）、佐藤忠信（金花）、助ノ局（兵花）、平ノ知盛（金花）、いかみ権太（門十郎）、すしや弥左衛門（清七）、すしやお里（辰造）、すしや弥介（冠十郎）、梶原平三（門蔵）。
	一八六二	文久2	3	道頓堀東竹田芝居	義経千本桜 大序より 三段目迄	大内御殿ノ段（口伊磨、次菊、曾我、おく筆尾）、嵯峨庵室ノ段（口小町、跡氏戸）、堀川御所のだん（口筆尾、次曾我、中鶴尾、切町）、稲荷ノもりノ段（口氏戸、おく当組）、渡海屋のだん（口小町、次大美、中常盤、切鰈）、椎ノ木ノだん（中口事綱登、伊達）、すしやノ段（切長尾）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。	よしつね（冠十郎）、弁慶（金花）、若ばノ内侍（熊吉）、小金吾（冠十郎）、しつか御ぜん（熊吉）、川越太郎（門蔵）、忠信（金花）、女房お柳・すけノ局（兵花）、平ノ知盛（松楽）、権太（松楽）、弥左衛門（門蔵）、娘お里（辰造）、弥介（冠十郎）、梶原（辰造）。
	一八六三	文久3	1	座摩うら門小家	義経千本桜 大序より 四段目まで	大序（富さ、富田羽、三好）、序中（口艶）、序切（口是、切東、二見）、稲荷ノ森の段（口い、奥富司）、渡海屋のだん（口尾木、次若佐、中若、奥鰈、切錦）、椎ノ木の段（其、長尾）、すしやノ段（切若）、道ゆきのだん（シテ錦・ワキ二見・ツレ尾木・ツレ道）、御殿の段（中二見、切富司、かけ合跡其・是・い）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※別番付では、渡海屋のだんに「此所吉田辰造出つかひ早替り」、御殿の段に「此所吉田兵吉出つかひ早替り」と記載。	よしつね（小兵吉）、弁慶（兵三郎）、若葉ノ内侍（辰之助）、小金吾（与市）、しつか御前（辰造）、川越太郎（金花）、狐忠信（兵吉）、すけノ局（琴三郎）、知盛（辰五郎）、権太（兵吉）、弥左衛門（金花）、お里（辰造）、弥介（辰五郎）、梶原平三（与市）、横川覚範（千次郎）、忠信（源十郎）。
△	一八六三	文久3	3	阿弥陀池寺内	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序（悦、富田羽）、稲荷森の段（千歳）、渡海屋の段（尾上、鳴瀬、富）、茶店の段（宇佐、千鳥、百合）、鮭屋の段（津賀）、道行初音の旅路（ワキ百合・シテ鳴戸・ツレ鳴瀬）、御殿の段（千歳、音の）、築地の段（尾上）。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	
△	一八六三	文久3	11	西宮 西宮東芝居	義経千本桜	※『近世邦楽年表 義太夫節之部』祐田善雄書入れに拠る。	

△

一八六四	文久4		1 福島上天神隣席	義経千本桜	御殿の段（勝、錦）。 ※浄瑠璃身振りカ。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』に拠る。	
一八六四	元治1	4/14～	いなり東小家	義経千本桜 大序より 大切まで	大序 大内のだん（鶴、みす、喜野、登磨、田美、左馬、理久）、北ノ森のだん（常、竜、岩戸）、堀川館の段（中浪登、切筑前）、伏見稻荷の段（口和、奥佐賀）、北嵯峨庵の段（中実、次住、切咲）、加島村のだん（口常、奥多満）、渡海屋の段（中実、次長枝、切染）、椎ノ木の段（口浪登、奥弥）、釣瓶寿しや段（切長登）、道行花の玉垣（筑前・住・和）、川連館の段（中長枝、切湊）、奥庭の段（佐賀、吉田玉造／此所人形早かはりニ而奉御覧ニ入候）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	よしつね（玉三郎）、武蔵坊弁慶（小兵吉）、若葉ノ内侍（玉之助）、小金吾（玉三郎）、静御前（松江）、川越太郎（喜十郎）、狐忠信（玉造）、すけノ局（喜十郎）、平ノ知盛（才治）、いがみノ権太（玉造）、弥左衛門（才治）、娘お里（松江）、弥介・平ノ惟盛（小兵吉）、梶原平三（喜十郎）、横川覚範（玉造）、佐藤忠信（安蔵）、主馬ノ判官（玉造）、熊谷蓮生坊（才治）。
一八六四	元治1		10 御霊うら門	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序（宝、福、寿）、序中（伊登）、川越使者の段（口い寿、切富）、いなりの森のたん（口美芳、奥い）、渡海やの段（口若美、中巴津、切内匠）、椎の木の段（口若美、奥其）、すしやのだん（切若）、道行の段（シテ二民・ワキい・ツレ美芳）、御殿の段（中二民、切久、此所人形出つかひにて吉田兵吉相つとめ申候）。	よしつね（小兵吉）、若葉内待（為造）、小金吾（兵吉）、しつか御前（兵吉）、川越太郎（文三）、狐忠信（兵吉）、道行忠信（辰五郎）、すけの局（辰五郎）、知もり（源十郎）、ごん太（辰五郎）、弥左衛門（源十郎）、おさと（兵吉）、弥介（小兵吉）、かし原平三（文三）、忠信（文三）。
一八六六	慶応2	3/3～	京 四条道場北ノ小家	義経千本桜 大序より 四段目マテ	大内之だん（要鯉＝小兵、賀シ輪＝弥一郎）、嵯峨之段（要鯉＝常吉、津＝小熊）、堀川御所ノ段（口蔦＝喜市、切阿蘇＝万八）、稻荷ノ森の段（賀シ輪＝常吉、津賀子＝庄之助）、渡海やのだん（口春戸＝鶴太郎、中相模＝団六、次大内＝吉兵、切宮戸＝兵吉）、椎ノ木のだん（口津＝小熊、ヲク浜＝亀助）、すしやノ段（切山城掾＝広左衛門）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	
一八六八	慶応4		3 京 四条道場北ノ小家	義経千本桜 大序ヨリ 御殿場マデ	大序（豊＝虎次郎）、堀川御所之段（口蔦＝鱗吾、切むら＝喜代七）、稻荷の森の段（須磨＝燕勝、津＝小兵）、渡海屋のだん（口春戸＝常吉、中和石軒＝団六、切津賀＝豊吉）、嵯峨庵室のだん（口春栄＝弥市、切氏＝源之助、長尾＝鱗糸）、椎ノ木ノ段（三光齋＝伊達蔵）、すしやノ段（切春＝吉兵衛）、道行初音の鼓（シテ氏・ワキむら・ツレ津＝庄次郎・源之助・鱗糸・団六・喜代七・常吉・小兵・鱗吾）、義経御殿の段（中相模＝時造、切対馬＝吉弥・ツレ小兵・鱗吾）。 ※角書「大物の舟櫓／吉野の花櫓」。	

一八七〇	明治3	3	いなり東芝居	義経千本桜 大序より 大切まで	大序 大内のだん（松栄、春馬、咲木、稲葉、柁）、北野の森の段（豊、左馬、常）、堀川館のだん（中多満、切中）、奥庭のだん（音羽）、伏見いなりの段（口理久、奥むら）、嵯峨野庵のだん（中三根、越路、切実）、加島村の段（口七、奥浪）、渡海やのだん（中音羽、次染子、切湊）、椎の木の段（口春戸、奥住）、釣瓶すしやの段（切春）、道行花の玉垣（むら・三根・理久、忠のぶ吉田玉造／静御前 吉田辰造／右兩人出遣ひ御覧に入申候）、川連館のだん（中中、次越路、切咲、此所早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、芳野山の段（染子、狐忠のぶ+横川覚範+あいさか坊 吉田玉造／右三役出遣い早替りにて御覧に入申候）。 ※角書「大物船櫓／吉野花櫓」。 ※「三月廿四日ヨリ四十五日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※「川連館のだん・切」竹本咲太夫休演、竹本越路太夫代演（『義太夫年表 明治篇』）。	源ノ判官義経（辰之助）、武蔵坊弁慶（光造）、若葉の内侍（鹿造）、主馬の小金吾（玉助）、静御前（辰造）、川越太郎（玉之助）、狐忠信（玉造）、女房おりゆう・典侍の局（喜十郎）、渡海や銀兵へ・新中納言知盛（玉造）、ごん太（玉造）、弥左エ門（喜十郎）、娘おさと（辰造）、すしや弥介・三位中将維盛（玉助）、梶原平三（玉之助）、横川覚範（玉造）、佐藤忠信（玉之助）、主馬判官盛久（喜十郎）、熊谷蓮生坊（辰之助）。
一八七三	明治6	2	松嶋文楽座	義経千本桜 大序より 大切迄	大序 大内のだん（越子、靱尾、路丸、越の、う、靱登、梶代）、北野の森のだん（春馬、鰻、園）、堀川館夜討の段（中頼、切中）、同奥庭の段（豊）、伏見いなりの森静別れの段（口町、奥梶）、嵯峨野庵のだん（中春栄、切むら、古靱）、加嶋村のだん（口路、奥弥=*徳太郎）、渡海や銀平住家のだん（中三根、次梶、切染、越）、椎の木権太かたりのだん（口路、奥実）、小金吾討死段（養老）、釣瓶すしやの段（切春）、道行花の玉垣（むら・春栄・豊、狐忠のぶ吉田玉造／しづか 吉田辰造／此所右兩人出つかひにて相つとめ申候）、川連法師やかたのだん（中三根、切越路）、よしの山の段（町、狐忠のぶ+覚範+あい坂坊 吉田玉造／此所右三役出つかい早かわりにて御覧入申候）。 ※角書「大物の舟櫓／吉野の花櫓」。 ※「二月十三日ヨリ四十七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	源のよし経（玉助）、武蔵坊弁慶（光造）、若葉の内侍（鹿造）、主馬小金吾（玉助）、静御前（辰造）、川越太郎（喜十郎）、狐忠のぶ（玉造）、助の局（辰五郎）、渡海や銀平・平の知盛（喜十郎）、いがみの権太（玉造）、弥左エ門（喜十郎）、むすめおさと（辰造）、弥介（玉助）、梶原平三（玉治）、横川覚範（玉造）、四郎兵へ忠信（清七）、主馬判官盛久（玉造）、蓮生坊（光造）。
一八七五	明治8	1	堀江芝居	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序（宮、田古、芳尾、篤、浜の）、大内山のだん（嶋登、小浜）、堀川御所の段（口浜登、切嶋）、奥庭のだん（織尾）、伏見稲荷の段（十三、春戸）、渡海やのだん（口靱登、中春子、切文字）、加嶋村寺子やの段（靱栄、山四郎）、椎の木の段（小賀、津）、すしやの段（切古靱）、道行花の玉垣（シテ文字・ワキ津・ツレ織の・ツレ越の）、川連館の段（中嶋、切織）。 ※角書「大物船櫓／吉野の花櫓」。	よしつね（新三郎）、武蔵坊弁慶（兵三）、若葉内侍（新三郎）、主馬小金吾（兵三）、静御前（東十郎）、川越太郎（東十郎）、狐忠信（辰造）、助の局（辰太郎）、渡海や銀平・新中納言知盛（光造）、いがみの権太（光造）、すしや弥左エ門（勢造）、娘おさと（辰造）、すしや弥介（兵三）、梶原平三（小辰改寛四）、四郎兵へ忠信（小辰改寛四）。

一八七五	明治8	5	名古屋 亀の家座	千本桜	椎ノ木（小賀＝伝次郎）。すしや（伊達＝亀助）。 ※「浄瑠璃大寄」の内。	
一八七五	明治8	11	竹田芝居	千本桜	椎の木（幾＝吉丸）。 ※素浄瑠璃。	
一八七六	明治9	11	弁天座	義経千本桜 盛七株	大序（春）、大内館のだん（靱茂、古登、路久、田手、津和、入）、北の森の段（織部、浪花、豊）、堀川館のだん（田古、切嶋、文字）、伏見稻荷の段（曾我、長枝）、渡海やのだん（織の、頼、切久）、かしま村の段（靱登、切山四郎）、北嵯峨庵室のだん（多門、春戸、切綱）、椎の木のだん（十三、嶋）、すしやの段（切春）、初音の旅路（シテ文字・ワキ豊・ツレ多門＝団平・友之助・吉三郎・兵吉）、川連館のだん（靱栄、春子、切古靱）、一目千本戦の段（新靱＝吉左衛門）、寿口諷花種蒔（綱＝新左衛門）、吉野山のだん（春＝団平、古靱＝清六、伊勢三郎＋横川覚はん＋狐忠信＋佐藤忠のぶ＋弁才天＋しづか御前＋義経 吉田辰五郎／早替りにて相つとめ申候）。 ※角書「大物船櫓／吉野花櫓」。	義経（勇造）、弁慶（駒十郎）、若葉の内侍（勢造）、主馬小金吾（勇造）、静御前（鹿造）、川越太郎（勢造）、狐忠のぶ（辰五郎）、介の局（冠四）、渡海や銀平・平知盛（辰五郎）、いがみの権太（辰五郎）、弥左エ門（喜十郎）、娘お里（鹿造）、すしや弥介・これ盛（友造）、梶原平三（門造）、佐藤忠信（栄造）、主馬判官（門造）、熊谷蓮生坊（駒十郎）。
一八七七	明治10	2/13～	弁天座	（義経千本桜）	すし屋（春子）。すし屋（織の）。 ※「過し日の／其年月も／めぐり来て 連當手向の薫樹 礼拝三度」の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
一八七八	明治11	1	松嶋文楽座	義経千本桜 大序より 大切まで	大序 大内山の段（の、津瑠、組栄、弥津、芳）、北野森のだん（越代、袖、田喜）、堀川御所夜討の段（中越の、切実、跡路）、伏見稻荷の森静別のだん（口登勢、奥春子）、嵯峨野庵室の段（中長子、切津、弥）、加嶋村のだん（口田喜、奥組）、渡海や銀平住家のだん（中三根、次梶、切住）、椎の木権太かたりのだん（口長子、奥弥）、小金吾討死の段（津）、釣瓶鮎やの段（切越路）、道行花の玉垣（かけ合三根・春子・登勢・芳、忠のぶ 吉田玉造／静御前 桐竹紋十郎／此所出つかひにて御覧に入申候）、川連法眼館のだん（中組、切梶、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、吉野山のだん（路）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※「一月一日ヨリ卅四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	源義経（鹿造）、武蔵坊弁慶（玉治）、若葉の内侍（小玉）、小金吾（玉助）、静御前（紋十郎）、川越太郎（東十郎）、狐忠信（玉造）、典侍の局（東十郎）、渡海や銀平・平の知盛（玉助）、権太（玉造）、弥左衛門（玉治）、むすめおさと（紋十郎）、弥介・平の惟盛（辰吉）、梶原平三（玉助）、横川覚範（玉造）、佐藤忠信（玉治）、蓮生坊（玉治）、主馬判官盛久（玉造）。
一八七八	明治11	10/1～	京都 せいぐわんじ本堂前 夷谷座	義経千本桜 大序より 大切迄	堀川御所之段（喜代）、稻荷森の段（亀尾）、しいノ木之段（亀尾）、すしやのたん（伊達）、道行初音旅路（操・君・亀尾）、法眼館の段（操）、狐之段（若）。 ※浄瑠璃身振り。	
一八八〇	明治13	3/1～	京都 道場演劇	（義経千本桜）	椎の木（桂）。	

一八八〇	明治13	4	御霊土田席	義経千本桜 大序より 大切まで	大序 大内のだん（見習 鞠子、咲分、柳）、北野森のだん（見習 桂、咲梅、津田）、堀川館のだん（和、橘）、夜討の段（春 戸）、伏水稻荷の段（咲梅、源）、渡海やのだん（富、頼、久）、加嶋村の段（綾賀、咲代）、嵯峨野庵室のだん（呂鳳、朝、呂）、椎の木のだん（咲）、釣瓶すしやの段（綾瀬）、道行花の玉垣のだん（シ 橘・ワ 朝・ツレ 綾賀・柳、早見藤太 吉田才治 / 忠のぶ 吉田辰五郎 / しづか 吉田七平 / 此兩人出つかひ早替りにて御覧に入申候）、川連館の段（富、嶋）、吉野山のだん（源、狐忠信+覚はん+あいさか坊 吉田辰五郎 / 此所右三役出つかひ早かわりにて御覧に入申候）。 ※角書「大物の船櫓 / 吉野の花櫓」。	源の義経（小辰造）、武蔵坊弁慶（栄造）、若葉内侍（喜市）、主馬小金吾（兵三）、静御前（辰造改七平）、川越太郎（勢造）、狐忠のぶ（辰五郎）、助の局（冠四）、渡海や銀平・平の知盛（才治）、いがみの権太（辰五郎）、すしや弥左衛門（才治）、すしや娘おさと（小辰造）、すしや弥介・平の唯盛（辰太郎）、梶原平三（兵三）、横川覚範（辰五郎）、佐藤忠信（富十郎）、主馬の判官（辰五郎）、熊谷蓮生坊（才治）。
一八八二	明治15	3	松嶋文楽座	千本桜 大序より 大詰まで	大序 八嶋のだん（津矢、浪花、梶代、むら尾、稲、梶賀、梶サ）、大内御てんの段（梶賀、七五三、弥津）、北野馬場先の段（中大倉、切実）、堀川御所夜討のだん（中 栄、切 氏、跡谷）、伏見いなりの森静別れのだん（口 梶栄、奥 路、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、嵯峨野庵室の段（中 多門、切 津、弥）、加嶋村のだん（口 袖、奥 むら）、渡海や銀平住家のだん（中 氏、次 弥、切 重）、椎の木権太かたりのだん（口 多門、奥 津）、主馬小金吾討死の段（組）、釣瓶すしやのだん（切越路 = * 団平）、道行花の玉垣（かけ合 重・むら・谷・梶栄 = 団平・新左衛門・ツレ 門弟中、狐忠信 吉田玉造 / 静御前 桐竹紋十郎 / 右兩人出つかひにて相つとめ申候）、川連法眼館のだん（中路、切 染、此所出つかひ早替り仕り候 吉田玉造）、吉野山のだん（組、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候）。 ※角書「大物の舟櫓 / 吉野の花櫓」。 ※「三月廿四日ヨリ五月廿一日マデ五十八日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	九郎判官義経（紋三郎）、武蔵坊弁慶（玉之助）、若葉内侍（紋之助）、主馬小金吾（亀松）、静御前（紋十郎）、川越太郎（玉治）、狐忠信（玉造）、典侍の局（鹿造）、渡海や銀平・新中納言知盛（玉助）、いがみの権太（玉造）、弥左衛門（玉治）、娘お里（紋十郎）、弥介・平これ盛（亀松）、梶原平三景時（玉助）、横川覚範（玉造）、四郎兵へ忠信（玉之助）、主馬判官盛久（玉助）、蓮生坊（玉治）。

一八八五	明治18	2/28～	いなり北門 彦六座	義経千本桜 大序より 大切まで	<p>大序 八嶋のだん（朝の、組尾、住香、勇、組路、鹿、源氏、登勢）、大内御てんのだん（住の、鷹、津代）、北野社のだん（組代、旭、組子）、堀川館の段（若靱、富司）、奥庭のだん（生嶋＝＊友松）、伏見稻荷森のだん（信、源）、嵯峨野庵室のだん（隅栄、越＝＊吉三郎）、加嶋村のだん（生嶋、田喜）、渡海やのだん（山登、町、大隅）、椎の木の段（芳、源）、主馬小金吾討死のだん（千駒）、釣瓶寿し屋かたりのだん（組＝＊団平）、同 梶原討手の段（柳適＝＊団平）、道行花の玉垣（シテ 富司・ワキ 田喜・ツレ 芳・ツレ 豊嶋＝団平・広作・ツレ 権平・ツレ 浜之介・ツレ 新昇・ツレ 広松、此所出つかひ早替り大道具入大仕かけにて御覧に入申候 吉田辰五郎）、川連館の段（千駒、住＝勝七・友松、此所出つかひ早替りにて御らんに入申候）、よしの山の段（歳、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候）。</p> <p>※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。</p> <p>※「奥庭のだん」「川連館の段」の三味線は『道八芸談』に拠る。</p> <p>※『千賀女日記』では3月1～22日の公演とする。</p> <p>※「彦六座で「千本桜」の道行が出た時に、二階の客席前の手摺から膝隠しへと、提灯が一度に吊るされる工夫などがあつた。その提灯が独楽提灯竹提灯などで、この提灯が延びると桜花の爛漫となるなどの仕掛で、当時の幼稚な人目を驚かしたのなどゲンマ（文楽座道具方・中川源松）の腕、工夫だつた」（『近世演劇雑</p>	源よし経（玉松）、武蔵坊弁慶（兵吉）、若葉内侍（松江）、主馬小金吾（兵三）、静御前（亀松）、川越太郎（兵三）、四郎忠信（栄造）、助の局（三吾）、渡海や銀平・平知盛（亀松）、すしや弥左衛門（才治、辰五郎）、むすめお里（三吾）、すしや弥介・これ盛（玉松）、梶原景時（兵吉）、覚範（栄造）、盛久（兵吉）、熊谷（栄造）。
一八八五	明治18	3	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 大詰まで	<p>大序 八島のだん（越江、陸路、浜子、尾木、尾上、浪尾、弥の）、義経勇戦のだん（小住、美濃、呂子、新呂、絹）、大内御殿の段（左大将一長登・義経一岡・弁慶一梶エ・大之進一弥津）、北野馬場先の段（口 常子、奥 額）、堀川館夜討のだん（中袖、切 路、跡 越代）、伏見いなりの森静別れのだん（口 富、奥 津、出遣ひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、嵯峨野庵室のだん（中 織、次 谷、切 呂）、加嶋村のだん（口 競、奥 南部）、渡海や銀平住家のだん（中 多門、次 長尾、切 浪、時）、大仏供養の段（中 春戸、切 弥）、椎の木のだん（口 春栄、奥 長尾）、すしやの段（切 越路）、道行花の玉垣（かけ合 時・谷・競・越代・美濃＝広助・叶・門弟中、忠のぶ 吉田玉造／静御前 桐竹紋十郎）、川連法眼館段（中 織、切 津、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、庭先きのだん（氏）、吉野山のだん（かけ合 路・春栄・常子・百合、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）。</p> <p>※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。</p> <p>※「三月六日ヨリ卅日間」（『義太夫年表 明治篇』）。</p>	源九郎判官義経（辰枝）、武蔵坊弁慶（玉七）、若葉の内侍（紋之助）、主馬小金吾（玉七）、静御前（紋十郎）、川越太郎（玉七）、狐忠信（玉造）、典侍の局（燕造）、渡海や銀平・新中納言知盛（玉助）、いがみの権太（玉助）、すしや弥左エ門（玉造）、娘お里（紋十郎）、三位中将維盛（玉七）、梶原平三（玉治）、横川覚範（玉助）、佐藤忠信（玉七）、主馬判官盛久（玉助）、熊谷蓮生坊（玉治）。

△	一八八六	明治19	10/20～	東京 浜町一丁目 久 浜 楼	義 経 千 本 桜	※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。出演は竹本綾瀬太夫、八重太夫、浜太夫、鶴沢豊造、清六、野沢語八、語七、竹沢燕平、吉田国五郎、吉田冠造など。	(不明)
△	一八八八	明治21	2月17日	名古屋 末 広 座	義 経 千 本 桜	鮎屋の段（越路＝吉兵衛）。 ※越路太夫・吉兵衛。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八八八	明治21	6月	御霊文楽座	義 経 千 本 桜 大序より 四段目迄	大序 大内のだん（谷子、津和、津弥、南枝）、北野森のだん（組路、絹、巴勢）、堀川館のだん（中 多門、切 仮名）、奥庭のだん（富）、伏見いなりの森静別れの段（口 常子、奥 むら、此所人形出つかひ早替りにて御覧に入候 吉田玉造）、加嶋村のだん（口 文、奥 町）、渡海や銀平住家のだん（中 富、次 織、切 長尾）、権太騙りのだん（口 多門、奥 路）、小金吾討死の段（谷）、寿しやのだん（切 呂）、寿花の玉垣（シテ 路・ワキ 織・ツレ 越代・ツレ 路代＝叶・門弟中、此所人形出遣いにて御覧に入申候 桐竹紋十郎）、川連法眼館の段（中 綾、切 津、此所人形出つかひ早替りにて御覧に入候 吉田玉造）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※「六月七日ヨリ七月十二日マデ卅四日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	源義経（幸三郎）、武蔵坊弁慶（玉朝）、若葉の内侍（紋之助）、主馬の小金吾（玉七）、静御前（紋十郎）、川越太郎（玉治）、源九郎狐の忠信（玉造）、典侍局（玉之助）、渡海や銀平・平知盛（玉七）、いがみの権太（玉造）、すしや弥左エ門（玉七）、むすめお里（紋十郎）、弥介・三位中将維盛（幸三郎）、梶原平三景時（玉治）、佐藤忠信（玉治）。
△	一八八八	明治21	8月8日	名古屋 千 歳 座	千 本 桜	道行（太夫三味線総掛合）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八八九	明治22	8月11日	京都 北側演劇場	千 本 桜	二ノ口（津和）。 ※文楽座、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	4月22日	名古屋 千 歳 座	千 本 桜	すし屋の段（七五三）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九〇	明治23	5月8日	京都 北 側 劇 場	(義経千本桜)	吉野山（南枝）。 ※大坂文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九〇	明治23	6/1～	いなり彦六座	義 経 千 本 桜	椎の木のだん（住次、生嶋）、金吾討死の段（七五三＝友松）、寿しやのだん（大隅＝団平）、道行のだん（朝・田喜・住路・朝香・七々子・朝路、此所惣出つかひにて御覧に入候）、川連館のだん（伊達、源、越、此所出つかひ早替りにて御覧に入候 吉田辰五郎）、奥御殿花檀のだん（此）。 ※「金吾討死の段」の三味線は『道八芸談』に拠る。	源義経（玉米）、若葉内侍（小三）、主馬小金吾（玉米）、静御前（亀松）、狐忠信（辰五郎）、いがみの権太（辰五郎）、釣瓶すしや弥左エ門（兵吉）、むすめお里（亀松）、弥介実は平惟盛（紋之助）、梶原景時（玉松）、横川覚範（玉松）、佐藤忠信（門造）。

△	一八九〇	明治23	12月2日	名古屋 千歳座	千本桜	すしや（七五三）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九二	明治25	1月24日	東京東両国 井生村楼	義経千本桜	三段目（識＝広兵衛）。 ※富太夫改め駒太夫名弘め会。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
	一八九二	明治25	3	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 大詰まで	大序 大内御殿のだん（角、呂和、富栄、綾免、津満、相寿、谷路）、北野馬場先のだん（品尾、呂瀬、尾上）、堀川御所のだん（中久、切むら）、夜討のだん（文）、伏見稻荷静別れのだん（口寿、奥綾、此所出つかひ早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）、北嵯峨野庵室のだん（中長子、次緑り、切谷、路）、加嶋村のだん（口鶴尾、奥さの）、渡海や銀平住家のだん（中調、次相生、切呂）、椎木のだん（口高尾、奥長尾）、釣瓶すしやのだん（切越路）、道行花の玉垣（静御前一綾・忠信一相生・ツレ文・長子・鶴尾、此所出つかひにて御らんに入候 吉田玉造／桐竹紋十郎）、川連法眼館のだん（中さの、切津＝*吉兵衛、此所出つかひ早替りにて御覧に入候 吉田玉造）、吉野山の段（谷）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※「三月廿日ヨリ四月十五日マデ廿七日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	源義経（兵吉）、武蔵坊弁慶（玉朝）、若葉の内侍（玉五郎）、主計野小金吾（金之助）、静御前（紋十郎）、川越太郎重頼（玉治）、狐忠信・源九郎明神（玉造）、女房おりう・典侍の局（金之助）、渡海や銀平・平知盛（玉助）、いがみの権太（玉造）、弥左エ門（玉治）、娘お里（紋十郎）、弥介・三位維盛（玉助）、梶原平三景時（玉朝）、横川覚範（玉治）、佐藤四郎忠信（玉治）、主計野判官盛久（玉助）、熊谷蓮生坊（玉治）、狐義経（玉造）。
△	一八九二	明治25	8月18日	京都 北座	千本桜	椎の木（操）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助・其外文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九三	明治26	1/2～	いなり彦六座	義経千本桜 大序より 大切まで	大序 北野社のだん（浦江、梅、越〇、源子）、堀川館のだん（中梅、切芳）、奥庭のだん（朝の）、嵯峨野庵室のだん（中角、切生嶋）、渡海屋のだん（口越〇、次菅、切源）、椎の木（口七々栄、奥十八）、釣瓶すしやの段（切組）、道行花の玉垣（ワキ芳・ツレ朝路・ツレ角、此所人形出遣いにて御覧に入申候）、川連館のだん（中菅、切越＝吉弥、跡十八、此所人形出つかひ早替りにて御覧に入候）。 ※角書「大物浜辺に怨霊船合戦／吉野下市に原情陣羽織」。	九郎義経（簗助）、弁慶（小友）、若葉の内侍（紋之助）、主馬小金吾（簗助）、静御前（鹿造）、河越太郎（亀松）、狐忠信（亀松）、銀兵へ女房実は助の局（鹿造）、渡海や銀兵へ実は平知盛（玉米）、いがみの権太（玉松）、すしや弥左エ門（門造）、娘お里（亀松）、弥介実は平維盛（栄三）、梶原景時（玉米）、横川覚範（友右衛門）、佐藤忠信（門造）、盛久（玉松）、熊谷直実（友右衛門）。
△	一八九三	明治26	8月9日	名古屋 末広座	千本桜	椎木（操）。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

△	一八九四	明治27	1/2～	東京 新声館	義経千本桜 大序より 大詰まで	大序 鼓渡のだん（呂鳳、呂子）、川越上使のだん（三輪）、裏門のだん（播尾）、渡海屋銀平住家の段（識子、新呂、識）、椎木のだん（登関、織）、釣瓶すしやの段（播磨）、道行花の玉垣（静御前一和佐・忠信一津賀・袖・識予・小幾、引抜き早替り相勤メ申候 吉田国五郎）、川連法眼館のだん（綾路、津賀、綾瀬）、吉野山の段（綾路）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	九良判官義経（国三郎）、武蔵坊弁慶（文吾）、若葉の内侍（小新）、小金行里（国三郎）、静御前（幸吉）、川越太郎（大阪初登り 兵吉）、狐忠信（国五郎）、助の局（国五郎）、渡海や銀平・新中納言知盛（大阪初登り 兵吉）、いがみ権太（文吾）、すしや弥左エ門（国八）、娘おさと（国五郎）、三位中将惟盛（新五郎）、梶原平三（大阪初登り 兵吉）、横川覚範（新五郎）、佐藤忠信（国八）。
△	一八九四	明治27	2月16日	京都 南座	千本桜	すしや（七五三）。 ※彦六一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一八九五	明治28	1/2～	稲荷座	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序 大内のだん（靱当、福、一、弥生）、堀川館のだん（口一、中組の、切此）、奥庭のだん（谷路）、稲荷森のだん（口組の、奥菅）、渡海やのだん（中角、次春子、切新靱）、椎の木のだん（口谷路、奥七五三＝*友松）、釣瓶すしやの段（切大隅＝団平）、道行初音の旅路（カケ合菅・春子・角・一）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。 ※「一月廿五日有栖川宮薨去ニツキ御停止」（『義太夫年表 明治篇』）。	源義経（宗七）、武蔵坊弁慶（栄寿）、内侍（三十郎）、小金吾（玉米）、静御前（玉米）、河越太郎（駒十郎）、狐忠信（玉松）、女房お助実は助の局（清十郎）、渡海や銀平実は平知盛（玉米）、権太（駒十郎）、弥左衛門（金花）、娘お里（三吾）、弥助・平惟盛（友造）、梶原平三（玉松）、横川覚範（栄寿）、四郎忠信（玉松）、盛久（金花）、熊谷直実（松江）。
	一八九五	明治28	12/14・17	浪花座	千本桜	椎の木ノ段（隅子＝団一）。 ※稲荷座総一座。素浄瑠璃。	
△	一八九六	明治29	1月29日 2月6日	名古屋 千歳座	千本桜	すしや（七五三）。 すしや（綾登＝松之助）。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	1月11日	名古屋 笑福座	千本桜	三段目 鮓屋（広井＝広吉）。 ※竹本絹太夫・小土枝太夫・小綱太夫・鴈正軒・広井太夫・一太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

△	一八九七	明治30	4初カ	東京 新声館	千本桜	鮎屋（下綾瀬）、道行。 ※「吉野山の道行は太夫が七人、三味線弾が六人といふ大床、訳もなく賑かなりき。殊に国五郎の忠信、おふく、運平の早替りは例もながら見事な手際。其跡化されに成りて手摺を畳み地舞台を見せ、爰へ石地藏を背負たる運平の人形を立せ歩行せるのは新工夫。何にせよ上下に操りのなき所を見れば就れ動物の働きならんと推したるに、或人は是をゼンマイの機械なりと云はれき」（『東京の人形浄瑠璃』）。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	忠信（国五郎）。
	一八九七	明治30	5/25～	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 吉野山迄	大序 八嶋浦辺のだん（谷代、津かさ、津直、房、谷勢、越見、越可）、大内御殿源義経院参のだん（呂子、津代、谷栄、越江、綾免）、北野森のだん（登勢）、堀川御所川越太郎上使の段（中殿母、切源）、土佐坊昌俊夜討のだん（跡巴勢）、稻荷の森静別れの段（口越江、奥七五三、此所出つかひ早替りにて御覧に入候吉田玉造）、北嵯峨冷月尼庵室のだん（中尾上、次むら、切呂）、加嶋村のだん（鶴尾）、尼ヶ崎大物ヶ浦渡海やのだん（中叶、次七五三、切津=*吉兵衛）、椎の木いがみ権太かたりのだん（口呂嶋、奥綾）、釣瓶すしやの段（切越路）、道行朱の玉垣（静御前-綾・忠のぶ-むら・ツレ鶴尾・越登、此所出つかひにて御覧に入申候吉田玉造/桐竹紋十郎）、川連法眼館のだん（呂瀬、谷改染、此所出つかひ早替りにて御覧に入候吉田玉造）、吉野山のだん（尾上）。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。 ※谷太夫改メ九代竹本染太夫襲名披露。 ※「五月廿七日ヨリ六月廿五日マデ三十日間」（『義太夫年表明治篇』）。	源義経（助太郎）、武蔵坊弁慶（玉朝）、若葉内侍（玉五郎）、主馬野小金吾（金之助）、静御前（紋十郎）、川越太郎重頼（玉治）、狐忠信（玉造）、女房おりう・典侍局（三吾）、渡海屋銀平・新中納言知盛（玉助）、いがみの権太（玉造）、弥左衛門（玉治）、娘おさと（紋十郎）、下男弥助・三位中将維盛（玉助）、梶原景時（金之助）、横川覚範（玉朝）、能登守教経（玉造）、佐藤四郎忠信（玉五郎）、主馬判官盛久（玉助）、蓮生坊（玉朝）。
△	一八九七	明治30	7月28日	京都 南座	千本桜	三段目 すしやの段（七五三）。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	10月29日	京都 南座	千本桜	三段目 すしやの段（さの=大造）。 ※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8月5日	京都 南座	千本桜	すしや（七五三）。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九八	明治31	8月21日	名古屋 御園座	義経千本桜	すしや（七五三=仙昇）。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

△	一八九八	明治31	12月22日	名古屋 御園座	義経千本桜	すしや（大隅＝叶）。 ※大阪 大隈（ママ）太夫一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併 浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九九	明治32	1/2～	明楽座	義経千本桜 大序より 四段目迄	大序 大内のだん（隅代、小達、弥翁、綴、弥▲）、堀川館のだん （口弥▲、中品、切長子）、稻荷の森のだん（口弥生、奥 菊）、嵯峨庵室のだん（中雛、切此、新靱）、加島村のだん（口 芳、奥長子）、渡海屋内のだん（中角、次菅、切組）、椎の木 のだん（口一、奥生嶋）、小金吾討死のだん（春子）、釣瓶すし やのだん（切大隅＝叶）。 ※角書「大物の船櫓／吉野の花櫓」。	源義経（兵之助）、武蔵坊弁慶（栄寿）、若葉内侍 （紋三郎）、主馬小金吾（簗助）、静御前（簗 助）、川越太郎（兵三）、狐忠信（玉米）、女房お 助実は助の局（清十郎）、渡海屋銀平実は平知盛 （玉米）、権太（玉米）、弥左エ門（清十郎）、娘 お里（簗助）、弥助実は維盛（友蔵）、梶原平三 （兵三）、忠信（玉米）、盛久（門蔵）、熊谷蓮生 坊（栄寿）。
△	一八九九	明治32	3月15日	名古屋 末広座	（義経千本桜）	すしや（春登＝仙吉）。 ※大阪 稻荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7月20日	東京 歌舞伎座	千本桜	鮎屋（綴＝団友）。 ※素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一八九九	明治32	7月21日	京都 南座	千本桜	すしや（七五三）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	7月26日	京都 南座	千本桜	寿しや（文字）。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇〇	明治33	12月5日	名古屋 末広座	千本桜	椎の木（隅尾＝団友）。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	2月4日	名古屋 御園座	千本桜	茶店（組の＝卯之助）。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

	一九〇一	明治34	3/1~	明 楽 座	義 経 千 本 桜 大序より 大切まで	大序 大内御殿のだん（生代、弥常、子友、住子、小福、小達、房、生栄）、北野神社のだん（房、住子、子友）、堀川館のだん（口加賀、切菊）、奥庭のだん（弥▲）、伏見稻荷の森のだん（口立身、奥雛、此所人形出遣い早替りにて御覧に入候）、嵯峨野庵室のだん（口津子、中一、切生嶋）、加嶋村のだん（口津子、奥弥生）、渡海屋のだん（口加賀、中長子、切新靱）、椎の木のだん（口立身、奥春子）、釣瓶鮓屋のだん（切大隅=叶）、道行のだん（ワキ生嶋・シテ雛・ツレー・弥▲・生栄・小福=仙左衛門・叶・猿治郎）、川連館のだん（中菊、切住）、吉野山のだん（長子）。 ※「大入続キ」（『義太夫年表 明治篇』）。	源義経（兵之助）、武蔵坊弁慶（簗助）、若葉内侍（兵三郎）、主馬小金吾（簗助）、静御前（兵吉）、川越太郎（友造）、狐忠信（玉松）、女房お柳実は介の局（玉五郎）、渡海屋銀平・新中納言知盛（栄三）、いがみの権太（兵吉）、父弥左エ門（門造）、娘おさと（玉五郎）、聳の弥介実（玉治郎）、梶原平次（玉松）、横川覚範（玉松）、佐藤忠信（兵三郎）、主馬判官盛久（門造）、熊谷蓮生坊（光ル）。
△	一九〇一	明治34	6/1~5	京 都 弁 天 座	義 経 千 本 桜 大序より 四段目迄	大序（弁）、北野森（二三）、堀川御所川越上使（津和）、夜討（応）、稻荷静別れ（津摩）、渡海屋の段（亀代、鷹、紋）、椎の木の段（七、操）、小金吾討死（章）、すしや（七五三）、道行（静御前一尾上・忠信一津和・ツレ章・津摩）、川連館の段（中綱尾、切路）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(不明)
△	一九〇一	明治34	6月14日	名 古 屋 千 歳 座	千 本 桜	寿しや（七々栄）。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	7/2~5カ	京 都 島 原 座	千 本 桜 五幕	御殿より道行まで。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(不明)
△	一九〇一	明治34	8月17日	京 都	千 本 桜	椎の木（七々栄）。	
			8月25日	幾 代 亭		椎の木（弥雲）。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	8月24日	名 古 屋	千 本 桜	椎の木の段（子友）。	
			8月28日	末 広 座		鮓屋の段（大隅=叶）。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12月9日	京 都 布 袋 座	千 本 桜	茶店（七栄=新造）。 ※七五三太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇一	明治34	12月14日	名 古 屋 末 広 座	千 本 桜	加島屋（弥生=富太郎）。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

△	一九〇二	明治35	2/1~10カ	京都 布袋座	義経千本桜 序の口より 道行迄	大内御殿（喜里、紋子、路代）、北野馬場先（島栄）、堀川御所（中さの、切操）、夜討（此勢）、伏見稻荷静別（口章、奥鷹）、加多村（さ字）、渡海屋銀兵衛住家（口亀代、中鷹、切紋）、椎の木（口生勢、奥操）、小金吾討死（章）、釣瓶鮎屋（切路）、道行花の玉垣（静御前一さの・忠信――・ツレ生勢）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	都（ママ）御前（簗助）、狐忠信（兵吉）、いがみの権太（兵吉）、娘おさと（簗助）。
△	一九〇二	明治35	9月2日	京都 岩神座	千本桜	椎の木―（ママ）（隅喜）。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇二	明治35	12月19日	名古屋 千歳座	千本桜	寿司屋（杉）。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇三	明治36	8/11~22	東京 歌舞伎座	千本桜	吉野山道行から御殿まで（小隅・生島・一・隅広・弥常=叶・猿次郎・松之助・八助・叶吉）。 ※『千本桜』は大道具大仕掛、掛合にて上演（『歌舞伎座百年史』）。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	（不明）
△	一九〇三	明治36	12月2日	名古屋 千歳座	千本桜	椎ノ木段（生栄）。 ※大坂明楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇四	明治37	12月21日	東京 歌舞伎座	千本桜	椎の木（南勢=常造）。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九〇五	明治38	3	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 吉野山段まで	大序 八嶋浜辺のだん（隅寿、関、桂、富子、津路、喜、津田、いさ、広見、字久、須磨、広）、大内御殿源義経院参のだん（静、南勢、谷登、越可）、北野森のだん（津磨）、堀川御所川越太郎上使のだん（中谷栄、切殿母改勢見）、夜討のだん（登勢）、稻荷森のだん（口津直、奥叶、此所出遣い早替りにて御覧に入候吉田玉助）、加嶋村のだん（口隅の、奥源子）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中富、次津ばめ、切七五三）、椎の木のだん（切越喜、奥文）、釣瓶すしやのだん（切大隅=清六）、道行朱玉垣（静御前一南部・忠信―叶・ツレ源子・越喜・千代=*勝鳳、此所出遣い早替りにて御覧に入候桐竹紋十郎/吉田玉助）、川連法眼館のだん（中綴、切染、此所出遣いにて御覧に入候吉田玉助）、吉野山のだん（司）。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。 ※「三月一日ヨリ四月五日マデ卅六日間」（『義太夫年表 明治篇』）。	源義経（政亀）、武蔵坊弁慶（玉治郎）、若葉内侍（玉五郎）、主馬野小金吾（助太郎）、静御前（紋十郎）、川越太郎（門造）、狐忠信（玉助）、女房おりう・典侍局（玉五郎）、渡海屋銀平・新中納言平知盛（玉助）、いがみの権太（玉助）、弥左衛門（門造）、娘お里（紋十郎）、下男弥介・三位中将維盛（栄三）、梶原平三景時（助太郎）、横川覚範（助太郎）、能登守教盛（多み蔵）、佐藤四郎忠信（玉六）、主馬野判官盛久（多み蔵）、蓮生坊（三吾）。

△	一九〇五	明治38	7月25日	東京 歌舞伎座	千本桜	(大隅=清六)。 ※竹本大隅太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九〇六	明治39	7月30日	京都 歌舞伎座	(義経千本桜)	鮎屋(大隅)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇七	明治40	1/2~	堀江座	義経千本桜 大序より 御殿まで	大序 大内御殿のだん(初音、照、糸、君子、初子、敷嶋、吉野)、北野神社のだん(敷嶋、靱木、筑)、堀川館川越太郎上使のだん(口吉野、中弥常、切一)、奥庭のだん(組代)、嵯峨野庵室のだん(口組栄、中三笠、切新靱)、加嶋村のだん(口弥常、奥君)、尼ヶ崎大物ヶ浦渡海屋のだん(中米、次司、切長子=*八助)、椎の木のだん(口組代、奥雛=*竹三郎)、小金吾討死のだん(角=*団丸)、釣瓶すしやのだん(切春子=*新左衛門)、道行朱の玉垣(静御前一雛・忠信一綴・ツレ組栄・生勢・敷嶋・初子=*猿治郎・*竹三郎・*他、此所人形出遣い早替りにて御覧に入候)、川連法眼館のだん(中角、切住=*龍助、此所人形出遣い早替りにて御覧に入候)。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。	源義経(玉市)、武蔵坊弁慶(紋三)、若葉内侍(小兵吉)、主馬小金吾(紋三)、静御前(簀助)、川越太郎(東吉)、狐忠信(玉松)、介の局(小兵吉)、新中納言知盛(玉治)、いがみの権太(玉松)、親弥左エ門(玉治)、娘おさと(簀助)、すしや弥介・平維盛(玉市)、梶原平三景時(兵三)、横川覚範(清吉)、佐藤四郎兵へ忠信(兵吉)、主馬判官盛久(玉治)、熊谷蓮生坊(光ル)。
△	一九〇七	明治40	8月11日	京都 南座	(義経千本桜)	鮎屋(七五三=寛次郎)。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇七	明治40	9/4~5	京都 南座	千本桜	鮎屋(七五三)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	お里(紋十郎)。
△	一九〇七	明治40	9/8~9	京都 南座	千本桜	道行。 ※祇甲明治連、桐竹紋十郎、文楽一座合同慈善人形浄瑠璃。芸妓連の浄瑠璃に紋十郎をはじめとする文楽一座の人形が加入。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	静御前(紋十郎)。
△	一九〇七	明治40	12月13日	名古屋 御園座	千本桜	すしや(七五三=綱造)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・♯太夫・南部太夫・時太夫一座。 素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	4月10日	名古屋 末広座	千本桜	椎の木の段(組栄=仙市)。 ※「大坂堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

△	一九〇八	明治41	5/18~22カ	京都 南 座	義経千本桜 大序より 道行まで	大内口殿（津路、小達、春賀、松代、隅越、隅栄、初音、柴）、 嵯峨庵室（中薫、切絹、寿）、大物浦（中三笠、次司、切菅、 長子）、椎の木（口小国、奥綴）、小金吾討死（角）、鮎屋（春 子）、初音の旅路（静一菅・忠信一綴・ツレ組栄・薫・柴）。 ※大阪堀江座一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	静御前（亀松）、川越太郎（兵三）、狐忠信（玉 松）、助の局（小兵吉）、新中納言知盛（亀松）、 いがみの権太（玉松）、娘お里（亀松）、すしや弥 助（政亀）、梶原景時（兵吉）、横川覚範（兵 玉）、佐藤忠信（兵三）、主馬判官守久（冠四）。
△	一九〇八	明治41	7月13日	名古屋 御園座	千本桜	鮎屋（七五三＝綱造）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	9月11日	京都 南 座	（義経千本桜）	すし屋（七五三＝綱造）。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九〇八	明治41	12月11日	名古屋 御園座	（義経千本桜）	すし屋（七五三＝綱造）。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	2月17日 2月19日	京都 南 座	千本桜	三（南勢）。 伏見（和）。 ※文楽一座、越路太夫・村太夫・南部太夫・呂太夫ほか。素浄瑠 璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九〇九	明治42	3/1~	堀江座	義経千本桜 大序より 道行まで	大序 大内御殿のだん（児島、嶋路、生栄、隅登、一三五、雛子、 若葉、小藤、菅子、美島、小苗、小幾、春代、新菅、初音、隅 栄）、北野神社の段（絹）、堀川館川越太郎上使のだん（口栄、 中里、切司）、奥庭のだん（隅の）、加嶋村のだん（口薫、奥 菅）、嵯峨野庵室のだん（口小国、中三笠、切大嶋）、尼ヶ崎大 物ヶ浦渡海屋の段（中静、次角、切春子、此所人形出遣いにて御 覧に入申候）、椎の木より小金吾討死まで（口敷嶋、奥長子＝＊ 八助）、釣瓶すしやのだん（切大隅）、道行朱の玉垣のだん（静 御前一雛・忠信一菅・静・小国・栄＝団平・ツレ猿治郎・仙之 助・外三名、此所人形出遣いにて御覧に入申候）。 ※角書「大物船櫓／吉野花櫓」。	源九郎判官義経（玉市）、武蔵坊弁慶（紋三）、若 葉内侍（小兵吉）、主馬小金吾（玉市）、静御前 （簗助）、川越太郎（東吉）、狐忠信（玉松）、女 房お柳・典侍局（小兵吉）、渡海屋銀平・新中納言 知盛（簗助）、いがみの権太（玉松）、弥左衛門 （兵三）、娘おさと（簗助）、すしや弥介・平維盛 （政亀）、梶原平三景時（兵吉）、能登守教経（兵 玉）、佐藤四郎忠信（兵玉）、主馬判官盛久（紋 三）、蓮生坊（光ル）。
△	一九〇九	明治42	7月26日	名古屋 千歳座	千本桜	（栄）。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九〇九	明治42	8月22日	京都 岩神座	（義経千本桜）	鮎屋（岡）。 ※大阪文楽座、染太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

一九一〇	明治43	2/23~	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行まで	大序 八嶋浜辺のだん（越栄、文賀、南次、南登、古金、源路、文次、柴、文字子）、大内御殿のだん（南芳、路久、喜、広、須広、染代、越可）、北野森のだん（津国）、堀川御所のだん（口富子、中谷、切むら）、伏見稻荷静別れのだん（口鶴尾、奥時、此所人形出遣い早替りにて御覧に入申候 玉治改め 吉田文三）、嵯峨野庵室のだん（中 越喜、次 富、切 七五三 = * 綱造）、加島村のだん（口 其、奥 むら）、渡海屋銀平住家のだん（中 常子、次 古靱 = * 清六、切 染 = 広作）、椎木のだん（口 津留、奥 津 = * 寛治郎）、小金吾討死のだん（叶）、釣瓶すしやのだん（切 攝津大掾 = * 広助）、道行花の玉垣（静御前一時・忠信一源・ツレ 淀・谷登・葉 = * 喜左衛門、此所人形出遣い早替り中づりにて御覧に入申候 桐竹紋十郎 / 玉治改 吉田文三）。 ※「二月廿三日ヨリ三月廿五日マデ卅日間」（『義太夫年表 明治篇』）。 ※玉治改メ 四代吉田文三襲名披露。 ※「（前略）殊更御吹聴申上候は当座創立以来未だ曾て七十五才の高齢者にして受持ちたる事無之き「千本桜」すしや場の大役を撰津大掾義自ら大奮発にて相語り申べく（後略）」（番付）。	源義経（琴糸）、武蔵坊弁慶（紋三）、若葉内侍（玉七）、主馬野小金吾（栄三）、前の静御前（三左衛門）、道行静御前（紋十郎）、川越太郎（玉治郎）、狐忠信（玉治改め 文三）、典待の局（玉七）、渡海屋銀平実ハ新中納言知盛（助太郎）、いがみの権太（玉治郎）、弥左衛門（玉治改め 文三）、娘お里（紋十郎）、三位中将維盛（三左衛門）、梶原平三景時（紋三）、佐藤忠信（亀三郎）、主馬野判官盛久（助太郎）、熊谷蓮生坊（玉治郎）。	
△	一九一〇	明治43	7月1日	名古屋	千 本 桜	椎の木（三 = □市）。	
			7月6日	末 広 座		すしや（米 = 富次）。 ※大隅太夫・団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8月5日	京都	千 本 桜	鮎屋（静 = 団六）。	
			8月6日	南 座		（源路 = 寛六）。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	8月21日	京都 歌 舞 伎 座	（義経千本桜）	鮎屋（静）。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	10月19日	京都 明 治 座	（義経千本桜）	酢屋（七五三）。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一〇	明治43	12月15日	名古屋	（義経千本桜）	寿しや（七五三 = 綱造）。	
			12月17日	御 園 座	千 本 桜	三の口（古金）。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古靱太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

	一九一一	明治44	5/1～	堀江座	義経千本桜 大序より 道行まで	大序 大内御殿のだん（音名、早稲、結城、鷹、伊達代、鉄、菅子、菅枝、小苗、小司、伊佐、旗、社、志賀、の、子扇、蒼、雛栄、菅尾）、北野社のだん（春次、三、美島、鹿島、春日、雛子、初音、春見、小藤、敷島）、堀川館川越太郎上使のだん（口春日、中栄、切司）、奥庭のだん（薫）、嵯峨野庵室のだん（口東、中米、切菅）、加島村のだん（口組代、奥錦）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中組栄、次三笠、切大嶋、此所人形出遣いにて御覧に入申候）、椎の木のだん（口栄、奥雛）、小金吾忠死のだん（角）、釣瓶すしやのだん（切春子、此所人形出遣いにて御覧に入申候）、道行朱の玉垣のだん（静御前一雛・忠信一角・ツレ組栄・隅の・蒼、此所人形出遣い早替りにて御覧に入申候 吉田玉造）。 ※角書「大物船櫓／吉野花櫓」。 ※「奥庭のだん」「加島村のだん・奥」貰い（『義太夫年表 明治篇』）。	九郎判官源義経（玉市）、武蔵坊弁慶（清吉）、若葉内侍（玉吉）、主馬小金吾（玉市）、しづか御前（文五郎）、川越太郎（兵三）、狐忠信（玉造）、女房おりう実は助の局（小兵吉）、渡海屋銀平実は新中納言平知盛（駒十郎）、いがみの権太（玉造）、すしや弥左エ門（兵吉）、娘おさと（文五郎）、すしや弥介実は平維盛（政亀）、梶原平三景時（駒十郎）、佐藤四郎兵衛忠信（兵吉）、主馬判官盛久（東吉）、蓮生坊（光ル）。
△	一九一一	明治44	5/27～6/4	京都 京都座	千本桜	道行（掛合雛・角＝新左衛門・他）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(不明)
△	一九一一	明治44	8月4日	浪花座	千本桜	三の口（常子）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	9月3日	京都 南座	(義経千本桜)	すしや（常子）。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	10月8日	名古屋 末広座	(義経千本桜)	すしや（春子＝新左衛門）。 ※「大阪堀江座大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一一	明治44	12月18日	名古屋 御園座	千本桜	鮎屋（常子）。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一二	明治45	4/10・17	京都 開盛座	(義経千本桜)	すし屋（米）。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一二	大正1	10月16日	京都 開盛座	(義経千本桜)	鮎屋（静）。 ※文楽座、呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一二	大正1	12月20日	京都 明治座	(義経千本桜)	鮎屋。 ※女義太夫豊竹呂昇一座に文楽座の人形出遣い。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	権太（玉次郎）、弥左衛門（多為蔵）、お里（玉五郎）、弥助（栄三）。
△	一九一三	大正2	2月10日	京都	(義経千本桜)	すしや（春子）。	

		2月11日	南座		椎の木（組栄）。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九一三	大正2	2/16~	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 吉野山の段迄	大序 八島海辺のだん（豆、小町、めばゑ、三滝、越穂=*三昇、*六三、*吉右、*六之介、*友平、*昇）、大内御殿判官義経院参のだん（路久、文字子、源路、文次事九重、小富=*三吉、*寛介、*勝若）、北野森のだん（浪花=*友造/*卯三郎）、堀川御所のだん（中谷=*吉助、切時=*歌助/*燕四）、夜討のだん（其=*広栄）、稲荷森のだん（カケ合 綱尾・津国・鶴・越代=*勇造/*玉助、此所出遣イ早替りにて御覧ニ入申候 吉田多為蔵）、加島村のだん（むら）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中常子=*勝平/*広太郎、叶=*寛治郎、切津=*綱造）、椎木のだん（口越見=*友之助、奥古鞆=*清六）、小金吾討死のだん（源=*勝市）、釣瓶すしやのだん（切越路=吉兵衛）、道行朱玉垣（静御前-南部・忠信-叶・ツレ 越喜・越見・越代=*友治郎・*寛治郎・*綱造・*勝市・*捨三・*友之介、静御前 吉田栄三/忠信 吉田多為蔵/此所出遣イ早替リニテ御覧ニ入申候）、川連法眼館のだん（中富=*三二、切染=広作・*ツレ 鶴助、此所出遣イ早替リニテ御覧ニ入申候 吉田多為蔵）、吉野山のだん（カケ合 淀・鶴尾・光=*歌助/*燕四、此所出遣イ早替リニテ御覧ニ入申候 吉田多為蔵）。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。 ※「二十八日間三月十六日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「川連法眼館のだん」豊沢広作休演、鶴沢叶代役（『義太夫年表 大正篇』）。	源判官義経（玉七）、武蔵坊弁慶（紋三）、若葉内侍（玉吉）、主馬野小金吾（玉治郎）、静御前（栄三）、川越太郎（紋三）、狐忠信（多為蔵）、女房お柳・典待局（玉五郎）、渡海屋銀平・新中納言平知盛（文三）、いがみの権太（文三）、弥左エ門（多為蔵）、娘おさと（栄三）、下男弥介・三位中将惟盛（玉七）、梶原平三景時（玉治郎）、横川覚範（玉治郎）、佐藤四郎忠信（玉五郎）、主馬判官盛久（福寿軒）、蓮生坊（亀三郎）。
△	一九一三	大正2	2月22日	名古屋 末広座	（義経千本桜） すしや（静=富次）。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	7月1日	京都 京都座	（義経千本桜） すし屋（常子）。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一三	大正2	8月28日	岡山 千歳座	（義経千本桜） すしや（常子=兵内）。 ※越路一座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12月6日	東京 新富座	（義経千本桜） すしや（常子）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

△	一九一三	大正2	12月11日	東京 明治座	(義経千本桜)	すしや(静=源吉)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一三	大正2	12月15日	名古屋 御園座	千本桜	寿し屋(常子)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一四	大正3	1/2~	近松座	義経千本桜 大序より 通し	大序 大内御殿のだん(初春、小嶋、扇子、雛栄、大当)、堀川館 川越太郎上使のだん(口春栄、中隅の、切絹)、嵯峨庵室のだん (中弥国、次敷嶋=*新吾、切三笠=*吉郎、角)、尼大物浦渡 海屋のだん(中薫=*龍太郎、次組栄=*龍市、切弥=*八助、 此所人形出遣ひにて御覧ニ入候)、椎の木茶店より小金吾討死の 段(口春治、奥角=*新造)、釣瓶すしやの段(切春子=*新左 衛門)、道行朱の玉垣のだん(静御前一雛・忠信一組栄・ツレ 薫・栄・春治・春栄・雛栄・扇子・小嶋=*力松・*新造・*龍 市・*龍太郎・外四名、此所人形出遣ひ早替りにて御覧ニ入申 候)、川連御殿のだん(中栄=*吉郎、切菅=*竹三郎・ツレ・* 新之介、此所人形出遣ひ早替りにて御覧ニ入申候 吉田玉蔵)、吉 野山のだん(隅の=*新之介)。 ※角書「大物の船櫓/吉野の花櫓」。 ※「嵯峨庵室は丸本にては川越太郎上使より前にあるべきを顛倒 して後に廻はし、其の上何時しか改作されて盛久と云ふ人形が繁殖 して居る。(注 嵯峨庵室のだん) 此の切は番付面には三笠、角とあ るを三笠一人に受持ち相当語り扱せしはお手柄(中略)。(注 小金 吾討死は) 道具がばた/とどんてん返して鮎屋の内と成る、近頃 は道具も手軽く至極結構。(中略) 三笠の出口上を以て春子の鮎 屋」(『浄瑠璃雑誌』第127号)。	源義経(玉市)、武蔵坊弁慶(清吉)、若葉内侍 (玉米)、主馬小金吾(玉市)、静御前(文五 郎)、川越太郎(光ル)、狐忠信(玉蔵)、女房お 柳・典の局(小兵吉)、渡海屋銀平実ハ新中納言知 盛(文五郎)、いがみの権太(玉蔵)、鮎屋弥左衛 門(兵吉)、娘お里(小兵吉)、すしや弥介実ハ惟 盛(玉市)、梶原平三景時(政亀)、横川覚範(政 亀)、佐藤忠信(兵吉)、主馬判官盛久(東吉)、 蓮生坊(清吉)。
△	一九一四	大正3	4	地方公演 (不明)	義経千本桜 大序~道行	嵯峨庵室(三笠)、小金吾討死(角)、すしや(春子)、道行 (静一雛・忠信一角)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	静(文五郎)、忠信(玉蔵)、権太(玉蔵)、弥左 衛門(兵吉)、お里(小兵吉)。
△	一九一四	大正3	7月10日	京都 南座	(義経千本桜)	すし屋(静)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一四	大正3	12/14~15	名古屋 御園座	(義経千本桜)	鮎屋(常子)。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	3/1~	近松座	千本桜	大序から道行。 ※女流義太夫に近松座の人形参加。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	静(小兵吉)、忠信(玉市)、権太(玉市)、弥左 衛門(冠四)、お里(小兵吉)、梶原(兵三)。

	一九一五	大正4	3/20～	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行まで	大序 八嶋海辺のだん（い、南海、めばゑ、南治、三滝）、大内御殿のだん（越穂、路久、喜、文字子、九重、小富）、北野森のだん（津国／谷）、堀川御所のだん（中英、切時）、夜討のだん（綱尾）、伏見稻荷森のだん（口綾登、奥呂）、嵯峨庵室のだん（中越代、次綴、切古鞠＝＊清六・八雲＊芳之介）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中静＝＊徳太郎／＊燕四、次源＝＊勝市、切伊達＝吉三郎）、椎の木小金吾討死のだん（口越喜、奥叶＝＊叶）、釣瓶すしやのだん（切越路＝吉兵衛）、道行朱の玉垣（静御前一叶・忠信＝源・ツレ常子・越見・源路＝＊寛治郎・他、此所人形出遣ひ早替りにて御覧に入候 吉田文五郎／吉田玉蔵）。 ※角書「大物船櫓／吉野花櫓」。 ※「二十二日間 四月十一日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「嵯峨庵室のだん」4月5～6日鶴沢清六休演、鶴沢徳太郎代役（『義太夫年表 大正篇』）。	判官源義経（玉七）、武蔵坊弁慶（玉治郎）、若葉内侍（政亀）、主馬野小金吾（栄三）、静御前（文五郎）、川越太郎（駒十郎）、狐忠信・白狐（玉蔵）、女房お柳実は典侍局（玉五郎）、渡海屋銀平・新中納言平知盛（文三）、いがみの権太（多為蔵）、鮎屋弥左エ門（文三）、娘お里（栄三）、下男弥介・三位中将惟盛（玉蔵）、梶原景時（駒十郎）、佐藤忠信（政亀）、主馬野判官盛久（多為蔵）、熊谷蓮生坊（紋三）。
△	一九一五	大正4	7月4日	京都 南座	（義経千本桜）	すし屋（八十）。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	7月12日	浪花座	千本桜	鮎屋（八十＝友之助）。 ※「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一五	大正4	12月12日	名古屋	千本桜	道行（かけ合 静御前一綴、人形早替り）。	静（文五郎）、忠信（玉造）。
			12月13日	末広座		（総掛合）。	（不明）
			12月14日			道行。 ※竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（不明）
△	一九一五	大正4	12月17日	東京 新富座	（義経千本桜）	すしや（越路＝吉兵衛）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九一六	大正5	3/1～	近松座	義経千本桜	堀川御所のだん（栄美、松重、小島、満、小扇、毎日替り 雛栄／春次＝勝童、八造、団造、三郎、竹造、団伊三、大昇、竹広、力作、竹弥）、嵯峨庵室のだん（雛子＝毎日替り 吉子／力作、東＝小団、弥国＝龍太郎、米＝吉郎・琴吉子）、椎の木のだん（弥国＝丸子、角＝源吉）、小金吾殺しのだん（組栄＝龍市）、権太かたりのだん（錦＝団平）、寿しやのだん（菅＝助三郎）、道行のだん（静御前一雛・狐忠信＝角・堤の藤太＝栄・ツレ 春次・雛栄＝力作・新造・仙市・龍太郎・力作・団造・三郎）。 ※浄瑠璃身振り。	

△	一九一六	大正5	4月21日	美術倶楽部 <近松座>	(義経千本桜)	すし屋。 ※豊沢竹三郎亡父五代広助の十三回忌追善浄瑠璃会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九一六	大正5	6月28日	南地演舞場	(義経千本桜)	道行(総掛合)。 ※第1回斯道奨励会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九一六	大正5	7月6日	京都 南 座	千 本 桜	寿しや(八十=友之助)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	7月8日	浪 花 座	(義経千本桜)	鮎屋(錦)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎、近松座、錦・弥・角太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8月3日	京都 明 治 座	千 本 桜	三段目(角)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	8月10日	名古屋	(義経千本桜)	椎の木(朝見=芳太郎)。	
			8月11日	末 広 座		すしや(米=龍市)。	
			8月13日			すしや(錦=仙市)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一六	大正5	12月6日	東京 歌 舞 伎 座	(義経千本桜)	すし屋(越路=吉兵衛)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
	一九一七	大正6	4/1~	京都 竹 豊 座	義 経 千 本 桜 大序より 道行迄	大序 大内御殿のだん(時の、角栄、鳴尾、亀、春登、時次、古金)、堀川御所のだん(中古金、切操)、夜討のだん(伊達見)、稲荷森のだん(口南登、奥敷嶋)、大物ヶ浦渡海屋のだん(中春登、次筆、切時)、椎の木のだん(口春雄、奥海老、三笠)、小金吾討死のだん(三笠、海老)、釣瓶すしやのだん(切春子=*新左衛門)、道行朱の玉垣(静御前一鳴門・忠信一薫・ツレ花・南登、此所人形出遣ひ早替リニテ御覧ニ入候 吉田小兵吉/吉田辰五郎)。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。 ※「二十二日迄」(『義太夫年表 大正篇』)。	判官源義経(文昇)、武蔵坊弁慶(松江)、若葉ノ内侍(玉米)、主馬ノ小金吾(紋太郎)、静御前(小兵吉)、川越太郎(兵枝)、狐忠信(辰五郎)、典侍ノ局(紋太郎)、渡海や銀兵エ実は平ノ知盛(辰五郎)、いがみの権太(辰五郎)、すしや弥左エ門(冠四)、娘おさと(小兵吉)、下男弥助実ハ三位中将(紋太郎)、梶原平三(光ル)。

	一九一七	大正6	4/18～	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行の段まで	大序 八嶋海辺のだん（陸路、津若、南枝、越登、富栄、源福、小町、津花、南海、めばゑ）、大内御殿のだん（三滝、越穂、九重、喜、谷登、小富）、北野森のだん（源路）、堀川御所のだん（中米、切駒）、夜討のだん（鶴）、稻荷森のだん（口常子、奥源＝＊勝市）、嵯峨庵室のだん（中越代、次八十、切叶）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中淀、次駒、切津＝＊友治郎）、椎の木小金吾討死のだん（口鶴尾、奥源＝＊勝市）、釣瓶寿しやのだん（切越路＝吉兵衛）、道行朱玉垣（静御前－南部・忠信－菅・ツレ米・越代・源路＝＊寛治郎・他）。 ※「五月十三日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。	源義経（政亀）、武蔵坊弁慶（玉治郎）、若葉内侍（玉七）、主馬野小金吾（玉治郎）、静御前（文五郎）、川越太郎（玉五郎）、狐忠信・白狐（玉蔵）、女房お柳（文五郎）、渡海屋銀平実ハ平知盛（栄三）、いがみの権太（玉蔵）、寿しや弥左エ門（文三）、娘おさと（栄三）、下男弥助（玉市改メ玉松）、梶原景時（紋三）、佐藤忠信（玉作）、主馬野判官盛久（文三）、蓮生坊（玉市改メ玉松）。
△	一九一七	大正6	5月5日	名古屋 末広座	(義経千本桜)	寿司屋（静＝芳之助）。 ※豊竹古鞠太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	7月14日	京都 南座	千本桜	すしや（八十＝吉五郎）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12月10日	東京 歌舞伎座	(義経千本桜)	すしや（越路＝吉兵衛）、道行（伊達・叶・源・八十・鶴尾・源路・九重・三滝＝友治郎・叶・勝市・一弥・友之助・友平・吉雄・寛郎（ママ）・吉童・友衛門）。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一七	大正6	12月24日	名古屋 御園座	義経千本桜	鮓屋の段（越路）、道行（伊達・叶・津・源・八十・鶴尾・源路）。 ※竹本越路太夫一座。 ※『御園座七十年史』、『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	7/14～	東京 有楽座	(義経千本桜)	道行。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九一八	大正7	7月29日	京都 南座	(義経千本桜)	鮓屋（八十）。 ※大阪文楽座引越、越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12月2日	名古屋 千歳座	千本桜	椎ノ木（清）。 ※研声会一座による「大阪文楽座青年浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一八	大正7	12月3日	東京 歌舞伎座	(義経千本桜)	椎の木（津花）。	
			12月8日			すし屋（越路＝吉兵衛）。	
			12月9日			大物浦（津花）。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	

△	一九一八	大正7	12月9日	名古屋 大黒座	千本桜	(清)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九一九	大正8	3/8~	京都 竹豊座	義経千本桜 大序より 道行の段まで	大序 八嶋浜辺のだん(薩栄、富久、多見、鳴尾、時の、亀、久米)、大内御殿義経院参のだん(角栄、千嶋)、堀川御所川越太郎上使のだん(千嶋、円、操)、夜討のだん(千嶋)、伏見稻荷森のだん(松重、円)、嵯峨庵室のだん(松重、古金、三好)、椎の木のだん(角栄、弥国)、小金吾討死のだん(南登)、釣瓶すし屋のだん(錦=*八助)、道行朱の玉垣(静御前-薩摩・忠信-組栄・ツレ 南登・松重・角栄、此所人形出遣い早替リニテ御覧ニ入候 吉田小兵吉/吉田辰五郎)。	源義経(光之助)、武蔵坊弁慶(鶴松)、若葉内侍(玉米)、主馬小金吾(新三郎)、静御前(小兵吉)、川越太郎(兵三)、狐忠信(辰五郎)、いがみ権太(辰五郎)、鮎屋弥左衛門(徳丸)、娘お里(扇太郎)、すしや弥介(新三郎)、梶原平三景時(小兵吉)、主馬判官盛久(徳丸)、蓮生坊(鶴松)。
	一九一九	大正8	3/16~	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行の段迄	大序 八嶋海辺のだん(多満、播路、弥須、陸路、南枝、富栄、越登、辰、越名、つばめ、小町)、大内御殿のだん(津花、豊島、三滝、越穂)、北野森のだん(小富)、堀川御処のだん(中鶴尾、切菅)、夜討のだん(源路)、稻荷森のだん(口英、奥静=*叶、此処人形出遣イ早替にて御覧に入候 吉田玉蔵)、嵯峨庵室のだん(中越代、次淀、切弥=*吉弥)、大物ヶ浦渡海屋のだん(中八十、次源=*勝市、切津)、椎の木小金吾討死のだん(口町、奥伊達=*吉三郎)、釣瓶寿計やの段(切越路=吉兵衛)、道行朱玉垣(静御前-南部・忠信-綴・ツレ 町・常子・つばめ=*寛治郎・他、此処人形出遣イ早替にて御覧に入候 吉田文五郎/吉田玉蔵)。 ※角書「大物舟櫓/吉野花櫓」。 ※「二十九日間 四月十三日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	判官源義経(玉七)、武蔵坊弁慶(紋三)、若葉内侍(政亀)、主馬野小金吾(栄三)、静御前(文五郎)、川越太郎(紋三)、狐忠信・白狐(玉蔵)、女房お柳実ハ典侍の局(玉五郎)、渡海屋銀平実ハ新中納言知盛(文三)、いがみの権太(玉蔵)、鮎屋弥左衛門(文三)、娘お里(栄三)、下男弥助実ハ三位中将惟盛(文五郎)、梶原景時(紋三)、佐藤忠信(春三郎)、主馬野判官盛久(玉治郎)、熊谷蓮生坊(玉七)。
△	一九一九	大正8	7月5日	京都 南座	千本桜	茶店のだん(津花=友衛門)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	8/12~	東京 新富座	(義経千本桜)	道行(忠信-伊達・静-南部・ツレ 駒・八十・鶴尾・弥=寛治郎・吉三郎・吉五郎・浅造・友之助・他)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	静(栄三)、忠信(玉蔵)。
△	一九一九	大正8	8月23日	浪花座	(義経千本桜)	鮎屋(八十=友之助)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	9月16日	名古屋 末広座	(義経千本桜)	すしや(八十=友之助)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12月3日	東京	(義経千本桜)	千本茶屋(津花=友二)。	
			12月4日	歌舞伎座		椎の木(津花=友二)。	

		12月8日			鮎屋（越路＝吉兵衛）。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九一九	大正8	12月19日	名古屋 御園座	千本桜 （津花）。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一九二〇	大正9	4/28～	京都 竹豊座	義経千本桜 大序より 大詰まで 大序 大内御殿のどん（喜美、角登、時子、多見、鳴尾、時の、かづさ、糸）、川越太郎上使のどん（糸、嶋菊）、夜討のどん（円）、稲荷森のどん（松重、明石）、大物ヶ浦渡海屋のどん（南登、越、錦）、椎の木のどん（春若、大嶋）、小金吾討死の段（敷嶋＝*新三郎）、釣瓶鮎屋のどん（春子＝*新左衛門）、道行朱の玉垣（静御前一角・忠信一薫・円・松重・春若）、川連法眼館のどん（春次、簾）、吉野山のどん（南登）。 ※角書「大物船櫓／吉野花櫓」。	源義経（兵次）、武蔵坊弁慶（松江）、若葉内待（兵次）、主馬小金吾（扇太郎）、静御前（小兵吉）、川越太郎（三郎）、狐忠信（玉松）、女房お柳実ハ典の局（扇太郎）、渡海屋銀平実ハ中納言知盛（兵十郎）、いがみ権太（玉松）、鮎屋弥左エ門（三郎）、娘お里（小兵吉）、弥助実ハ惟盛（富十郎）、梶原平三景時（冠蔵）、佐藤忠信（兵十郎）。
△	一九二〇	大正9	7月23日	名古屋 御園座	千本桜 （津花）。 ※越路一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一九二〇	大正9	8月2日	京都	千本桜 （義経千本桜）	椎の木（津花＝稲丸）。
			8月4日	南座	千本桜	鮎屋（八十＝勝平）。
			8月7日		千本桜	鮎屋（越路＝吉兵衛）。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
△	一九二〇	大正9	11月5日	東京 有楽座	（義経千本桜）	すしや（静＝芳之助）。 ※名流演奏会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。

一九二一	大正10	2/6～	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行の段迄	大序 八島海辺のだん（呂智、雀、津駒、清、淀路、陸路、弥須、富栄、越登、辰、源福）、大内御殿のだん（越名、鏡、つばめ、文、三滝）、北野森のだん（越穂、小富）、堀川御所のだん（口鶴尾、切菅＝＊燕四）、夜討のだん（和泉）、稻荷森のだん（口相生＝＊猿二郎、奥駒＝＊錦糸、此処人形出遣イ早替にて御覧ニ入候 吉田玉蔵）、嵯峨庵室のだん（中津国改メ 生駒＝＊広太郎、次淀＝＊芳之助、切弥＝＊吉弥）、大物ヶ浦渡海屋のだん（八十＝＊吉作、次静＝＊叶、切古靱＝＊清六）、椎の木小金吾討死のだん（口源路、奥一日替り伊達＝＊吉三郎//津＝＊友治郎）、釣瓶寿計やのだん（切一日替り伊達＝＊吉三郎//津＝＊友治郎）、道行朱の玉垣（静御前一叶・忠信一源・島・常子・越名＝吉兵衛・＊勝市・他、此処人形出遣イ早替リニテ御覧に入候 吉田文五郎/吉田玉蔵）。 ※角書「大物舟櫓/吉野花櫓」。 ※「二十九日間 三月六日打上」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「大物ヶ浦のだん・切」鶴沢清六休演、鶴沢叶代役。清六は13日よりオクリまで、20日より段切まで出演（『義太夫年表 大正篇』）。	判官源義経（玉七）、武蔵坊弁慶（紋三）、若葉内侍（政亀）、主馬野小金吾（栄三）、静御前（文五郎）、川越太郎（玉治郎）、狐忠信・白狐（玉蔵）、女房お柳（政亀）、渡海屋銀平実ハ新中納言知盛（文三）、いがみ権太（玉蔵）、鮎屋弥左衛門（文三）、娘お里（栄三）、下男弥助実ハ三位中将惟盛（玉八）、梶原景時（玉治郎）、佐藤忠信（玉徳）、主馬野判官盛久（玉治郎）、熊谷蓮生坊（紋三）。
一九二一	大正10	3/31～	京都 竹豊座	義経千本桜 大序より 道行の段まで	大序 八嶋浜辺のだん（喜智、富久、角登、多見、鳴尾、桑＝数名）、大内のだん（櫛＝弥太郎）、川越太郎上使のだん（中鷹＝兵弥、切操＝宗三郎）、夜討のだん（松重＝吉子）、稻荷森のだん（口嶋菊＝芳太郎、奥三好＝宗三郎）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中松重＝吉子、次薫＝仙松、切大嶋＝仙之助）、椎の木のだん（口嶋菊＝兵弥、奥春次＝仙松）、小金吾討死のだん（明石＝芳太郎）、釣瓶すしやのだん（切錦＝龍市）。 ※竹豊座閉場興行。	源義経（玉市）、武蔵坊弁慶（松三郎）、若葉内侍（松三郎）、主馬小金吾（紋太郎）、静御前（小兵吉）、川越太郎（冠造）、狐忠信（玉松）、典待の局（紋太郎）、渡海屋銀平実ハ中納言知盛（玉松）、いがみの権太（小兵吉）、すしや弥左衛門（兵三）、娘お里（紋太郎）、下男弥助実ハ三位惟盛（玉市）、梶原平三（冠造）。
△	大正10	7月5日	京都	千本桜	三ノ口（津駒＝寛若）。	
		7月9日	南座		寿し屋（津＝友次郎）。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	大正10	8月4日	名古屋 御園座	千本桜	（八十）。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（不明）
△	大正10	12月11日	名古屋 末広座	義経千本桜 三幕	初音の旅路（掛合）。 ※文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	静御前（文五郎）、忠信（文三）、権太（玉次郎）。

△	一九二二	大正11	2月15日	中央公会堂	(義経千本桜)	道行(南部・伊達・町・鏡・越登=寛治郎・吉三郎・玉蔵・他)。 ※国寶ジョッフル元帥招待午餐会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(文五郎)。
△	一九二二	大正11	12月8日	東京 新富座	(義経千本桜)	すしや(津=友次郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
	一九二三	大正12	3/6~	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行迄	大序 大内御殿のだん(千鳥、津若、駒登、照、亀久、播路、呂智、雀、南枝、淀路、陸路、富栄)、北野森のだん(辰/源福/越登/文/越名)、堀川御所のだん(中三滝/越穂/小富=*猿太郎/*寛市、切駒=*燕四)、夜討のだん(鶴尾=*友造/*八助)、嵯峨庵室のだん(中鏡=*芳之助//つばめ=*広太郎、次淀=*徳太郎//八十=*竹三郎、切叶=*叶・琴*叶太郎)、大物ヶ浦渡海屋の段(中嶋=*勝平//相生=*歌助、次静=*吉弥、切古靱=新左衛門)、椎の木小金吾討死のだん(口源路=*友平/*小綱/*友若、奥弥=*仙糸)、釣瓶寿し屋のだん(切津=*友治郎)、道行初音旅路(静御前一綴・忠信一静・ツレ常子・辰=*吉兵衛・*吉弥・*団六・*友之助・*浅造・*友エ門、此処人形出遣イ早替りにて御覧に入申候 吉田文五郎/吉田玉蔵)。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。	源義経(玉七)、武蔵坊弁慶(玉八)、若葉ノ内侍(簀助)、主馬野小金吾(栄三)、静御前(文五郎)、川越太郎(辰五郎)、狐忠信・白狐(玉蔵)、女房おりう実ハ典侍局(栄三)、渡海屋銀平実ハ新中納言知盛(玉蔵)、いがみの権太(文三)、鮎屋弥左衛門(辰五郎)、娘おさと(文五郎)、下男弥介実ハ三位中将維盛(玉松)、梶原平三景時(玉次郎)、主馬野判官盛久(文三)、熊谷蓮生坊(政亀)。
△	一九二三	大正12	5月23日	御霊文楽座	(義経千本桜)	道行(津・伊達・弥・島・源・越登=友治郎・勝市・友造・浅造)。 ※秩父宮殿下御台覧。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(文五郎)、(玉蔵)。
△	一九二三	大正12	6月27日	御霊文楽座カ	義経千本桜	椎の木(越穂=清一、相生=浅造)、小金吾討死(淀=歌助)、釣瓶寿し屋(鏡=友平、八十=団六)、道行(越名・島・文・越登=勝平・友造・小綱・新三郎・兵市)。 ※第2回向上会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	若葉内侍(玉米)、小金吾(玉八)、静御前(簀助)、狐忠信(玉松)、権太(玉幸)、鮎屋弥左衛門(政亀)、おさと(簀助)、弥助(玉八)、梶原平三(玉徳)。
	一九二三	大正12	7/4~	東京 新富座	義経千本桜	大内御殿の段(辰、津若=勝造)、稻荷森の段(つばめ、源路、文、辰=新三郎)、椎の木の段(文=八造、源=勝市)、小金吾討死の段(綴=竹三郎改メ猿糸)、釣瓶鮎屋の段(津=友治郎)、道行初音の旅路(静御前一綴・忠信一静・島・常子改メ綾・源路・辰=広助改メ絃阿弥・新左衛門・吉弥・団方・猿二郎・友衛門・勝造)。	判官義経(簀助)、武蔵坊弁慶(玉八)、若葉内侍(伝之助)、主馬小金吾(玉蔵)、静御前(文五郎)、狐忠信(玉蔵)、いがみの権太(文三)、弥左衛門(玉次郎)、娘お里(文五郎)、下男弥助実ハ惟盛卿(玉松)、梶原景時(玉蔵)。
△	一九二三	大正12	8月5日	浪花座	(義経千本桜)	すしや(静=吉弥)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

△	一九二三	大正12	8/17~20カ	京都 南座	義経千本桜 大序より 道行まで	大内御殿（津若、辰＝藤造）、稲荷森（つばめ、源路、文、辰＝叶太郎）、椎の木（文＝友右衛門、静＝吉弥）、小金吾討死（島＝猿太郎）、釣瓶寿し屋（津＝叶）、道行初音旅（綴・静・島・綾・源路・辰＝絃阿弥・猿糸・団六・猿二郎・友右衛門・八造・勝造）。 ※名庭弦（ママ）阿弥・豊竹綾太夫・豊沢猿糸襲名披露。文楽座引越。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	義経（玉七）、弁慶（玉八）、若葉内侍（簗助）、小金吾（玉蔵）、静御前（文五郎）、忠信（玉蔵）、権太（文三）、弥左衛門（玉二郎）、おさと（文五郎）、弥助後に惟盛（玉松）。
△	一九二三	大正12	12/8~10	名古屋 御園座	義経千本桜	大序（辻、浜子、播摩＝阿太郎、友吉、団伊三）、稲荷森（和泉、島、越登、播摩＝小綱）、椎の木（浜子＝可太郎、静＝吉弥）、小金吾討死（町＝吉弥）、鮎屋（津＝友次郎）、道行（叶・静・島・越登・浜子＝絃阿弥・叶・広太郎・猿二郎・八造・叶太郎）。 ※『御園座七十年史』に拠る。	静御前（文五郎）、忠信（玉蔵）、権太（辰五郎）、弥左衛門（玉七）、お里（文五郎）、梶原平三（玉蔵）。
	一九二四	大正13	2/7~	京都 新京極文楽座	義経千本桜 堀川御所より 道行まで	堀川御所のだん（口 播路／駒尾＝吉貞／団二郎、切 小富改メ 富＝友若）、伏見稲荷森のだん（口 越登＝八造、奥 綾＝寛市、此所人形出遣イ早替りにて御覧に入申候）、椎の木のだん（口 辰＝宗吉、奥 町＝友之助）、釣瓶寿し屋のだん（切 静＝吉弥）、道行初音旅路（静御前＝越登・忠信＝角・綾・辰・播路＝仙糸・団六・友之助・八造・宗吉・団二郎、此処人形出遣イ早替りにて御覧に入申候）。 ※「二十四日打上げ」（『義太夫年表 大正篇』）。	源義経（扇太郎）、武蔵坊弁慶（兵十郎）、若葉内侍（簗助）、主馬野小金吾（紋太郎）、静御前（簗助）、川越太郎（冠造）、狐忠信（玉松）、いがみの権太（辰五郎）、鮎屋弥左衛門（玉松）、娘お里（小兵吉）、下男弥助実は三位中将維盛（紋太郎）、梶原景時（冠造）。
	一九二四	大正13	7/12~15	神戸 松竹劇場	義経千本桜	道行のだん（静＝越登・忠信＝源路・ツレ辰・陸路＝勝市・団六・友衛門・喜代之助・勝造・団伊三・団二郎）。 ※千秋楽は『義太夫年表 大正篇』に拠る。	静（文五郎）、忠信（文三）。
△	一九二四	大正13	7月19日	中座	（義経千本桜）	すし屋（津＝吉弥）。 ※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
△	一九二四	大正13	8/1~10	名古屋 新守座	千本桜	椎木。すし屋。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	（不明）
△	一九二四	大正13	8月19日	京都 南座	千本桜	寿しや（津＝吉弥）。 ※大阪文楽。素浄瑠璃。津太夫紋下清六改名披露。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

一九二五	大正14	1/1～	京都 新京極文楽座	義経千本桜 大序より 道行まで	大序 大内御殿のだん（弥生、亀久＝新吉、稲丸、吉房、吉貞、六三郎）、稲荷森のだん（口 亀久＝吉房、奥 綾＝友之助）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中 長子＝稲丸、次 一日替り 町＝稲丸//和泉＝芳之助//鏡＝吉五郎、切 静＝吉弥）、椎の木小金吾討死のだん（口 弥生＝新吉、奥 一日替り 町＝歌助//和泉＝芳之助//鏡＝吉五郎）、釣瓶寿し屋のだん（切 綴＝新左衛門）、道行初音旅路（静御前－越登・忠信－一日替り 町/和泉/鏡・ツレ 綾・長子・亀久＝仙糸・歌助/芳之助/吉五郎・猿太郎・清二郎・稲丸/吉房/吉貞）。	判官義経（玉市）、武蔵坊弁慶（兵十郎）、若葉内侍（文之助）、主馬野小金吾（紋太郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（小兵吉）、女房お柳実ハ典侍の局（簗助）、渡海屋銀平実ハ新中納言知盛（辰五郎）、いがみの権太（辰五郎）、鮎屋弥左衛門（文五郎）、娘お里（簗助）、下男弥助（紋太郎）、梶原景時（小兵吉）。	
一九二五	大正14	3/5～	御霊文楽座	義経千本桜 大序より 道行まで	大序 大内御殿のだん（弥代、春若、伊達喜、駒登、照、淀路、浜子、亀久）、北野森のだん（陸路、長子、千駒、辰、源福）、序切 堀川御所のだん（綾＝*玉勝、町＝*歌助//和泉＝*芳之助）、夜討のだん（越穂＝*猿二郎//三滝＝*友若）、嵯峨庵室のだん（中 越登＝*浅造/*猿太郎、次 相生＝*友造、切 叶＝*叶・琴 *叶太郎）、大物ヶ浦渡海屋のだん（中 鶴尾＝*広太郎、次 静＝*吉弥、切 古靱＝清六）、椎の木小金吾討死のだん（口 長子＝*友二、奥 綴＝*新左衛門）、釣瓶寿し屋のだん（切 津＝道八）、道行初音旅路のだん（静御前－源・忠信－静・ツレ 越登・辰・浜子＝*仙糸・*勝市・*団六・他、此の処人形出遣イ早替りにて御覧に入申候 吉田玉蔵/吉田文五郎）。 ※角書「大物船櫓/吉野花櫓」。 ※「二十日間」（『義太夫年表 大正篇』）。 ※「大物ヶ浦渡海屋のだん・切」豊竹古靱太夫4日目まで休演、竹本静太夫代役（『義太夫年表 大正篇』）。	源義経（玉徳）、武蔵坊弁慶（玉幸）、若葉内侍（文作）、主馬野小金吾（政亀）、静御前（文五郎）、川越太郎（玉次郎）、狐忠信・白狐（玉蔵）、女房おりう実ハ典侍の局（簗助）、渡海屋銀平実ハ新中納言知盛（玉蔵）、いがみの権太（文三）、鮎屋弥左衛門（辰五郎）、娘おさと（文五郎）、下男弥助実ハ三位中将維盛（政亀）、梶原景時（玉次郎）、主馬野判官盛久（文三）、熊谷蓮生坊（琴糸）。	
△	一九二五	大正14	7/8～9	神戸 松竹劇場	(義経千本桜)	道行。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	(不明)
△	一九二五	大正14	7/18～20	名古屋 御園座	義経千本桜	道行初音旅（静御前－越名・忠信－相生・辰・播路・長子・弥生＝勝市・団六・勝造・吉貞・団伊三・団二郎・金弥、此のところ人形出遣イ早替りにて御覧に入申候 吉田文五郎/吉田玉蔵）。 ※『御園座七十年史』に拠る。	静御前（文五郎）、忠信（玉蔵）。
	一九二五	大正14	7/26～29	東京 歌舞伎座	義経千本桜 道行の段	道行初音の旅路（静御前－越名・忠信－相生・辰・播路・浜子・弥生＝勝市・団六・勝造・吉貞・団伊三・団二郎・金弥、此処人形出遣ひ早替りにて御覧に入申候）。	静御前（文五郎）、忠信（玉蔵）。
△	一九二五	大正14	8月14日	中 座	(義経千本桜)	椎の木（照＝団伊佐）。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	

△	一九二五	大正14	9/20~21カ	京都 南座	義経千本桜	初音旅路（此処人形出遣早替りにて供御覧候）。 ※大阪文楽座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(不明)
△	一九二五	大正14	11月28日	下関 弁天座	(義経千本桜)	椎の木（文字=勝平）、すしや（津=道八）、道行。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	静（文五郎）、忠信（玉蔵）、権太（文三）、おさと（栄三）。
△	一九二五	大正14	12/4カ	高知	(義経千本桜)	すしや（米）。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△	一九二六	大正15	1月30日	京都 京都座	義経千本桜	寿し屋の段（文字=勝平）。 ※文楽座、竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。竹本文字太夫襲名披露興行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
	一九二六	大正15	5/1~	御霊文楽座	義経千本桜 道行のだん	道行初音旅路（静御前一駒・忠信一静・ツレ町・越名・常子=道八・*団六・*友造・*友若・*兵市/*新吉）。 ※竹田出雲掾百七十年忌大記念興行。	静御前（文五郎）、狐忠信（玉蔵）。
△	一九二六	大正15	10月9日	朝日会館	(義経千本桜)	道行（静御前一土佐・忠信一古鞆・ツレつばめ・越名=吉兵衛・清六・友衛門・喜代之助）。 ※朝日会館落成式。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	静（文五郎）、忠信（栄三）。
△	一九二六	大正15	11月5日	文具倶楽部	(義経千本桜)	鮎屋（春次）。 ※近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第255号に拠る。	
△	一九二七	昭和2	3/25~26	飛田遊郭取締事務所	(義経千本桜)	道行。 ※飛田遊郭慰安会。人形入大一座。この演目は芸妓等が出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第259号に拠る。	
△	一九二七	昭和2	3月27日	名古屋 御園座	義経千本桜	鮎屋の段（文字）。 ※「新愛知」（3月27~28日）、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九二七	昭和2	4/1~19	弁天座	義経千本桜	大物ヶ浦渡海屋の段（中越名/富=綱右衛門/猿太郎/友衛門、次鏡/島/和泉=団六/芳之助/友平、切大隅=道八）、椎の木 小金吾討死の段（口三滝/越穂=寛市/叶太郎、奥源=仙糸）、 釣瓶寿し屋の段（切津=友治郎）。 ※千穂楽は『松竹関西演劇誌』に拠る。	源義経（玉七）、武蔵坊弁慶（玉松）、若葉の内侍（紋十郎）、主馬野小金吾（政亀）、女房お柳実は典侍の局（小兵吉）、渡海屋銀平実は新中納言知盛（栄三）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（玉松）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（扇太郎）。
△	一九二七	昭和2	8月27日	東京	(義経千本桜)	椎の木（播路=叶太郎）。	
			8月30日	歌舞伎座	義経千本桜	寿し屋の段（津=叶）。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※27日の演目・役割は『歌舞伎座百年史』に拠る。	
△	一九二七	昭和2	12月11日	浅草 宮戸座	千本桜	鮎屋（米=新治郎）。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。	

	一九二七	昭和2	12月18日	浪花座	(義経千本桜)	すしやの段(和泉=友造)。 ※若手素浄瑠璃興行。	
△	一九二八	昭和3	3/4~6	神戸 八千代座	義経千本桜	すしやの段(切津=友次郎)。道行初音の旅路(静一越名・忠信一相生・辰・隅栄・小松=芳之助・友衛門・勝三郎・市之助・新之助)。 ※「神戸新聞」(2月26・28~29日・3月1~6日の記事、2月28~29日・3月1~8日の広告)に拠る。	静(文五郎)、忠信(栄三)、権太(栄三)、弥左衛門(玉松)、お里(文五郎)、弥助(玉治郎)、梶原(玉幸)。
			3/10~13	名古屋 御園座		道行初音の旅路(静一越名・忠信一相生・ツレ辰・隅栄・小松=芳之助・友衛門・勝三郎・市之助・新之助)。	静御前(文五郎)、狐忠信(栄三)。
			3/16カ			鮎屋の段(切津=友次郎)。 ※大阪文楽座巡業(3月1~20日、神戸・名古屋・広島)の内。 ※『御園座七十年史』に拠る。番付は14~15日上演の二の替りまでで「十日より六日間日延なし」とある。	権太(栄三)、弥左衛門(玉松)、お里(文五郎)、景時(玉幸)。
△	一九二八	昭和3	5/2~6	博多 大博劇場	千本桜	初音の旅路(掛合)。 ※大阪文楽座巡業(4月下旬~5月、九州・中国)の内。5月15~16日小倉・勝山劇場(場割・役割不明)、5月18~19日下関・弁天座(役割不明)で同公演あり。 ※「大阪毎日新聞西部毎日」北九州版(4月29日・5月15・18日)、「同」福岡版(5月1・6日)に拠る。	静御前(文五郎)、狐忠信(栄三)。
△	一九二八	昭和3	5月27日	丹波 柏原劇場	(義経千本桜)	酢(ママ)屋(津=友治郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第270号に拠る。	
△	一九二八	昭和3	7/7~11	東京 新橋演舞場	義経千本桜	道行初音の旅路(静御前一越名・忠信一相生・辰・隅栄・津磨=芳之助・友衛門・勝三郎・道造・道二郎・清若)。	静御前(文五郎)、狐忠信(栄三)。
			7/12~16			寿し屋内の段(切津=友次郎)。	若葉の内侍(玉七)、いがみの権太(栄三)、親弥左衛門(玉次郎)、娘おさと(文五郎)、下男弥助(小兵吉)、梶原景時(玉松)。
△	一九二八	昭和3	7月17日	神戸 八千代座	(義経千本桜)	すし屋(島)。 ※文楽中堅花形の大一座。素浄瑠璃。 ※「神戸新聞」(7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告)に拠る。	
	一九二八	昭和3	8月20日	浪花座	義経千本桜	寿しやの段(和泉=友造)。道行初音の旅路(静御前一越名・忠信一島・ツレ千駒=芳之助・友衛門・ツレ福太郎)。 ※文楽座若手素浄瑠璃。	
	一九二八	昭和3	9/4~5	京都 南座	義経千本桜 稲荷森の段より 寿し屋まで	稲荷森の段(口源左=小庄、奥源路=清二郎)、椎の木小金吾討死の段(口播路=団伊三、奥源=仙糸)、釣瓶寿し屋の段(切津=友次郎)。道行初音の旅路(静御前一つばめ・忠信一文字・ツレ長・文字栄・相寿=勝市・友之助・勝三郎・福太郎・清若・団六)。	源義経(玉七)、武蔵坊弁慶(玉市)、若葉の内侍(紋十郎)、主馬野小金吾(玉松)、静御前(文五郎)、狐忠信(栄三)、いがみの権太(稲荷森=兵次、椎の木~寿し屋=栄三)、親弥左衛門(政亀)、娘お里(文五郎)、下男弥助(扇太郎)、梶原平三景時(玉松)。

	一九二八	昭和3	11/1~5	京都 南座	義経千本桜	道行初音の旅路（忠信一文字・静御前一越名・辰・常子／小松・津磨／文字栄／小金／相寿＝勝平・友衛門・勝三郎／団伊三／団二郎・市之助／勝芳／清若）。	静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）。
△	一九二八	昭和3	11月6日	京都 南座	（義経千本桜）	道行初音の旅路。 ※市招待客向けの公演。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九二九	昭和4	1/2~4	神戸 八千代座	義経千本桜	道行初音の旅（朝・源・越名＝仙糸・猿糸・友衛門）。 ※「神戸新聞」（12月27～28日）に拠る。	（不明）
			1/8~10		千本桜	鮓屋。 ※「神戸新聞」（1月8～10日の記事、1月9日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九二九	昭和4	1/15~16	名古屋 御園座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一朝・忠信一源・ツレ越名＝猿糸・仙糸・友衛門・他三十余名）。 ※「新愛知」（1月11～16日の記事、1月14～15日の広告）、『御園座八十年史』、『御園座百年史』に拠る。	静御前（文五郎）、忠信（栄三）。
			1/17~18		千本桜	寿司屋の段（津＝友次郎）。 ※「新愛知」（1月17～18日の記事、1月17日の広告）、『御園座八十年史』、『御園座百年史』に拠る。	権太（栄三）、弥左衛門（玉松）、お里（文五郎）。
			1月24日	豊橋 東雲座	義経千本桜	椎の木の段、寿司屋の段。道行初音の旅路の段。 ※大阪文楽座巡業（1月15～25日、名古屋・岐阜・豊橋）の内。 ※「参陽新報」（1月20～25日の記事、1月22・24日の広告）、「新朝報」（1月16・20～25日の記事、1月22・24日の広告）、「豊橋新報」（1月16・19～20・22・24～25日の記事、1月23～24日の広告）、「豊橋日日新聞」（1月16・20・22～23・25日の記事、1月22・24日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九二九	昭和4	2月6日	広島 寿座	義経千本桜	道行初音の旅路（静一朝・忠信一文字・越名・常子・小松・源左・相寿＝猿糸・勝平・友衛門・団二郎・市之助・友駒）。 ※大阪文楽座巡業（2月4～22日、山陽・九州）の内。2月4日岡山・岡山劇場（役割不明）、2月22日下関・弁天座で同公演あり。 ※「山陽新報」（1月22日・2月1・5日の記事、2月2日の広告）、「中国新聞」（2月7～8日の記事、2月5～8日の広告）、「大阪毎日新聞西部毎日」山口版（2月21～22日の記事、2月22日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九二九	昭和4	4/15~19	東京 報知新聞講堂	義経千本桜	道行（静御前一さの・忠信一香伯・ワキサ路・朝瀬・米子）。 ※義太夫人形座。 ※『浄瑠璃雑誌』第279号に拠る。	静（徳三郎）、忠信（小兵吉）。
△	一九二九	昭和4	6月5日	名古屋 御園座	千本桜	寿司屋（大隅＝道八）。 ※「新愛知」（6月5日）、『御園座百年史』に拠る。	権太（栄三）、弥左衛門（玉松）、お里（紋十郎）、弥助（扇太郎）、梶原（玉幸）。

		6/15~16	神戸 八千代座	義経千本桜	鮎屋（切大隅＝道八）。 ※大阪文楽座巡業（6月1～19日、東海・山陽）の内。 ※「神戸新聞」（6月10～15日の記事、6月9～15日の広告）に拠る。	内侍（紋太郎）、権太（栄三）、弥左衛門（玉松）、お里（紋十郎）、弥助（扇太郎）、梶原（玉幸）。	
△	一九二九	昭和4	7/6~9	東京 新橋演舞場	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－越名・忠信－島・辰・津磨・宮・文字栄・おぼこ＝浅造・友衛門・勝三郎・小庄・友駒・道次郎）。	静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）。
△	一九二九	昭和4	8月7日	長崎 南座	千本桜	道行（静一薫・忠信－春雄・春次・栄・生島）。 ※竹本角太夫一行巡業（7月25日～8月14日、山陽・九州）の内。 ※「長崎日日新聞」（8月7～8日）、『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	9月9日	名古屋 新守座	（義経千本桜）	鮎屋（つばめ＝勝市）。 ※「新愛知」（9月3～8・10～11日の記事、9月6～7・9・11日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
			9/16~17	神戸 八千代座	義経千本桜	椎の木（播路＝団伊三）、寿し屋（切津＝友次郎）。 ※「神戸新聞」（9月11～15・17～18日の記事、9月13～19日の広告）に拠る。	内侍（紋太郎）、権太（栄三）、弥左衛門（玉松）、お里（文五郎）、弥助（扇太郎）、梶原（玉幸）。
			9月22日	高松 聚楽座	義経千本桜 椎の木の段より 寿しやまで	すしや（津＝友治郎）。 ※大阪文楽座巡業（9月7～23日、名古屋・神戸・高松）の内。 ※「香川新報」（9月19～23日の記事、9月20～21・23日の広告）に拠る。	いがみの権太（栄三）、弥左衛門（玉松）、お里（文五郎）、下男弥助（扇太郎）、梶原平三（玉幸）。
△	一九二九	昭和4	9月20日	愛知 安城座	（義経千本桜）	鮎屋（陸路）。 ※竹本陸路太夫一行巡業（9月18日～10月3日、東海・近畿）の内。9月21日知立座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	10/18~22	東京 飛行協会大講堂	千本桜	椎の木（口米賀、扇賀＝松四郎、照助、奥扇賀、米賀＝新之丞）、小金吾討死（朝見＝猿喜知・胡弓松四郎）、鮎屋（前うつぼ＝猿三郎、切米＝新次郎）。 ※人形座。 ※『浄瑠璃世界』第308号に拠る。	
△	一九二九	昭和4	11/15~20	神戸 松竹座	義経千本桜	道行初音旅路（つばめ・越名・源路＝勝市・友衛門・寛市・勝芳）。 ※「神戸新聞」（11月13日の記事、11月15・20日の広告）に拠る。	（紋十郎）、（玉松）。
	一九二九	昭和4	12/8~10	東京 新橋演舞場	義経千本桜	椎の木の段（和泉＝綱右衛門）、小金吾殺しの場（越名＝友衛門）、寿司屋の段（切津＝友次郎）。	若葉内侍（紋太郎）、主馬小金吾（政亀）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（玉松）、娘おさと（文五郎）、下男弥助（扇太郎）、梶原平三景時（玉市）。

	一九三〇	昭和5	4/10～	四ツ橋文楽座	義経千本桜	寿し屋の段（切津＝友次郎）、道行初音旅路（静御前一鍛・忠信一大隅・ツレ町・越名・源路・富・駒尾／隅栄／照／小松／叶美／駒司／津磨／文字栄／佐久／宮／相寿／おぼこ／隅寿＝新左衛門・道八・猿糸・団六・友之助・叶・友若／猿太郎・喜代之助／新三郎／新吉／勝三郎／団伊三／市之助／広二／道次郎）。 ※「二十日間」（『義太夫年表 昭和篇』）。 ※「道行初音旅路 鶴沢道八と豊沢新左衛門毎日入れ替り」（『浄瑠璃雑誌』第291号）。	若葉内侍（紋太郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（政亀）、娘お里（文五郎）、下男弥助（扇太郎）、梶原平三景時（玉市）。
△	一九三〇	昭和5	6月16日	東京 三越ホール	（義経千本桜）	鮎屋の段（東＝猿三郎）。 ※第18回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第292号に拠る。	
	一九三〇	昭和5	8月21日	東京	義経千本桜	鮎屋の段（津＝友次郎）。	
			8月23日	東京劇場		椎木の段（文＝友衛門）。 ※素浄瑠璃。	
△	一九三〇	昭和5	9月25日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一つばめ・忠信一鏡・ツレ源路・辰・長子＝勝市・団六・綱右衛門・友衛門・勝三郎）。 ※C I S万国統計会議員のための文楽鑑賞会。 ※四ツ橋文楽座プログラム（昭和5年10月）に拠る。	静御前（文五郎）、忠信（栄三）。
	一九三〇	昭和5	10月26日	名古屋 御園座	（義経千本桜）	道行初音の旅路（静御前一源路・忠信一鏡・ツレ辰・小松・文字栄＝勝平・友衛門・勝三郎・勝芳・新一郎）。 ※学生向けマチネー興行。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉松）。
△	一九三〇	昭和5	12月7日	文具倶楽部	（義経千本桜）	すしや（叶美＝才吉）。 ※第8回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第298号に拠る。	
	一九三一	昭和6	3/1～25	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一土佐・忠信一鍛・ツレ町・源路・辰／陸路／長子・駒尾／隅栄／小松／さの／叶美・津磨／文字栄／佐久＝猿糸改め七代目広助・新左衛門・仙糸／友之助／広太郎／友平・猿二郎／綱右衛門／猿太郎／友作／友二・福太郎／広二／新一郎／仙作／猿若・吉兵衛）、川連法眼館の段（中駒＝重造、切古鞆＝清六・ツレ友衛門）。 ※五代豊沢猿糸改め七代豊沢広助襲名披露狂言（「道行初音の旅路」）。 ※「四の切」初日から3日ほど豊竹つばめ太夫代役（『文楽興行記録 昭和篇』）。 ※3月15日NHKラジオ順宮内親王殿下御生誕奉祝記念放送（「道行初音の旅路」より「川連法眼館の段」）（『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る）。	源義経（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤四郎忠信（政亀）。

	一九三一	昭和6	4月8日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一綴・忠信一大隅・ツレつばめ・南部・源路＝新左衛門・道八・仙糸・吉弥・猿太郎・広助）、川連法眼館の段（中駒＝重造、切古鞆＝清六・友衛門）。 ※「伏見宮殿下妃殿下御台覧文楽特別公演」（筋書）。	源義経（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤四郎忠信（政亀）。
△	一九三一	昭和6	4月10日	博多柳座 <竹本座>	（義経千本桜）	鮎屋（春雄）。 ※竹本角太夫一行巡業（4月3～12日、広島・博多）の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第301号に拠る。	
△	一九三一	昭和6	4月13日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（南部・つばめ・他＝吉弥・広助・他）、川連法眼館の段（古鞆＝清六、駒＝重造）。 ※久彌大妃宮殿下・東伏見邦英伯御台特別興行。 ※四ツ橋文楽座プログラム（昭和6年5月）に拠る。	源九郎狐忠信（栄三）。
△	一九三一	昭和6	5/13～15の内	京都華頂会館	千本桜	道行（掛合）。 ※竹本角太夫・豊竹昇之助男女合同人形浄瑠璃会。大道具入。 ※出演は竹沢弥七・豊沢新造・豊沢力松・野沢金弥・竹沢団二郎・ほか。 ※「京都日出新聞」「大阪朝日新聞（京都版）」（5月13日）に拠る。	
△	一九三一	昭和6	5/22～24	中央公会堂	（義経千本桜）	道行初音の旅路。 ※大阪府市青年団処女団主催、民謡舞踊郷土芸術大会。 ※四ツ橋文楽座プログラム（昭和6年5月）に拠る。	静御前（扇太郎）、忠信（玉松）。
	一九三一	昭和6	7/1～2	京都南座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一南部・忠信一鏡・ツレ播路・隅栄・津磨・相寿／越名＝広助・歌助・友衛門・道造・広二・勝芳）。	静御前（文五郎）、忠信（栄三）。
△	一九三一	昭和6	7月7日	船場ビルヂング	（義経千本桜）	鮎屋（陸路＝新八）。 ※浄曲研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第303号に拠る。	
	一九三一	昭和6	7/11～14	東京明治座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一南部・忠信一つばめ・ツレ鏡・播路・隅栄・佐久・宮・土佐子＝吉弥・友衛門・吉左・吉貞・吉男・才六・道造・広助）。	静御前（文五郎）、忠信（栄三）。
	一九三一	昭和6	9/13～17	東京帝国劇場	義経千本桜	寿し屋の段（前／後役毎日替和泉＝歌助//つばめ＝仙糸）。	若葉の内侍（文之助）、いがみの権太（玉松）、親弥左衛門（徳三郎）、娘お里（小兵吉）、下男弥助（文作）、梶原景時（多三郎）。
	一九三一	昭和6	12/1～4	東京明治座	義経千本桜	稻荷森の段（宮＝吉男、辰＝団伊三）、道行初音の旅路（静御前一南部・忠信一鏡・ツレ播路・駒尾・津磨・越名＝吉弥・広助・綱右衛門・広二・吉貞・綱治）、川連法眼館の段（中つばめ＝仙糸、切古鞆＝清六・ツレ清二郎）。	源義経（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤忠信（政亀）。

△	一九三二	昭和7	5月7日	名古屋 御園座	(義経千本桜)	すし屋(文字=勝平)。 ※竹本鍛太夫一行巡業(5月4~14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃興行。 ※「新愛知」(5月1・3~8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	
	一九三二	昭和7	5/11~	新世界通天閣東入演 舞場 <竹本座>	義経千本桜	椎木の段(口竜=竜二郎、富平、正=新三郎)、小金吾忠死の段(滝=団弥)、寿しやの段(前鷹=仙之助、奥栄=六之助)、道行初音の旅(静一喜・忠信一春香・ツレ竜・正=助三郎・仙松・竜二郎・竜市・吉丈)。 ※竹本座旗揚げ興行。	若葉内侍(寅市)、小金吾(定夫)、静御前(徳三郎)、忠信(冠造)、権太(冠造)、鯨屋弥左衛門(玉造)、お里(徳三郎)、弥助(定夫)、梶原(茂明)。
△	一九三二	昭和7	6月10日	博多 大博劇場	義経千本桜	椎の木の段(文=団伊三、呂=叶)、小金吾討死の段(相生=清二郎)、寿司屋の段(前鍛=新左衛門、後大隅=道八)。 ※大阪文楽座巡業(6月4~15日、山陽・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	内侍(文作)、小金吾(扇太郎)、権太(玉松)、弥左衛門(政亀)、お里(文五郎)、弥助(光之助)、梶原(門造)。
△	一九三二	昭和7	6月19日	北陽演舞場	千本桜	道行初音の旅路(静御前一綾・忠信一陸路・ツレ駒尾・文字栄=吉左・吉房・友駒・勝之介・綱延)。 ※花菱会。 ※『文楽興行記録昭和篇』には北新地演舞場とある。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。	
	一九三二	昭和7	6/24~26	京都 南座	義経千本桜 椎ノ木の段より 川連法眼館の段 迄	椎の木の段(文=団伊三、島改め呂=叶)、小金吾討死の段(相生=清二郎)、寿し屋の段(前/後大隅=道八//鍛=新左衛門)、道行初音の旅路(静御前一小春・忠信一鏡・ツレ陸路・播路・小松・越名/英/相益=団六・友衛門/清二郎・団二郎/新太郎/道造・吉貞/仙三郎・友花/小重)、川連法眼館の段(中つばめ=仙糸、切古鞆=清六・ツレ友衛門)。	源義経(紋十郎)、若葉内侍(文作)、主馬小金吾(扇太郎)、静御前(文五郎)、狐忠信(栄三)、いがみの権太(玉松)、寿しや弥左衛門(政亀)、娘おさと(文五郎)、下男弥助(光之助)、梶原平三景時(門造)、佐藤忠信(政亀)。
△	一九三二	昭和7	7月7日	姫路 山陽座 <竹本座>	(義経千本桜)	道行(静一敷島・忠信一春香・ツレ正・鷹=助三郎・新三郎・団弥・新竜(ママ)郎・六之助)。 ※『浄瑠璃雑誌』第314号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	8/1~2	京都 京都座	義経千本桜	道行初音の旅路(静一小春・忠信一呂・つばめ・相生・南部=吉左・綱右衛門・重造・清二郎・友衛門)。 ※「京都日出新聞」(7月29・31日・8月2~3・5~7日)に拠る。	静御前(紋十郎)、忠信(玉幸)。
			8/15~16	名古屋 御園座	義経千本桜	道行(静一小春・忠信一呂・ツレ相生・つばめ・南部)。 ※大阪文楽座若手連五人会(竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹本南部太夫・竹本小春太夫)巡業(8月1日~、近畿・東海)の内。 ※「新愛知」(8月9~13・15~16日)、『御園座七十年史』に拠る。	

	一九三二	昭和7	10月27日	東京 東京劇場	義経千本桜	鮎屋の段（大隅＝道八）。 ※大阪文楽座義太夫一座。素浄瑠璃。	
	一九三二	昭和7	11/1～20	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－南部／小春・忠信－相生・ツレ 南部／小春・富／綾・千駒／長子／播路・駒尾／隅栄／小松・長尾＝吉弥・広助・芳之助／友之助・友造／重造・友衛門／清二郎・叶太郎／友作／友二・喜代之助／団伊三／団二郎）。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）。
△	一九三二	昭和7	11/24～25	四ツ橋文楽座	千本桜	道行（小春・綴・他＝新左衛門・他）。 ※京都雁金会。 ※四ツ橋文楽座プログラム（昭和8年1月）に拠る。	（不明）
△	一九三二	昭和7	12月2日	広島 寿座	千本桜	道行初音の旅路（静御前－南部・忠信－相生・小春・好・相次＝吉左・清二郎・団二郎・勝芳・猿若）。 ※大阪文楽座若手連巡業（12月1日～中旬、山陽・九州）の内。 ※「中国新聞」（11月27日の記事、11月23・30日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12月4日	東京赤坂 並木倶楽部	（義経千本桜）	寿司屋（津賀＝紋左衛門）。 ※大日本義太夫因会吉例大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第318号に拠る。	
△	一九三二	昭和7	12月15日	京都 京都市公会堂	義経千本桜	吉野山の段。 ※「大阪朝日新聞（京都版）」（12月12日）に拠る。	
△	一九三三	昭和8	2月17日	鶴橋劇場 <竹本座>	（義経千本桜）	道行（掛合）。 ※竹本座巡業（2月1～19日、大阪）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	
△	一九三三	昭和8	2月20日	松屋町実業会館	（義経千本桜）	道行（静一文・忠信－播路・ツレ 叶美・佐久・長美＝寛市・団二郎・広二・吉季・仙三郎・綱延）。 ※若手会。桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第321号に拠る。	
	一九三三	昭和8	4/1～20	四ツ橋文楽座	義経千本桜	椎の木小金吾討死の段（口 富＝八助／広太郎）、小金吾討死の段（奥 大隅＝道八）、寿し屋の段（切 古靱＝友次郎）、道行初音の旅路（静御前－小春・忠信－つばめ・ツレ 綾・淀路・小松・長・宮＝仙糸・重造・友若・友作・団二郎／市之助・福太郎／友駒・仙三郎／清茂／重次郎）。 ※第1回2部制興行。	若葉内侍（扇太郎）、主馬小金吾（政亀）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、いがみの権太（栄三）、すしや弥左衛門（玉松）、娘お里（文五郎）、下男弥助（文作）、梶原平三景時（門造）。
	一九三三	昭和8	7/1～3	東京 東京劇場	義経千本桜	椎の木の段（口 叶美＝吉貞、奥 相生＝清二郎）、小金吾討死の段（鏡＝吉左）、寿し屋の段（切 古靱＝友次郎）。	若葉ノ内侍（紋太郎）、主馬小金吾（政亀）、いがみノ権太（栄三）、親弥左衛門（玉松）、娘お里（文五郎）、下男弥助（文作）、梶原平三景時（門造）。

△	一九三三	昭和8	9月27日	奈良 新温泉	(義経千本桜)	鮎屋(長=勝芳)。 ※川口家追善浄瑠璃会。 ※『浄瑠璃雑誌』第327号、『綱太夫四季』に拠る。	
△	一九三四	昭和9	2/4~19	地方公演(東海)	義経千本桜	鮎屋の段(つばめ=芳之助)。 ※豊竹古靱太夫一行巡業。 ※「豊橋日日新聞」(2月1~9日)、「新愛知」(2月9~11・13~19日)、『浄瑠璃雑誌』第330号に拠る。	内侍(光之助)、権太(玉幸)、弥左衛門(玉市)、お里(扇太郎)、弥助(文作)、梶原(玉徳)。
	一九三四	昭和9	4/1~	四ツ橋文楽座	義経千本桜	寿し屋の段(切津=綱造)、道行初音の旅路(静一綴・忠信一文字・鏡・陸路・町=新左衛門・勝平・芳之助・寛市・友作・団二郎/新太郎)。 ※「22日間」(『文楽興行記録昭和篇』)。	若葉の内侍(扇太郎)、静御前(紋十郎)、狐忠信(玉松)、いがみの権太(栄三)、親弥左衛門(政亀)、娘お里(文五郎)、下男弥助(玉幸)、梶原平三景時(門造)。
△	一九三四	昭和9	4/11~13	堀江郭演舞場 <竹本座>	義経千本桜	道行初音旅(静一敷島・忠信一鷹・ツレ 弥国・伊勢=竜助・仙松・新三郎・竜二郎)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第331・332号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	5月30日	(不明)	義経千本桜	三段目 鮎屋の段。 ※「女流人形浄瑠璃の夕」竹本三蝶会に文楽座人形陣が出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。	内侍(栄三郎)、権太(玉松)、弥左衛門(門造)、お里(光之助)、弥助(紋太郎)、梶原(紋太郎)。
△	一九三四	昭和9	6	地方公演 (岡山・名古屋)	(義経千本桜)	鮎屋(つばめ=芳之助)。 ※豊竹古靱太夫一行巡業。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	権太(玉幸)、お里(扇太郎)。
△	一九三四	昭和9	7/7~9	京都 南座	義経千本桜	道行初音の旅路(静一小春・忠信一呂・ツレ 長・宮・相瀬=吉左・団二郎・勝芳・清若・友花・綱延)。 ※『松竹百年史』、「京都日出新聞」(7月8日)に拠る。	静御前(紋十郎)、狐忠信(玉松)。
	一九三四	昭和9	10/16~	戎座 <竹本座>	義経千本桜 嵯峨庵室より 寿しやの段迄	嵯峨庵室の段(角栄=源三郎、浪花津=新吉)、椎の木の段(角栄=源三郎、鷹=勝童)、小金吾討死の段(敷島=仙松)、釣瓶寿しやの段(伊勢=新三郎、大島=六之助)。	若葉内侍(武夫)、小金吾(要二郎)、いがみの権太(兵松)、鮎屋弥左衛門(茂明)、娘お里(徳三郎)、下男弥助実は平維盛(義夫)、梶原平三(鶴太郎)。
	一九三四	昭和9	10月17日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路(静御前一小春・忠信一鏡・ツレ 源路・辰・隅栄=吉左・ツレ 喜代之助・広二・友花・市松・吉季)。 ※機械学会。	静御前(紋十郎)、忠信(玉幸)。
△	一九三四	昭和9	11月10日	新町演舞場	千本桜	道行(つばめ・鏡・辰・さの=重造・広太郎・仙二(ママ)郎・六之助)。 ※東満会追善会。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	
△	一九三四	昭和9	11月23日	和歌山 紀国座	千本桜	道行(掛合)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	

	一九三四	昭和9	12月1日	神戸 御影公会堂	義経千本桜	道行初音の旅路（小春・鏡・源路・隅栄・小松・土佐子／相瀬＝吉左・喜代之助・道造・吉季・友三郎・市松・重次郎／猿一郎）。	静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）。
	一九三四	昭和9	12/24～26	東京 歌舞伎座	（義経千本桜）	椎の木より小金吾討死の段（口辰＝団伊三、奥大隅＝道八）、寿し屋の段（切津＝綱造）。初音の旅路（静御前一駒・忠信＝相生・辰・播路・津磨・宮・駒司＝団六・吉左・団二郎・道造・新太郎・広二・猿一郎・広助）。	若葉の内侍（文作）、主馬小金吾（玉幸）、静御前（紋十郎）、忠信（玉松）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（政亀）、娘お里（文五郎）、下男弥助（光之助）、梶原平三景時（門造）。
△	一九三五	昭和10	4月28日	大阪株式取引所新館	千本桜	道行（静＝土佐・ツレつばめ・南部・小春＝友次郎・広助・友造・猿糸・友衛門・友駒、忠信＝津・文字・相生・津の子＝綱造・勝平・重造・清二郎・綱治・綱延）。 ※大阪株式取引所新築落成祝賀余興浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第339号に拠る。	静（栄三）、忠信（文五郎）。
△	一九三五	昭和10	6月2日	福岡 大博劇場	義経千本桜	椎の木の段（相生＝清二郎）、寿し屋の段（切古靱＝重造）、道行初音の旅路（静御前＝南部・忠信＝呂・ツレ小春・隅栄・越名＝吉左・友衛門・団二郎・道造・友三郎・猿一郎・綱治）。 ※豊竹古靱太夫一行巡業（5月28日～6月14日、山陽・九州）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	静御前（紋十郎）、忠信（玉蔵）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（玉蔵）、娘お里（文五郎）、下男弥助（紋太郎）、梶原平三景時（門造）。
	一九三五	昭和10	7/9～11	東京 明治座	義経千本桜	大物ヶ浦渡海屋の段（中呂＝叶、次大隅＝道八、切古靱＝徳太郎改め猿糸）。	源義経（玉七）、武蔵坊弁慶（門造）、女房お柳実は典侍の局（文五郎）、渡海屋銀平実は新中納言知盛（栄三）。
△	一九三五	昭和10	7月13日	京都カ	千本桜	道行（静＝陸路／駒若・忠信＝隅若・ツレ駒尾＝新之助・勝之助・徳若）。 ※竹本陸路太夫一行巡業（7月11～16日、丹波）の内。竹本陸路太夫幼年時代の母校での公演。桐竹門造の乙女人形入。昼の部は子供向マチネー。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	
△	一九三五	昭和10	8月25日	浪花座	（義経千本桜）	鮎屋（和泉＝友衛門）。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号、「大阪毎日新聞」（8月21日の広告）に拠る。	
△	一九三五	昭和10	11月4日	堀江演舞場 <竹本座>	義経千本桜	道行の段（静＝敷島・忠信＝栄・ツレ鷹・大庫・大島＝六之助・仙松・新三郎・竜二郎）。 ※典拠には竹本鷹太夫病気で欠勤、また鶴沢六之助病気で欠勤のため豊沢仙松が代役とある。 ※『浄瑠璃雑誌』第343号に拠る。	

△	一九三五	昭和10	12/1~2	名古屋 御園座	義経千本桜	寿し屋のどん（古鞆=重造）。 ※大阪文楽座巡業（11月27日~12月8日、岡山・名古屋・豊橋）の内。11月27日岡山・岡山劇場（人形役割不明）で同公演あり。 ※「山陽新報」（11月23・26~29日）、「新愛知」（11月21・24・26~30日の記事、11月25・28日の広告）、「御園座七十年史」に拠る。	若葉の内侍（光之助）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（玉蔵）、娘お里（文五郎）、下男弥助（文作）、梶原景時（玉市）。
△	一九三五	昭和10	12月5日	東京 並木倶楽部	（義経千本桜）	鮎屋（弥国=团市）。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	
△	一九三五	昭和10	12/18~19	神戸 松竹劇場	義経千本桜	寿し屋の段。 ※『松竹百年史』、「神戸新聞」（12月16・19~21日の記事、12月17・20・22日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九三六	昭和11	2月2日	大垣 日吉座 <新義座>	千本桜	道行（掛合 团二郎・他）。 ※大阪文楽新義座一行巡業（2月1~16日、東海・近畿）の内。桐竹門造指導乙女人形入。2月14日津・曙座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	2月4日	一の宮 花岡劇場 <新義座>	（義経千本桜）	鮎屋（つばめ=猿糸）。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	
	一九三六	昭和11	3/1~	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（忠信-文字・静御前-小春・ツレ 陸路・駒尾・常子=友次郎・広助・歌助/友造・猿二郎・八造・友三郎・市松）。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉幸）。
△	一九三六	昭和11	3月27日	京都 華頂会館 <新義座>	千本桜	すしや（つばめ=团二郎）、道行（静-越名・忠信-小松・ツレ 津磨・南部・つばめ=猿糸・他）。 ※乙女人形入り。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一九三六	昭和11	4/6~7	名古屋 御園座	千本桜	道行（掛合 小春・文字）。 ※大阪文楽座巡業（4月2日~、東海）の内。 ※「新愛知」（3月26・28~29日・4月1~3・5・7日の記事、3月27・30~31日・4月1・6日の広告）、「浄瑠璃雑誌」第347号に拠る。	
△	一九三六	昭和11	12/7~8・11	上海 東 劇	（義経千本桜）	道行の段（忠信-陸路・静-隅栄・ツレ 隅若=新之助・徳若・吉右）。 ※役割は11日のもの。他の日は総出演とのみ。	（不明）
			12月10日			鮎屋（陸路=徳若）、道行の段（総出演）。 ※竹本陸路太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	

△	一九三七	昭和12	1月19日	豊橋 豊橋劇場 <新義座>	千本桜	道行の場。 ※『浄瑠璃雑誌』第357号、「豊橋日日新聞」（1月14～19日）に 拠る。	
			2月16日	徳島 徳島温泉劇場 <新義座>	義経千本桜	すし屋の段（つばめ＝猿糸）、道行初音旅路の段（静御前－越 名・忠信－小松・ツレ 津磨・叶美＝団二郎・勝芳・綱延・勝之 介）。 ※大阪新義座巡業（1月19日～3月中旬、東海・関東・東北・北 陸・四国・中国）の内。乙女人形入。 ※「徳島毎日新聞」（2月9・15～18日）に拠る。	
△	一九三七	昭和12	2月21日	大手前国民会館 <竹本座>	義経千本桜	道行初音の旅路（静一角・忠信－敷島・鷹・栄＝新造・六之助・ 新吉・仙作）。 ※女子中等学校卒業記念公演。 ※『浄瑠璃時報』第178号、「大阪朝日新聞」（2月22日）、『浄 瑠璃雑誌』第357号に拠る。	静御前（徳三郎）、狐忠信（栄三郎）。
	一九三七	昭和12	3/1～	四ツ橋文楽座	義経千本桜 椎の木の段より 道行初音の旅路 の段まで	椎の木の段（口 富＝叶太郎//千駒＝団伊三、奥 駒＝清二郎）、主 馬野小金吾討死の段（文字＝広助）、釣瓶寿し屋の段（切 古鞆＝ 清六）、道行初音の旅路（静御前－鍛・忠信－相生/呂・ツレ 伊 達・播路・駒尾/さの・相瀬/松島＝新左衛門・叶・友衛門・鶴 太郎/市之助・新太郎/広二・吉季/友三郎）。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉幸）、若葉の内侍 （光之助）、主馬野小金吾（玉蔵）、いがみの権太 （栄三）、鮎屋弥左衛門（小兵吉）、娘お里（文五 郎）、下男弥助実は三位中将惟盛（文作）、梶原平 三景時（玉市）。
△	一九三七	昭和12	3/23～28	地方公演 （山陽）	千本桜	道行（和泉・伊達・さの・隅栄・常子）。	（不明）
			3月27日	広島 新天劇場	（義経千本桜）	鮎屋（鍛）。 ※竹本鍛太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第359号に拠る。	（不明）
△	一九三七	昭和12	4月8日	美濃町 小倉座 <新義座>	（義経千本桜）	道行（叶美・越名・小松＝団二郎・他）。 ※『浄瑠璃時報』第181号に拠る。	
			4月12日	愛知 瀬戸劇場 <新義座>		道行（越名・小松・津磨・叶美＝団二郎・他）。 ※『浄瑠璃時報』第181号に拠る。	
			4月13日	多治見 豊岡劇場 <新義座>		道行（津磨・叶美・越名・小松＝猿糸・他）。 ※4月14日岐阜カ・岩村劇場で同公演あり。 ※『浄瑠璃時報』第181号に拠る。	

		4月28日	平塚 新宿劇場 <新義座>		道行（静御前・津磨・忠信・叶美・ツレ 越名・小松＝猿糸・他）。 ※大阪新義座巡業（4月4～28日、東海・近畿・甲信越・関東）の内。乙女人形入。 ※『浄瑠璃時報』第181号には、三味線が団二郎・勝芳・綱延・勝之介とある。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、『浄瑠璃時報』第181号に拠る。		
△	一九三七	昭和12	4月27日	堀江演舞場	義経千本桜	鮎屋。 ※松崎松重翁三回忌追善浄瑠璃会。文楽座人形入素義浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第360号に拠る。	内侍（文之助）、権太（玉幸）、弥左衛門（玉徳）、お里（政亀）、惟盛（兵次）、梶原（兵次）。
△	一九三七	昭和12	5月19日	新町演舞場	義経千本桜	道行きの段（静御前・伊達・忠信・源・ツレ 相生・呂・むら・辰・陸路・照・駒尾・隅栄・竹・さの・駒若・隅若・松島・相瀬＝重造・友衛門・ツレ 清二郎・友作・吉左・八造・喜代之助・団伊三・福太郎・友駒・市之助・清若・新太郎・徳若・一郎右衛門・市松・吉蔵）。 ※鶴沢綱右衛門追善会。 ※『浄瑠璃雑誌』第361号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	7/19～29	海外公演 （台湾） <新義座>	（義経千本桜）	道行（静・津磨・忠信・叶美・ツレ 越名・小松＝猿糸・勝芳・綱延・勝之介）。 ※桐竹門造指導乙女人形入。7月20日台北・栄座、7月24日高雄座、7月26日台中座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第364号、「台湾日日新報」（7月20日）、「大阪毎日新聞（台湾版）」（7月22日）等に拠る。	
△	一九三七	昭和12	8月10日	今里演舞場	（義経千本桜）	道行初音の旅（静御前・常子・狐忠信・駒尾・ツレ 駒若・隅若・竹＝友駒・市松・友三郎・猿若・友太郎）。 ※若手献金興行。桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第364号、『浄瑠璃時報』第190号に拠る。	
△	一九三七	昭和12	10月29日	岡島会館	千本桜	（静御前・越名・忠信・つばめ・ツレ さの・南次＝吉季・清友・勝之介・友花・綱延）。 ※第5回研声会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
△	一九三八	昭和13	1月20日	ラジオ放送	義経千本桜	吉野山の段 道行初音旅（角＝新造・ツレ 新三郎・新吉）。 ※「大阪朝日新聞」「東京朝日新聞」（1月20日）、『太棹』第93号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	1月29日	東京 東京劇場	（義経千本桜）	鮎屋（呂＝吉左）。 ※大阪文楽座義太夫若手花形特別公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第368号、「東京朝日新聞」（1月26日の広告）に拠る。	

△	一九三八	昭和13	3月15日	岐阜 金華劇場 <新義座>	義経千本桜	すしやの段（陸路＝徳若）。 ※大阪新義座巡業（3月中旬、東海・北陸・近畿）の内。乙女人形娘連特別出演。 ※「岐阜日日新聞」（3月11～12・14～16日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	3月30日	京都 朝日会館	義経千本桜	寿し屋の段（大隅＝寛治郎）、道行初音の旅路（掛合 静御前－伊達・忠信－源・ツレ 土佐（ママ）＝重造・ツレ 八造・寛若・寛六）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、文楽浄瑠璃の夕。 ※「大阪朝日新聞（京都版）」（3月30日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	4月1日	北陽演舞場 <新義座>	義経千本桜	鮎屋の段（陸路＝徳若）。 ※『浄瑠璃雑誌』第369・370号、「大阪毎日新聞」（3月27日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	4月8日	新大阪ホテル	義経千本桜	道行初音の旅路の段。 ※イタリア親善使節団の文楽鑑賞。 ※「大阪朝日新聞」（4月10日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	5月25日	東京	（義経千本桜）	鮎屋（陸路＝徳若）。	
			5月26日	仁寿講堂 <新義座>	千本桜	道行（角＝吉五郎・勝平・勝芳・綱延）。 ※大阪新義座巡業（5月25日～6月6日、東海道）の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、『太棹』第94・95号、「東京朝日新聞」（5月13日）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	6月21日	高知 堀詰座	千本桜	静忠信道行（静一駒・忠信－大隅・ツレ 長尾・駒若・隅若＝重造・清二郎・吉右・吉季・重次郎）。 ※『浄瑠璃雑誌』第371号、「高知新聞」（6月13・15～16・19～23日）に拠る。	（不明）
△	一九三八	昭和13	6月29日	京城 朝日座 <新義座>	義経千本桜	※大阪新義座巡業（6月23日～7月8日、下関・大陸）の内。乙女人形入。 ※「京城日報」（6月26・30日の記事、6月28～30日の広告）に拠る。	
△	一九三八	昭和13	7月1日	文具倶楽部	千本桜	道行。 ※乙女人形浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第372号に拠る。	
△	一九三八	昭和13	7月27日	京都 朝日会館 <新義座>	義経千本桜	すしやの段（陸路＝徳若）。 ※『浄瑠璃雑誌』第372号、「京都日出新聞」（7月25・30日）、「京都日日新聞」（7月22・30日）に拠る。	
	一九三八	昭和13	9/26～28	東京 明治座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－呂／伊達・忠信－和泉・辰・駒若・相瀬＝叶／友衛門・吉左・吉季・清友・一郎右衛門・広若）。	静御前（文五郎）、忠信（栄三）。
△	一九三八	昭和13	9月29日	東京 浅草松屋ホール	（義経千本桜）	鮎屋。 ※大阪文楽人形入浄瑠璃会。太夫は素人なので省いた。 ※『太棹』第99号に拠る。	内侍（玉米）、権太（玉幸）、お里（政亀）、維盛（文之助）、梶原（多三郎）。

△	一九三八	昭和13	10月15日	東京 浅草並木倶楽部	(義経千本桜)	鮎屋(弥国=寛三郎)。 ※日本帝都義太夫因会大会。 ※『太棹』第99号に拠る。	
	一九三八	昭和13	11/2~	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路(静御前一呂/伊達・忠信-相生/織・ツレ辰/ 播路・常子/宮/駒若・隅若/松島/相瀬=道八/寛治郎・友衛 門/寛市・喜代之助/八造・新太郎/吉季・一郎右衛門/清友/ 広若・団伊三/団六)。	静御前(紋十郎)、狐忠信(玉幸)。
△	一九三八	昭和13	11月12日	大紙倶楽部	義経千本桜	鮎屋(春香=六之助)。 ※五常会。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第374号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	1月11日	青島 海軍軍艦甲板設営舞 台 <新義座>	義経千本桜	道行の段(掛合)。 ※豊竹陸路太夫一行皇軍慰問公演。乙女人形入。 ※「大阪朝日新聞(北支版・中支版)」(1月13日)、「大阪朝日 新聞」(1月14日)に拠る。	
	一九三九	昭和14	3/1~	四ツ橋文楽座	義経千本桜	椎の木の段(口富=新太郎、奥大隅=広助)、主馬野小金吾討死 の段(源=吉弥//文=寛市)、釣瓶寿し屋の段(切津=綱造)。	若葉の内侍(紋太郎)、主馬野小金吾(玉幸)、い がみの権太(栄三)、鮎屋弥左衛門(玉蔵)、娘お 里(文五郎)、下男弥助(玉幸)、梶原平三景時 (門造)。
	一九三九	昭和14	3/27~29	東京 明治座	義経千本桜	寿し屋の段(前織=団六、切古靱=重造)。	若葉の内侍(紋太郎)、いがみの権太(栄三)、鮎 屋弥左衛門(門造)、娘お里(文五郎)、下男弥助 実は三位中将惟盛(玉幸)、梶原平三景時(玉 徳)。
△	一九三九	昭和14	5月1日	東京 仁寿講堂 <新義座>	千本桜	道行(静-越名・忠信-叶美・ツレ隅栄=綱延・勝芳・徳若)。 ※大阪新義座巡業(4月~5月9日、関東・東海)の内。乙女人形 入。 ※『浄瑠璃雑誌』第378号、『浄瑠璃時報』第231号に拠る。	
△	一九三九	昭和14	5月3日	東京 日本橋倶楽部	義経千本桜	鮎屋の段(前浪花=猿平、後弥国=寛三郎)、吉野山道行(静- 都・忠信-弥国・ツレ駒登・松江=猿蔵・芳太郎・猿三郎・扇之 助・美之助・延左衛門)。 ※南北座春季公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号、『太棹』第103号に拠る。	静(国三郎)、忠信(国五郎)、権太(国五郎)、 お里(国三郎)、維盛(川辺三左衛門)、梶原(高 瀬弦之丞)。
△	一九三九	昭和14	5/21~22	名古屋 御園座	千本桜	すしや(古靱=重造)。 ※「新愛知」(5月21日の記事と広告)に拠る。	(文五郎)、(栄三)。
△	一九三九	昭和14	6月23日	東京 日本橋倶楽部	(義経千本桜)	鮎屋(駒登=扇之助)。 ※日本帝都義太夫因会男子部春季大会。 ※『太棹』第105号、『浄瑠璃月報』第13号に拠る。	

△	一九三九	昭和14	9/2~3	名古屋 御園座	義経千本桜	道行（掛合源・和泉・他四人）。 ※『御園座七十年史』、『浄瑠璃雑誌』第382号、「新愛知」（9月1~3・5~6日の記事、9月1~7日の広告）に拠る。	静（文五郎）、忠信（栄三）。
△	一九三九	昭和14	9月20日	博多 大博劇場	義経千本桜	すしやの段（古靱=清六）。 ※文楽座巡業（9月9~20日、神戸・鳥取・博多・他）の内。 ※「福岡日日新聞」（9月12・16・18~20日の記事、9月15日の広告）、「九州日報」（9月16~17・19~20日の記事、9月15日の広告）に拠る。	いがみの権太（栄三）、弥左衛門（門造）、お里（文五郎）、維盛（玉幸）。
△	一九四〇	昭和15	2月27日	東京 電気倶楽部	（義経千本桜）	鮎屋（駒登=扇之助）。 ※義太夫弥生会第1回。 ※『太棹』第112号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	3月27日	横浜 横浜交友倶楽部	千本桜	道行（米翁・巖・音女=猿蔵・猿三郎）。 ※鶴沢文教十三回忌追善義太夫大会。 ※『太棹』第113号に拠る。	
	一九四〇	昭和15	5/1~	四ツ橋文楽座	義経千本桜 道行初音旅より 川連館の段まで	道行初音旅（静御前-竹改め 雛・忠信-織・ツレ 伊勢・辰・松島=仙糸・広助・友太郎/寛若・広二/吉季・清友/綱延・仙作）、川連法眼館の段（中駒=清二郎、切古靱=清六・ツレ 勝芳・清友/綱延）。 ※豊竹竹太夫改め五代竹本雛太夫襲名披露。	源義経（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤四郎忠信（政亀）。
△	一九四〇	昭和15	6月5日	東京 日本橋倶楽部	義経千本桜	すしやの段（前都=辰六、奥駒登=扇之助）。 ※東京浄瑠璃人形芝居南北座春季公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第389号には、「すしやの段・奥」の役割は（近衛=松四郎）とある。 ※『浄瑠璃雑誌』第389号、『太棹』第114・115号に拠る。	内侍（高瀬弦之丞）、権太（国五郎）、お里（池田三国）、維盛（三春）。
	一九四〇	昭和15	6/27~28	神戸 松竹劇場	義経千本桜	道行初音の旅路（静-竹改め 雛・忠信-織・ツレ 辰・宮・松島=道八・団六・新太郎・一郎右衛門・勝芳・竜市）、川連法眼館の段（中呂=新左衛門、切古靱=清六・ツレ 清友・綱延）。	源義経（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤四郎忠信（光之助）。
	一九四〇	昭和15	8/17~20	東京 明治座	義経千本桜 通し狂言	大物ヶ浦知盛出陣の段（呂=吉左）、渡海屋の段（切大隅=広助）、椎の木の段（相生=吉五郎）、小金吾討死の段（鮎屋弥左衛門-富・主馬ノ小金吾-播路・若葉の内侍-津磨/宮・六代君-越名・猪熊大之進-隅若/駒若=喜代之助）、釣瓶寿し屋の段（前呂=吉左、切駒=清二郎）、道行初音の旅路（静御前-伊達・忠信-文・津磨/宮・隅若/駒若・松島=友衛門・八造・吉季・一郎右衛門・団作・広弥）、川連法眼館の段（織=団六・ツレ 吉季・勝芳）。 ※皇紀二千六百年奉祝芸能祭選定。	源義経（紋十郎）、武蔵坊弁慶（玉徳）、若葉の内侍（光之助）、主馬ノ小金吾（玉幸）、静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）、典の局（文五郎）、渡海屋銀平実は平知盛（玉蔵）、いがみの権太（栄三）、鮎屋弥左衛門（政亀）、娘お里（紋十郎）、下男弥助実は三位中将維盛（文作）、梶原平三景時（門造）。

△	一九四〇	昭和15	9月21日	東京 新橋演舞場	義経千本桜	道行初音旅（南部・相生・千駒・常子・越名＝吉五郎・喜代之助・友太郎・八造・一郎右衛門・仙松）。 ※素浄瑠璃。 ※「朝日新聞（東京版）」（9月20～22・25～27日の広告）、 「報知新聞」（9月20～27日の広告）、「東京日日新聞」（9月25日の記事、9月22日の広告）、『太棹』第118号、『浄瑠璃雑誌』第394・395号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	9/27カ	東京 新橋演舞場	（義経千本桜）	寿司屋（古靱＝清六）。 ※素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第395号に拠る。	
△	一九四〇	昭和15	10月28日	京都 朝日会館	義経千本桜	寿し屋の段（文字＝喜代之助）。 ※第9回秋季文楽浄瑠璃の夕。国粹古典芸術鑑賞会。 ※「京都日日新聞」（10月24日）、「京都日出新聞」（10月25日）に拠る。	
△	一九四一	昭和16	1月24日	東京 日本橋倶楽部	千本桜	道行（静一近衛・忠信一弥国・駒登・巴＝松四郎・猿喜知・宗之助・美之助・絃内・絃平）。 ※南北座第1回東京浄瑠璃人形芝居初春公演。 ※『太棹』第123号に拠る。	（不明）
	一九四一	昭和16	3/1～23	四ツ橋文楽座	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（前大隅＝広助、切古靱＝清六）。 ※千穰楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	若葉内侍（栄三郎）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（玉蔵）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（光之助）、梶原平三景時（玉幸）。
△	一九四一	昭和16	3月9日	ラジオ放送	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一角・忠信一文字＝新左衛門・ツレ新造・喜代之助・新太郎・清友・他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「朝日新聞（東京版）」（3月9日）、 『太棹』第124号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	5/27～28	大阪軍人会館	義経千本桜	道行（静一津磨・忠信一隅若・ツレ呂賀＝友花・扇之助・団作・吉蔵）。 ※義太夫振興会第1回演奏会。 ※「人形は元竹本座の吉田徳三郎一座が出遣い」（典拠）。 ※『文楽芸術』第1号に拠る。	
△	一九四一	昭和16	7月26日	東京 浅草並木倶楽部	（義経千本桜）	鮎屋（播路＝勝芳）。 ※鶴沢綱八追善会。 ※『太棹』第127・128号に拠る。	
	一九四一	昭和16	12/4～8	東京 新橋演舞場	義経千本桜	椎の木の段（口播路＝団伊三／友花）、小金吾討死の段（奥織＝団六、和泉＝叶）、釣瓶寿し屋の段（切古靱＝清六）。	若葉の内侍（栄三郎）、主馬野小金吾（文作）、いがみの権太（栄三）、鮎屋弥左衛門（玉蔵）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（光之助）、梶原平三景時（玉徳）。

△	一九四二	昭和17	1/1~25	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音旅（静御前-重・ツレ 雛・播路・隅若・松島・長尾=新左衛門・広助・友造/友平・猿二郎/叶太郎・友作/友太郎・徳若/仙松・忠信-住=喜代之助・ツレ 団伊三・吉季）。 ※二代豊竹古靱太夫櫓下披露興行。 ※千穂楽は「大阪毎日新聞」（1月23日の広告）に拠る。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉幸）。
△	一九四二	昭和17	2月15日	四天王寺境内天王寺 高等女学校講堂	義経千本桜	初音之旅（静-常子・忠信-播路・ツレ 呂賀=勝芳・ツレ 綱延・一郎右衛門・団作、此のところ人形吉田玉幸早変りにて相勤め候）。 ※聖徳太子奉納人形浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第408号、『文楽芸術』第7号に拠る。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉幸）。
△	一九四二	昭和17	4/1~	四ツ橋文楽座	義経千本桜	椎の木の段（口 千駒/司=友花、奥 大隅=清二郎）、主馬野小金吾討死の段（和泉=清八//相生=吉五郎）、釣瓶寿し屋の段（切古靱=清六）。	若葉内侍（栄三郎）、主馬野小金吾（玉幸）、いがみの権太（栄三）、親弥左衛門（玉蔵）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位維盛（光之助）、梶原平三景時（門造）。
△	一九四二	昭和17	4月27日	京都 朝日会館	(義経千本桜)	鮎屋（呂=仙糸）。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、文楽浄瑠璃の夕。 ※『浄瑠璃雑誌』第408号、「朝日新聞（大阪）（京都版）」（4月23日の記事、4月26日の広告）に拠る。	
△	一九四二	昭和17	5月2日	東京 浅草並木倶楽部	義経千本桜	鮎屋（前 朝見=松市郎、切 駒登=和孝）、道行初音旅（総掛合 静-巴・ツレ 駒登=芳太郎・ツレ 猿喜知・美之助・松市郎・忠信-卯・ツレ 朝見=扇之助・ツレ 絃内・和孝）。 ※古曲発表会。 ※『浄瑠璃月報』第43・45号、『太棹』第134・135号に拠る。	
△	一九四二	昭和17	5月26日	東京 明治座	(義経千本桜)	道行初音旅。 ※二代目竹本綾之助襲名披露会。人形出遣いにて出演。 ※『浄瑠璃月報』第43・44号、『文楽芸術』第10号、『太棹』第135号に拠る。	静（紋十郎）、忠信（玉助）。
△	一九四二	昭和17	6/1~	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前-南部/伊達・狐忠信-七五三・雛/つばめ・文字/越名・松島/南次=綱造・勝平/重造・叶太郎・一郎右衛門・猿二郎・友造/友平）、川連法眼館の段（前/後 役毎日替 春=寛治郎//重=広助、切 古靱=清六・ツレ 友衛門・吉季）。 ※四代玉蔵改め吉田玉造改名披露。	源義経（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（玉蔵改め 玉造）、佐藤四郎忠信（光之助）。
△	一九四二	昭和17	6月22日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅路の段（静御前-田喜・忠信-隅若・ツレ 利根・津磨・源=清友・吉季・吉蔵・仙松・清広・勝芳）。	静御前（光之助）、狐忠信（亀松）。

		6月23日			道行初音の旅路の段（静御前－越名・忠信－千駒・ツレ 利根・呂賀・伊勢＝徳若・綱延・団作・一郎右衛門・清広・吉季）。 ※日本因協会第2回技芸奨励会。 ※『浄瑠璃雑誌』第410号、『文楽芸術』第10号、『太棹』第136号に拠る。	静御前（亀松）、狐忠信（光之助）。	
△	一九四二	昭和17	7/6～10	東京 新橋演舞場	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－伊達／南部・狐忠信－七五三・宮／越名・越名／宮・隅若・松島＝綱造・勝平／重造・友衛門／吉左・一郎右衛門・団作・清広）、川連法眼館の段（相生＝吉五郎・ツレ 勝芳//織＝団六・ツレ 吉季）。	源義経（玉幸改め 玉助）、静御前（文五郎）、狐忠信（玉蔵改め 玉造）、佐藤四郎忠信（玉徳）。
△	一九四二	昭和17	8/6～10	大阪劇場	義経千本桜	道行初音旅（狐忠信－相生・静御前－雛・ツレ 津磨・宮・松島＝吉五郎・友衛門・清友・一郎右衛門・清広）。 ※『浄瑠璃雑誌』第412号による人形小割は次の通り。静御前の左が政亀、足が小兵吉、狐忠信の左が門造、足が玉造。 ※『浄瑠璃雑誌』第412号は、初日を8月5日とする。 ※「大阪毎日新聞」（7月18日・8月6日の広告）、「朝日新聞（大阪版）」（7月19日・8月6・9日の広告）、『浄瑠璃雑誌』第412号、『太棹』第137号に拠る。	静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）。
△	一九四三	昭和18	1月29日	東京 日比谷公会堂	千本桜	道行。 ※朝日文化賞授賞式および記念講演会。吉田栄三、吉田文五郎、昭和17年度朝日文化賞を受賞。大西利夫による人形解説、人形操作試演の後に実演、竹本源太夫、鶴沢友花が特別参加。 ※「朝日新聞（東京版）」（1月30日）、「朝日新聞（大阪版）」（1月14・30日）、『浄瑠璃雑誌』第416・417号に拠る。	（栄三）、（文五郎）。
	一九四三	昭和18	2/1～	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音旅（静御前－伊達・狐忠信－織・ツレ 雛／つばめ・播路／司・富／三滝＝喜左衛門・吉季改め 市治郎・清友／錦糸・錦糸／清友・徳若・団作／仙松・猿二郎）。 ※吉田栄三・吉田文五郎朝日文化賞受賞記念。 ※吉田文五郎、風邪のため途中で桐竹紋十郎に代わりそのまま休演、2月22・23日再出演（「朝日新聞（大阪版）」（2月21日）、『浄瑠璃雑誌』第417号に拠る）。	静御前（文五郎）、狐忠信（栄三）。
△	一九四三	昭和18	5/28～29	朝日会館	義経千本桜	道行（静－伊達・忠信－織・ツレ 雛・文字・宮・越名＝喜左衛門・団六・勝太郎・錦糸・団作・清広）。 ※朝日文化賞受賞披露、軍人援護費醸金催会、文楽の夕。 ※『浄瑠璃雑誌』第420号に拠る。	静（文五郎）、忠信（栄三）。

	一九四三	昭和18	7/16~20	東京 新橋演舞場	義経千本桜 通し狂言	伏見稻荷の森の段（九郎判官源義経一七五三・静御前一雛・佐藤四郎兵衛忠信一浜・速見藤太一隅若・武蔵坊弁慶一松島・亀井六郎一津磨・駿河次郎一千駒＝綱造）、嵯峨庵室の段（中宮／越名＝錦糸、後相生＝吉五郎）、椎の木の段（口つばめ＝仙三郎、奥大隅＝清二郎）、小金吾討死の段（呂＝仙糸）、釣瓶寿しの段（切古鞆＝清六）、道行初音の旅路（静御前－伊達・狐忠信－呂賀改め松・ツレ津磨・宮・松島・千駒＝喜左衛門・友衛門・団伊三・錦糸・清広・団作）、川連法眼館の段（中南部＝重造、切織＝団六・ツレ友花改め燕三・勝太郎）。 ※朝日文化賞受賞記念上演「道行初音の旅路」。	九郎判官源義経（亀松）、武蔵坊弁慶（玉徳）、若葉内侍（栄三郎）、主馬小金吾（紋十郎）、静御前（文五郎）、狐忠信（稻荷森・法眼館＝玉助、道行＝栄三）、いがみの権太（椎の木＝光之助改め光造、寿し＝栄三）、鮎屋弥左衛門（政亀）、娘お里（紋十郎）、下男弥助実は三位中将維盛（亀松）、梶原平三景時（門造）、佐藤四郎兵衛忠信（紋司）、主馬判官盛久（門造）、蓮生坊（玉徳）。
△	一九四三	昭和18	8/13~15	名古屋 御園座	義経千本桜	道行の段（南部・伊達・相生＝喜左衛門・重造・吉五郎・団伊三・他）。 ※『御園座七十年史』、「中部日本新聞」（7月28日の記事、8月1・5・10・13・15日の広告）に拠る。	(不明)
△	一九四三	昭和18	9月25日	ラジオ放送	義経千本桜	道行初音旅 吉野山の段（重・他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（9月25日）に拠る。	
△	一九四三	昭和18	11月20日	東京 寿々本	(義経千本桜)	すしや（路＝団市）。 ※義太夫特選大会。 ※『浄瑠璃月報』第81号に拠る。	
	一九四四	昭和19	4/29~5/25	四ツ橋文楽座	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切呂＝友衛門、大隅＝清八）。 ※千穉楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	若葉の内侍（紋太郎）、いがみの権太（玉助）、鮎屋弥左衛門（政亀）、娘お里（紋十郎）、下男弥助実は三位中将維盛（光造）、梶原平三景時（玉徳）。
△	一九四五	昭和20	6	地方公演 (四国・九州)	義経千本桜	初音ノ旅。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
	一九四五	昭和20	7/11~20	朝日会館	義経千本桜	道行初音旅（静御前一重・忠信一七五三・八十・松島・富＝仙糸・錦糸・仙松・寛弘・友平）。 ※朝日新聞大阪厚生事業団主催、第1回復興公演。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）。
△	一九四五	昭和20	9/7~12	京都 南座	義経千本桜	道行初音の段（掛合）。 ※『昭和の南座 資料編（上）』、『文楽人形の芸術』、「京都新聞」（8月27~28・30~31日・9月1・6~7・12~13日の広告）に拠る。	(不明)
△	一九四五	昭和20	11/22~27	神戸 八千代劇場	義経千本桜	道行初音の旅路。 ※『松竹百年史』は千穉楽を28日とする。 ※「神戸新聞」（11月16・21日の広告）に拠る。	

	一九四五	昭和20	12月18日	三重カ 富田劇場	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一浜・忠信一隅若・松島・千駒＝清二郎・新三郎・団作）。 ※大阪文楽座巡業（12月12～21日、東海）の内。12月21日松阪市・松阪劇場（役割不明）にて同公演あり。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）。
	一九四六	昭和21	3/3～22	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の旅（静一織・忠信一和・隅若・千駒・八十＝団六・松之輔・叶太郎・錦糸・仙松）。 ※24日迄のところ、チフスの為23日より中止（『文楽興行記録昭和篇』）。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）。
△	一九四六	昭和21	4月25日	京都 西洞院にしき	（義経千本桜）	稲荷ノ森（口松島＝重造、奥宮＝勝太郎）、渡海屋（中浜＝重造、切古靱＝清六）、道行（静一織・忠信一つばめ・和・宮・浜＝団六・清六・重造・市治郎・勝太郎）、川連館（中伊達＝喜左衛門、切古靱＝清六・ツレ団六）。 ※第3回古靱を聴く会。 ※『文楽興行記録昭和篇』欄外記事に拠る。	
△	一九四六	昭和21	5月30日	ラジオ放送	義経千本桜	道行初音の旅路の段（静御前一伊達・狐忠信一相生・ツレ司＝喜左衛門）。 ※BK第一スタジオに欄干付きの舞台を設けて上演、ラジオ中継放送。 ※「大阪日日新聞」「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（5月30日）に拠る。	
△	一九四六	昭和21	6	地方公演 （中国・九州）	義経千本桜	（呂、伊達、七五三、松島）。 ※6月6日倉敷・千秋座（場割・役割不明）、6月17～19日博多・大博劇場（場割・役割不明）、6月21日佐賀・佐賀劇場（場割不明）での公演を含む。 ※「合同新聞」（6月5日の広告）、「西日本新聞（地方版）」（6月16・18～19日の広告）に拠る。	
	一九四六	昭和21	10/6～27	四ツ橋文楽座	吉野桜源九郎狐	親鼓恩愛の段（中つばめ＝市治郎、切呂＝友衛門・ツレ市治郎）。 ※第1回文楽座新進若手養成勉強会。	源義経（玉徳）、静御前（栄三郎）、狐忠信（亀松）、佐藤忠信（紋太郎）。
	一九四六	昭和21	10月28日	四ツ橋文楽座	吉野桜源九郎狐	（中司＝広助、つばめ＝勝太郎・仙松）。 ※第1回文楽座新進若手養成勉強会。	義経（紋三郎）、静（紋之助）、狐忠信（栄三郎）、佐藤忠信（玉枝）。
△	一九四六	昭和21	11/21～29	地方公演 （四国）	（義経千本桜）	道行。 ※「愛媛新聞」（11月18・22日の広告）、「島根新聞」（11月20日の記事、11月22・24日の広告）、『文楽因会三和会興行年表』に拠る。	（不明）
	一九四六	昭和21	12/5～23	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音旅（静御前一雛・狐忠信一源・隅若・司・織部・織の・富＝広助・松之輔・叶太郎・一郎右衛門・新三郎・猿二郎）。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）。

△

一九四六	昭和21	12月24日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音旅（静御前—越名・狐忠信—浜・源・伊達・住・大隅・古靱＝清六・寛治郎・重造・叶太郎・猿二郎）。 ※若手向上会第3回。	静御前（紋司）、狐忠信（玉男）。
一九四七	昭和22	1月9日	ラジオ放送	千本桜	道行（雛・他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（1月9日）に拠る。	
一九四七	昭和22	3/24～25	奈良 友楽座	義経千本桜	道行旅路旅（静御前—七五三・狐忠信—司・ツレ 隅寿＝錦糸・新三郎・友衛門）。	静御前（亀松）、狐忠信（光造）。
一九四七	昭和22	6月14日	四ツ橋文楽座	義経千本桜	道行初音の鼓の段（静御前—伊達・忠信—綱・松・司・宮・つばめ・相生・呂・住・大隅＝喜左衛門・弥七・清二郎・重造・吉五郎・友衛門・広助・清八・綱造・寛弘）。 ※天覧人形浄瑠璃。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）。
一九四七	昭和22	7/12～19	京都 南座	義経千本桜	道行初音の旅（静御前—伊達・忠信—つばめ／浜・宮・隅若・隅寿・伊達男・富＝喜左衛門・重造・勝太郎・錦糸・清友・猿二郎）。 ※「天覧狂言」（筋書）。	静御前（光造）、狐忠信（栄三郎）。
一九四七	昭和22	7/26～27	和歌山 和歌山会館	義経千本桜	道行初音旅（相生・越名・伊達男・相次・古住＝吉五郎・松之輔・仙松・団作・寛弘）。 ※和歌山会館□葺落し（『文楽因会三和会興行年表』）。	静御前（紋司）、狐忠信（栄三郎）。
一九四七	昭和22	8/31～9/7	名古屋 中京劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前—七五三・忠信—浜・古住・伊達男・織部＝吉五郎・重造・新三郎・団作・八造）。 ※「賜天覧」（番付）。 ※一日日延べ（『文楽興行記録昭和篇』書入れ）。	静御前（光造）、狐忠信（亀松）。
一九四七	昭和22	9/14～19	東京 東京劇場	義経千本桜	道行初音の旅（静御前—松・狐忠信—浜・ツレ 隅若・伊達男・織部＝綱造・吉五郎・重造・八造・新三郎・団作）。 ※「賜天覧（於大阪文楽座）」（筋書）。	静御前（光造）、狐忠信（亀松）。
一九四七	昭和22	10/12～11/3	四ツ橋文楽座	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切前住＝広助、後綱＝弥七）。道行初音旅（静御前—伊達・狐忠信—綱・浜／越名・松島・富＝藤四郎・吉五郎・弥七・新三郎・清友・団作）。 ※千穂楽は『松竹百年史』に拠る。 ※天覧芸題「道行初音旅」。 ※九代竹沢弥七は三代竹沢藤四郎を襲名して出座。 ※10月17日より吉田栄三郎休演（『文楽興行記録昭和篇』）。 ※10月17日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（10月17日）に拠る）。	若葉の内侍（栄三郎）、静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（光造）、下男弥助実ハ三位中将維盛（亀松）、梶原平三景時（門造）。
一九四七	昭和22	12/2～3	姫路 姫路公会堂	義経千本桜	道行初音旅（静御前—源・狐忠信—隅若・ツレ 織部＝市治郎・団作・八造）。 ※「天覧狂言」（筋書）。 ※関東州引揚者救済金募集興行。	静御前（紋十郎）、狐忠信（玉助）。

△	一九四七	昭和22	12	地方公演 (東海道)	義経千本桜	道行初音の旅(越名・松島・伊達男=錦糸・仙松・叶太郎)。 ※「天覧狂言」(筋書)。	静御前(光造)、キツネ忠信(亀松)。
	一九四八	昭和23	3月28日	京都 西洞院にしき	(義経千本桜)	椎の木、小金吾討死(雛=友十郎)、すしや(綱=弥七)。 ※春秋会。 ※『文楽興行記録昭和篇』欄外記事に拠る。	
	一九四八	昭和23	3	地方公演 (中国・四国)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前-松・忠信-隅若・織の・相次=市治郎・ 団作・寛弘)。	静御前(亀松)、狐忠信(光造)。
	一九四八	昭和23	6/5~	四ツ橋文楽座	義経千本桜 通し狂言	椎の木の段(口富=叶太郎、奥住=吉兵衛)、小金吾討死の段 (伊達=喜左衛門)、釣瓶鮎屋の段(切山城少掾=清六)、道行 初音旅(静御前-源/雛・狐忠信-浜・宮・相次・呂賀・英=寛 治郎・吉三郎・勝太郎/市治郎・清友・燕三・猿二郎)。	若葉内侍(紋之助)、主馬野小金吾(紋十郎)、静 御前(亀松)、狐忠信(光造)、いがみの権太(玉 助)、弥左衛門(玉徳)、娘お里(文五郎)、弥助 実は維盛(玉男)、梶原景時(紋昇)。
	一九四八	昭和23	7/7~12	名古屋 御園座	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段(前つばめ=勝太郎、後住=吉兵衛)。	若葉内侍(紋之助)、いがみの権太(玉助)、親弥 左衛門(玉徳)、娘お里(光造)、下男弥助実は三 位中将維盛(玉男)、梶原平三景時(紋昇)。
△	一九四八	昭和23	7月16日	浜松 江東劇場	義経千本桜	道行初音の旅。 ※東海巡業(7月13日~)の内。 ※「浜松民報」(7月21日の記事、7月16日の広告)に拠る。	
△	一九四八	昭和23	7/19~20	岡山 岡山劇場	義経千本桜	※山陽巡業の内。豊竹山城少掾・吉田文五郎。 ※「山陽朝報」(7月21日の記事、7月18日の広告)、「山陽新 聞」(7月17日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四八	昭和23	7月28日	大阪谷町 妙像寺	千本桜	椎の木の段(古住=寛弘)。 ※文楽新人浄瑠璃会。	
△	一九四八	昭和23	9月9日	ラジオ放送	千本桜	鮎屋の段(大隅)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「読売新聞」(9月9日)に拠る。	
	一九四八	昭和23	11月18日	大阪市中央公会堂	義経千本桜	(静御前-伊達・忠信-一七五三・ツレ古住・織部・隅寿・織の= 喜左衛門・市治郎・一郎右衛門・仙二郎・寛弘・燕三・猿二 郎)。	静御前(紋十郎)、狐忠信(玉徳)。
△	一九四八	昭和23	12/3~4	高知 堀詰座	義経千本桜	道行の段。 ※「高知新聞」(12月1・4日の広告)に拠る。	(不明)

	一九四九	昭和24	3/5~22	四ツ橋文楽座	義経千本桜 通し狂言	大物ヶ浦渡海屋の段（中 隅若＝新三郎／清友、次 浜＝寛治郎、切大隅＝清八）、道行初音旅（静御前－雛・狐忠信－浜・司・相次・英＝広助・吉三郎・叶太郎／勝太郎・一郎右衛門・新三郎／清友・団作、此の処吉田玉助出遣い早替りにて御覧に入れます）、椎の木の段（口 富＝仙二郎、奥 相生＝松之輔）、主馬野小金吾討死の段（雛＝勝太郎//松＝叶太郎）、釣瓶寿し屋の段（切山城少掾＝清六、釣瓶寿し屋の段切此の処／櫓下 豊竹山城少掾／鶴澤清六／娘お里吉田文五郎／顔揃いにて相勤申候 太夫・三味線・人形大熱演）、川連法眼館の段（源義経－相生・佐藤忠信－宮・静御前－源・亀井六郎－松島・駿河次郎－相次＝八造）、狐忠信乱の段（源義経－相生・狐忠信実＝源九郎狐－松・静御前－源＝綱造・ツレ 友十郎・市治郎、此の処吉田光造出遣い早替りにて御覧に入れます）。 ※千穂楽は『松竹百年史』に拠る。 ※「当座より豊竹山城少掾・吉田文五郎の二人まで芸術院会員に推されたる喜びを迎へて」（番付）。 ※野沢八造休演の日あり、「川連法眼館の段・口」の代役がないため、竹本相生太夫が舞台でこの場を説明（『観照』第21号）。 ※「人形陣も文五郎をのけると十三人と云ふ少人数、玉助玉市等文字通り車輪のごとく活動してゐる。殊に鮎屋の様に沢山の人の出る場では全く気の毒な位で、文五郎のお里でさへ、左が消えた	源義経（紋司）、武蔵坊弁慶（兵次）、若葉の内侍（紋司）、主馬野小金吾（亀松）、静御前（道行＝文五郎、四段目＝亀松）、狐忠信（道行＝玉助、四段目＝光造）、女房お柳実＝典侍局（光造）、渡海屋銀平実＝平知盛（亀松）、いがみの権太（玉助）、鮎屋弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、下男弥助実＝三位中将維盛（玉男）、梶原平三景時（光造）、佐藤忠信（玉男）。
△	一九四九	昭和24	3月16日	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	（宮、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（3月16日）に拠る。	
	一九四九	昭和24	3月28日	和歌山 大映遊楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前－雛・狐忠信－大隅・隅若・相次＝清八・清友・清好・新三郎）。 ※日時・場所は「和歌山新聞」（3月21・27日の広告）に拠る。	静御前（文五郎）、狐忠信（玉助）。
	一九四九	昭和24	4月15日	兵庫 湊 劇 場 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－雛・忠信－隅若・相次・大隅＝清八・八造・清友・清好・新三郎）。 ※淡路巡業（4月13日～）の内。	静御前（光造）、狐忠信（玉助、早替りにて相勤めます）。
△	一九四九	昭和24	4/21~23	地方公演 （中部） <因会>	千 本 桜	道行。 ※「静岡新聞」（4月19・21日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	4月22日	瀬戸市 東海劇場 <組合>	千 本 桜	道行（静－源・忠信－司）。 ※巡業（7日間）の内。 ※「東海民生新聞」（4月19日の広告）に拠る。	（不明）

△	一九四九	昭和24	4月25日	東京カ 美術倶楽部 <因会>	(義経千本桜)	すしや(綱=弥七)、道行(静-綱・忠信-山城少掾・浜=弥七・清六・新三郎)。 ※第3回山城会。 ※『幕間』(昭和24年6月号)に拠る。	
	一九四九	昭和24	4/26~30	東京 有楽座 <因会>	義経千本桜 通し狂言	伏見稻荷森の段(雛=八造)、大物浦渡海屋の段(中 隅若=新三郎、次 浜=広助、切 大隅=清八)、道行初音旅(静御前-松・忠信-山城少掾・浜・隅若・相次=清六・松之輔・八造・新三郎・清友・清好、此の処吉田玉助出遣ひ早替りにて御覧に入れます)、椎の木の段(口 隅若=新三郎、奥 浜=広助)、小金吾討死の段(松=八造)、釣瓶寿し屋の段(切 山城少掾=清六)、川連法眼館の段(中 雛=清友)、狐忠信乱の段(切 相生=松之輔・ツレ 新三郎・清友、此処吉田光造出遣ひ早替りにて御覧に入れます)。 ※豊竹山城少掾・吉田文五郎芸術院会員披露公演(筋書)。	源義経(紋司)、武蔵坊弁慶(兵次)、若葉内侍(紋司)、主馬野小金吾(亀松)、静御前(稻荷森・四段目=亀松、道行=文五郎)、狐忠信(鳥居前・四段目=光造、道行=玉助)、女房お柳実は典侍の局(光造)、渡海屋銀平実は平知盛(亀松)、いがみの権太(玉助)、鮎屋弥左衛門(玉市)、娘お里(文五郎)、下男弥助実は三位中将維盛(玉男)、梶原平三景時(光造)、佐藤忠信(玉男)。
	一九四九	昭和24	5/1~5	東京 有楽座 <因会>	道行初音旅	(静御前-松・忠信-山城少掾・浜・隅若・相次=清六・八造・新三郎・清友・清好、此の処吉田玉助出遣ひ早替りにて御覧に入れ升)。 ※「こどもの日」制定記念演劇教室。	静御前(文五郎)、忠信(玉助)。
△	一九四九	昭和24	6/7~8	和歌山県新宮市 日の出劇場 <組合>	義経千本桜	道行(源・松島)。 ※「紀南新聞」(6月4・8日の広告)、『三和会公演控』に拠る。	
	一九四九	昭和24	7/21~22	京都 祇園会館 <組合>	千本桜	道行(越名・司・松島・古住=市治郎・燕三・寛弘・団作)。	静(紋之助)、忠信(紋昇)。
△	一九四九	昭和24	7	地方公演 (岐阜・高松) <組合>	千本桜	道行の段。 ※11日間。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「岐阜タイムス」(7月18・21日)、「東海夕刊」(7月21日の広告)、「中部日本新聞(岐阜版)」(7月21日の広告)、「濃飛新聞」(7月26日の広告)、「四国新聞」(7月29日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四九	昭和24	8~9/16	地方公演 (東北・北海道) <因会>	義経千本桜	道行初音の旅の段(静御前-松・狐忠信-山城少掾・宮・織の・相次=清六・弥七・清友・新三郎、此処吉田玉助早替りにて御覧に入れ申候)。 ※「昭和二十二年天覧」(筋書)。	静御前(光造)、狐忠信(玉助)。
			9月11日	仙台 東北劇場 <因会>		道行初音旅路の段(静御前-松・狐忠信-山城少掾・雛・織の・相次=清六・弥七・八造・清友・新三郎、此処吉田玉助早替りにて御覧に入れ申候)。 ※「賜天覧の栄」(筋書)。	

△	一九四九	昭和24	9月17日	岡崎 岡崎劇場 <組合>	義経千本桜	道行の段。 ※東海巡業の内。15日の公演予定が荷物延着のため17日に延期。 ※「東海新聞（岡崎版）」（9月15～17日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	10月1日	紀伊田辺 常盤座 <組合>	千本桜	初音の旅道行。 ※巡業の内。 ※「紀伊民報」（9月23日・10月2日）、「紀伊新聞」（9月29日）、「三和会公演控」に拠る。	（不明）
△	一九四九	昭和24	10月14日	姫路 姫路市公会堂 <組合>	千本桜	道行の段（越名）。 ※『文楽因会三和会興行記録』、「姫路新聞」（10月8日）に拠る。	（不明）
			10月18日	今治市 大劇 <組合>	義経千本桜	道行初音旅路。 ※播州路・四国巡業の内。10月23日徳島・歌舞伎座で同公演あり。 ※「愛媛新聞」（10月16日の広告）、「三和会公演控」、『文楽因会三和会興行記録』、「徳島民報」（10月22日の広告）に拠る。	
△	一九四九	昭和24	10/19～20	東京 帝国劇場 <因会>	（義経千本桜）	道行。 ※進駐軍向け特別番組。 ※『幕間』（昭和24年11月号）、「読売新聞」（10月13日の広告）に拠る。	（不明）
	一九四九	昭和24	12/1～8	東京 三越劇場 <組合>	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝源・忠信＝一司・松島・古住・呂賀・つばめ・越名＝錦糸・燕三・寛弘・市治郎・吉兵衛・猿二郎・勝太郎・清二郎・友衛門・寛治郎）。	静御前（紋之助）、忠信（紋昇）。
	一九四九	昭和24	12月1日	広島 <因会>	義経千本桜	（宮・隅若・織の・相次＝新三郎・清友・八造・松之輔）。 ※二日目は不入りのため興行中止（『織太夫夜話』）。	静御前（光造）、狐忠信（玉助）。
△	一九四九	昭和24	12月10日	桐生 東宝劇場 <組合>	義経千本桜	道行初音旅。 ※「上毛新聞」（12月8日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五〇	昭和25	2/4～5	枚方パーク <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝松・忠信＝浜・宮・ツレ弘＝広助・清友・八造）。	静御前（光造）、狐忠信（玉助）。
	一九五〇	昭和25	2/11～14	名古屋 御園座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝松・忠信＝浜・宮・ツレ弘＝広助・清友・八造）。	静御前（光造）、狐忠信（玉助）。
△	一九五〇	昭和25	2月22日	豊橋 豊橋大劇場 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝松・忠信＝浜・宮・ツレ弘＝広助・清友・八造）。 ※「東三新聞」（2月8日）に拠る。	静御前（光造）、狐忠信（玉助）。
△	一九五〇	昭和25	3月29日	ラジオ放送 <組合>	義経千本桜	（伊達、つばめ＝喜左衛門、他）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「読売新聞」（3月29日）に拠る。	

△	一九五〇	昭和25	6月1日	NHK大阪BK会館 <因会>	義経千本桜	道行（山城少掾・綱＝寛治郎・弥七）。 ※BK開局25周年記念祭典。6月3日にラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（6月3日）に拠る）。 ※『幕間』（昭和25年7月号）、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（文五郎）、（玉助）。
	一九五〇	昭和25	6/3～18	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前－雛・忠信－隅若改め 静・ツレ 織部・相次・弘＝広助・清友・新三郎・友十郎・寛弘）。 ※「行幸記念芸題」（筋書）。 ※6月3日ラジオ中継（「朝日新聞（大阪）」「毎日新聞（大阪）」（6月3日）に拠る）。	静御前（文五郎）、狐忠信（玉助）。
	一九五〇	昭和25	8/19～26	三越ホール <三和会>	義経千本桜	道行初音旅路（静御前－伊達・忠信－古住・松島・呂賀・住＝清二郎・燕三・一郎右衛門・団作・猿二郎・喜左衛門／友衛門）。	静御前（紋之助）、忠信（紋昇）。
△	一九五〇	昭和25	9/10～16カ	地方公演 （愛媛） <因会>	義経千本桜	※「愛媛新聞」（9月10・15日、9月6日の広告）に拠る。	（不明）
	一九五〇	昭和25	9/12～	地方公演 （関東・北陸） <三和会>	義経千本桜	道行初音旅路の段（静御前－源・忠信－呂賀・ツレ 松島・司＝市治郎・燕三・一郎右衛門・団作・猿二郎）。 ※「賜天覧の栄」（筋書）。	静御前（紋之助）、忠信（紋昇）。
	一九五〇	昭和25	10/5～24	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜 通し狂言	椎の木の段（口 織部／織の＝寛弘、大隅＝清八）、主馬野小金吾 討死の段（雛＝広助）、釣瓶寿し屋の段（前津＝寛治郎、切綱＝弥七）。	若葉の内侍（紋司）、主馬野小金吾（栄三）、いがみの権太（玉助）、鮎屋弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（玉男）、梶原平三景時（兵次）。
	一九五〇	昭和25	10月21日	兵庫 兵庫県立加古川東高等学校講堂 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路。 ※文楽観賞会。	（不明）
△	一九五〇	昭和25	11月25日	鹿児島市 日本劇場 <因会>	義経千本桜	道行初音旅路。 ※11月24日熊本・歌舞伎座（役割不明）、11月28日長崎・佐世保市公会堂（太夫役割の忠信は綱太夫、他は不明）、11月30日福岡・小倉劇場（役割不明）で同公演あり。 ※「南日本新聞」（11月24・26日の記事、11月24日の広告）、「熊本日日新聞」（11月19・21日）、「時事新聞」（12月1日の記事、11月28日の広告）、「西日本新聞（北九州版）」（11月29日の広告）に拠る。	静御前（文五郎）、忠信（玉助）。
			11月27日	長崎市 西日本会館 <因会>	義経千本桜	※11月29日直方市・多賀劇場で同公演あり。 ※「夕刊西日本新聞」（11月24日）に拠る。	

		12月2日	延岡市 新世界劇場 <因会>	義経千本桜	※九州・山陰巡業の内。 ※「日向日日新聞」（12月7日）に拠る。	静御前（文五郎）。	
△	一九五〇	昭和25	12/23～24	和歌山 東和歌山県農業会講 堂 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路（静一七五三・忠信一司・古住・呂賀・伊達路・松島 ＝錦糸・市治郎・一郎右衛門・団作・猿二郎・喜左衛門）。	(不明)
	一九五〇	昭和25	12/25～26	和歌山 和歌山市警察署 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路（静一七五三・忠信一司・古住・呂賀・伊達路・松島 ＝錦糸・市治郎・一郎右衛門・団作・猿二郎・喜左衛門）。 ※『三和会公演控』に拠る。	(不明)
	一九五一	昭和26	1月14日	西宮 日芸会館 <三和会>	義経千本桜	初音鼓の段（静一伊達・忠信一七五三・ツレ 松島・呂賀・伊達路 ＝叶太郎・燕三・市治郎・錦糸・勝太郎）。 ※呂太夫改め十世豊竹若太夫襲名興行。	静（紋之助）、忠信（紋昇）。
	一九五一	昭和26	1/20～27	三越劇場 <三和会>	義経千本桜	椎の木の段（口 松島／古住＝一郎右衛門／団作、奥 七五三＝叶太 郎／吉三郎）、寿しやの段（前住＝友衛門、後若＝綱造）。	若葉ノ内侍（国秀）、主馬ノ小金吾（作十郎）、い がみノ権太（紋昇）、親弥左衛門（玉徳）、娘お里 （紋十郎）、弥助実は平維盛（紋之助）、梶原（作 十郎）。
△	一九五一	昭和26	2月6日	静岡 静岡市公会堂 <三和会>	義経千本桜	道行。 ※東海巡業の内。 ※「静岡新聞」（1月31日の広告）に拠る。	(不明)
△	一九五一	昭和26	2月20日	和歌山県箕島町 永楽座 <三和会>	(義経千本桜)	道行。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	(不明)
△	一九五一	昭和26	3月30日	中津 大映 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路。 ※兵庫・四国・九州巡業（3月～4月11日まで）の内。若太夫襲名 披露。 ※ポスターに拠る。	(不明)
	一九五一	昭和26	4/14～16	能勢 中谷公民館 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前一越名・忠信一河内・織部・松＝広助・清 友・新三郎・寛弘）。 ※落成祝賀会。	静御前（亀松）、忠信（玉助）。
	一九五一	昭和26	5月30日	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（伊達・若・源・古住・呂賀＝綱造・友衛門・勝 太郎・市治郎・燕三・喜左衛門）。 ※第17回三越名人会。	
	一九五一	昭和26	6/1～6	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	椎の木の段（口 松島＝猿二郎、奥 七五三＝吉三郎）、小金吾討死 の段（司＝市治郎）、すしやの段（切若＝綱造）。 ※桐竹紋昇改め二代桐竹勘十郎襲名披露。	若葉内侍（国秀）、主馬小金吾（紋十郎）、いがみ の権太（紋昇改め勘十郎）、鮎屋弥左衛門（玉 徳）、娘お里（紋十郎）、弥助実は三位中将維盛 （紋之助）、梶原平三景時（作十郎）。

一九五一	昭和26	6/4～	地方公演 (北陸・北海道・東北・信州) <因会>	義経千本桜	初音旅路の段(狐忠信-山城少掾・静御前-松・ツレ 織部・十九 = 寛治郎・八造・新三郎・寛弘・清友、此处吉田玉助早替りにて御覧に入れ申候)。 ※「賜栄天覧」(筋書)。	静御前(文五郎)、忠信(玉助)。
一九五一	昭和26	6月29日	和歌山県海南市 新富座 <三和会>	義経千本桜	初音の鼓(静御前-呂賀・忠信-松島・ツレ 古住・伊達路 = 吉三郎・燕三・団作・市治郎・猿二郎)。	(不明)
一九五一	昭和26	9月21日	京都 宮津劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の鼓(呂賀・つばめ・ツレ 伊達路 = 市治郎・吉三郎・団作・猿二郎)。 ※丹後・山陰・山陽・九州巡業の内。9月23日鳥取・大黒座、10月2日小倉市・日活館(場割・役割不明)、10月13～14日高知・高知市中央公民館(場割・役割不明)で同公演あり(「日本海新聞」(9月22日の広告)、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、「西日本新聞(地方版)」(9月30日の広告)、「高知新聞」(10月14日の記事、10月4・6・13日の広告)に拠る)。	静御前(紋之助)、狐忠信(勘十郎)。
一九五一	昭和26	9月29日	神戸 神戸商工会議所 <因会>	義経千本桜	道行初音旅(静御前-雛・忠信-津・織の = 豊助・清友・寛弘)。	静御前(栄三)、狐忠信(亀松)。
一九五一	昭和26	10月29日	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅(静御前-松・忠信-津 = 寛治郎・八造・清友)。 ※海南翁のノドを聴く会。	静御前(栄三)、忠信(玉助)。
△ 一九五一	昭和26	11月13日	金沢市 北国第一劇場 <三和会>	義経千本桜 通し狂言	椎木茶店の段、権太騙りの段、小金吾討死の段、鮎屋の段、道行初音の段。 ※「北国新聞」(10月28・11月11日の記事、11月6・11～12日の広告)、「石川新聞」(11月5日の広告)、『三和会公演控』に拠る。	(不明)
一九五一	昭和26	11月27日	愛媛 宇和島 <三和会>	義経千本桜	初音旅路の段(静御前-松・狐忠信-河内・ツレ 織部・織の = 豊助・新三郎・寛弘・八造、此のところ吉田玉助早替りにて御覧に入れ申候)。 ※「賜栄天覧」(筋書)。 ※四国巡業の内。11月24日松山・国際劇場で同公演あり(「愛媛新聞」(11月23日の広告)に拠る)。	静御前(文五郎)、狐忠信(玉助)。
一九五二	昭和27	2/21～22	京都 南座 <因会>	義経千本桜	寿し屋の段。 ※日本因協会女義太夫合同初公演に文楽座人形陣が特別出演。	若葉の内侍(光次)、いがみの権太(玉助)、親弥左衛門(玉市)、娘お里(文五郎)、下男弥作実は三位中将維盛(玉男)、梶原平三景時(亀松)。

	一九五二	昭和27	4/9～23	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜 道行初音旅より 狐忠信恩愛の段 まで	道行初音の旅（静御前一宮／長子・狐忠信一静・織部・織の・弘／十九＝清八・松之輔・新三郎・藤之助・錦糸）、川連法眼館の段（源義経一河内・静御前一静／長子・佐藤忠信一宮・亀井六郎一弘・駿河次郎一十九＝広助）、狐忠信恩愛の段（津＝寛治郎・ツレ寛弘）。 ※豊沢仙糸七回忌追善。	源義経（玉男）、静御前（栄三）、狐忠信（玉助）、佐藤四郎忠信（光次）。
△	一九五二	昭和27	4月10日	大垣市 日本劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅。 ※「東海夕刊」（4月10日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	(不明)
			4月12日	松本市 第二公民館 <三和会>		道行初音鼓。 ※4月13日長野市・長野市商工会館、14日飯田市・常盤劇場で同公演あり。 ※「信濃毎日新聞」（4月11・13～14日の記事、4月4～5・7・14日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	
			4月18日	新潟 高田文化劇場 <三和会>		※4月24～25日仙台・仙台劇場で同公演あり。 ※「信濃毎日新聞」（4月16日の広告）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』、『河北新報』（4月23日）に拠る。	
			4月30日	横浜 神奈川体育館 <三和会>		道行初音の鼓の段（静御前一呂賀・忠信一松島・ツレ伊達路・古住＝燕三・友若・一郎右衛門・団作・猿二郎）。 ※北陸・関東・東海巡業（4月9日～5月3日）の内。	
△	一九五二	昭和27	5月14日	広島 新天地劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音旅路。 ※中国巡業の内。 ※『三和会公演控』、『中国新聞』（5月4・14日）に拠る。	(不明)
△	一九五二	昭和27	5月25日	四条畷分禁所 <因会>	(義経千本桜)	※大阪府拘置所慰問公演。 ※「朝日新聞（大阪版）」（5月25日）、「大阪日日新聞」（5月22日）に拠る。	お里（文五郎）。
	一九五二	昭和27	8/6～10	京都 南座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前一宮／長子・忠信一河内・織部・織の・相次・弘・十九＝鱗糸改め喜八郎・吉三郎・友十郎・新三郎・寛弘）。	静御前（玉五郎）、忠信（玉男）。
	一九五二	昭和27	10/31～11/14	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切綱＝弥七）。 ※竹本綱太夫喉を痛め、「ご運のほどぞ…」まで竹本相生太夫代役（「朝日新聞（大阪版）」（11月5日）、『幕間』（昭和28年1月号）に拠る）。	若葉の内侍（文昇）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（玉五郎）、梶原平次（ママ）景時（玉男）。
	一九五二	昭和27	11/15～20	三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一呂賀・狐忠信一松島・古住・伊達路＝燕三・友若・団作・仙二郎・八助・勝平）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。

一九五二	昭和27	12/8~12	東京 新橋演舞場 <因会>	義経千本桜 椎の木より すし屋まで	椎の木の段（口十九=寛弘、雛=豊助）、小金吾討死の段（南部=清八）、釣瓶寿し屋の段（前相生=松之輔、後津=寛治郎）。	若葉の内侍（文雀）、主馬野小金吾（亀松）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（栄三）、下男弥助実は三位中将維盛（玉五郎）、梶原平三景時（玉男）。
一九五二	昭和27	12月13日	横須賀 E.M.クラブ・シアター <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前-南部・狐忠信-織の・相次=豊助・新三郎・清好）。	静御前（亀松）、狐忠信（玉助）。
一九五三	昭和28	1/31~2/1	名古屋 松坂屋ホール <三和会>	義経千本桜	道行初音旅路（静御前-呂賀・忠信-松島・ツレ伊達路・古住=叶太郎・友若・一郎右衛門・団作・八助・勝平）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。
一九五三	昭和28	2/11~17	京都 弥栄会館 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前-織部・忠信-織の・十九=八造・清友・新三郎・寛弘）。 ※文楽教室。	静御前（玉五郎）、忠信（玉男）。
一九五三	昭和28	3/27~29	神戸 繊維会館 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅の段（静-雛・忠信-長子・織部・相次・弘=八造・錦糸・清好・藤之助・喜八郎）。 ※鶴沢道八追善。	静（栄三）、忠信（玉助）。
一九五三	昭和28	4	地方公演 （中国・九州） <因会>	義経千本桜	すしやの段（前綱=弥七、後津=寛治郎）。	若葉内侍（文雀）、いがみの権太（玉助）、弥左衛門（玉市）、娘お里（栄三）、弥助実は三位中将維盛（玉男）、梶原平三景時（兵次）。
一九五三	昭和28	6/9~14	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音旅路（静御前-源・忠信-七五三・ツレ古住・呂賀・伊達路=叶太郎・友若・一郎右衛門・仙二郎・八助・勝平・猿二郎）。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
一九五三	昭和28	8月20日	中座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（山城少掾・綱・相生・宮・雛・織部・静・相次・織の・十九・弘・河内・多満・南部・長子=藤蔵・弥七・松之輔・吉三郎・八造・錦糸・清友・寛弘・新三郎・藤之助・清好・友十郎・豊助・広助・清八）。 ※南近畿水害義捐金募集、文楽座前夜祭。 ※大夫三味線、津太夫・松太夫・鶴沢清六・鶴沢寛治郎を除く因会総出演（『文楽興行記録昭和篇』）。	静御前（文五郎）、狐忠信（玉助）。
△	一九五三	昭和28	9/27~28	三原市 帝人工場講堂 <三和会>	（義経千本桜） 道行（源・他=燕三・勝平・他）。 ※「中国新聞」（9月26日）に拠る。	（不明）
△	一九五三	昭和28	10/25~26	姫路 姫路公会堂 <三和会>	すしやの段。 ※「神戸新聞（姫路版）」（10月24・27日）、『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	（不明）

一九五三	昭和28	11/14～19	三越劇場 <三和会>	義経千本桜	すしやの段（前つばめ＝燕三、切若＝綱造）、道行初音の旅路（静御前＝源・忠信＝司・ツレ古住・伊達路＝叶太郎・燕三・仙二郎・団作・八助・勝平）。	若葉内侍（紋二郎）、静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）、いがみの権太（辰五郎）、親弥左衛門（紋市）、娘お里（紋十郎）、弥助実は平の維盛（紋之助）、梶原平三景時（作十郎）。
△ 一九五三	昭和28	11/24～26	名古屋 松坂屋ホール <三和会>	義経千本桜	すしやの段（前つばめ＝燕三、切若＝綱造）、道行初音の旅路（静御前＝源・忠信＝司・ツレ古住・伊達路＝叶太郎・燕三・仙二郎・団作・八助・勝平）。 ※『三和会公演控』、『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	若葉内侍（紋二郎）、静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）、いがみの権太（辰五郎）、親弥左衛門（紋市）、娘お里（紋十郎）、弥助実は平の維盛（紋之助）、梶原平三景時（作十郎）。
一九五三	昭和28	12/17～22	東京 新橋演舞場 <因会>	義経千本桜 道行初音旅より 川連法眼館の段 まで	道行初音の旅（山城少掾・綱・綱子・津・松・織の・織部・静・長子・多満・十九・南部・河内＝藤蔵・弥七・寛弘・寛治郎・清六・八造・清友・豊助・喜八郎・藤之助・清好・清八・広助）、川連法眼館の段（中南部＝清八、後松＝清六・ツレ清友）。	源義経（玉男）、静御前（道行＝文五郎、川連館＝栄三）、狐忠信（玉助）、佐藤四郎忠信（光次）。
		12/23～27		義経千本桜	道行初音の旅（山城少掾・綱・綱子・津・松・織の・織部・静・長子・多満・十九・南部・河内＝藤蔵・弥七・寛弘・寛治郎・清六・八造・清友・豊助・喜八郎・藤之助・清好・清八・広助）。	静御前（文五郎）、狐忠信（玉助）。
一九五四	昭和29	1/2～20	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜 道行初音旅より 川連法眼館の段 まで	道行初音旅（静御前＝雛・狐忠信＝静・宮／長子・織部／織の・初舞台津の子／相子＝広助・吉三郎・友十郎・新三郎・清好・藤之助）、川連法眼館の段（中南部＝清八、後松＝清六・ツレ清友）。 ※千穂楽は『松竹百年史』に拠る。	源義経（玉男）、静御前（道行＝亀松、川連館＝玉五郎）、狐忠信（道行＝玉男、川連館＝玉助）、佐藤四郎忠信（光次）。
一九五四	昭和29	1/22～24	名古屋 御園座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前＝南部・狐忠信＝静・織部・織の・多満＝豊助・清友・寛弘・清好・団二郎・喜八郎）。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
一九五四	昭和29	1月30日	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝南部・狐忠信＝織の・十九・津の子＝吉三郎・清友・新三郎・寛弘・団二郎）。 ※朝日新聞ゼミナール。	静御前（栄三）、狐忠信（亀松）。
一九五四	昭和29	3/5～28	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切山城少掾＝藤蔵、津＝寛治郎）。 ※3月28日まで日延べ（「毎日新聞（大阪版）」（3月25日の広告）に拠る）。	若葉内侍（紋太郎）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘おさと（文五郎）、弥助実は維盛（玉男）、梶原景時（兵次）。
一九五四	昭和29	6/11～15	東京 新橋演舞場 <因会>	義経千本桜	寿し屋の段（切山城少掾＝藤蔵、後津＝寛治郎）。	若葉内侍（光次）、いがみの権太（玉助）、父弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、弥助実は維盛（玉男）、梶原景時（兵次）。
一九五四	昭和29	7/1～6	京都 南座 <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切山城少掾＝藤蔵、後津＝寛治郎）。	若葉の内侍（紋太郎）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（栄三）、梶原平三景時（淳造）。

		7/7~11			道行初音の旅（静御前－伊達・忠信－綱・南部・織部・伊達路＝寛治郎・弥七・友十郎・新三郎・寛弘・団二郎）。	静御前（亀松）、狐忠信（栄三）。	
△	一九五四	昭和29	7/13~15	名古屋 御園座 <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切山城少掾＝藤蔵、後津＝寛治郎）。	若葉の内侍（紋太郎）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は三位中将維盛（栄三）、梶原平三景時（淳造）。
						7/16~18	道行初音の旅（静御前－伊達・忠信－綱・南部・織部・伊達路＝寛治郎・弥七・友十郎・新三郎・寛弘・団二郎）。
△	一九五四	昭和29	7/19~21	地方公演 （東海） <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（切山城少掾＝藤蔵、後津＝寛治郎）。 ※『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	若葉内侍（紋太郎）、権太（玉助）、弥左衛門（玉市）、お里（文五郎）、弥助（栄三）、梶原（淳造）。
	一九五四	昭和29	8/1~30	地方公演 （東海・北陸・東北・北海道） <因会>	義経千本桜	寿し屋の段（切綱＝弥七、奥津＝寛治郎）、初音旅路の段（忠信－山城少掾・静御前－雛・弘・伊達路＝藤蔵・錦糸・新三郎・団二郎）。 ※8月3日新潟・新潟劇場では、道行の豊竹弘太夫が竹本織の太夫に代わり、鶴沢清友が加わる。	若葉の内侍（玉五郎）、静御前（栄三）、狐忠信（玉助）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、弥助実は三位中将維盛（玉男）、梶原景時（兵次）。
△	一九五四	昭和29	8月21日	奈良 奈良市庁別館 <三和会>	義経千本桜	※奈良市椿井小学校改築特別後援会椿井婦人会。 ※「大和タイムス」（8月19日）に拠る。	（不明）
△	一九五四	昭和29	9月30日	広島 新市劇場 <三和会>	義経千本桜	【昼の部】道行初音の旅路（静御前－古住・忠信－司・ツレ 松島・小松＝勝太郎・仙二郎・団作・勝平・猿二郎//静御前－呂賀・忠信－松島・ツレ 古住・小松＝燕三・勝太郎・団作・仙二郎・勝平）。 ※学生向け公演。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
						【夜の部】寿しやの段（前つばめ＝燕三、後住＝勝太郎）、道行初音の旅路（静御前－呂賀・忠信－松島・ツレ 古住・小松＝叶太郎・燕三・団作・仙二郎・勝平）。	内侍（紋二郎）、静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）、いがみの権太（辰五郎）、弥左衛門（紋市）、お里（紋十郎）、弥助実は平維盛（紋之助）、梶原平三景時（作十郎）。
			10月2日	広島 福山市立南小学校 <三和会>	義経千本桜	すしやの段（前つばめ＝燕三、後住＝勝太郎）、道行初音の旅路（静御前－源・忠信－司・ツレ 呂賀・古住・松島＝叶太郎・燕三・団作・仙二郎・勝平）。 ※中国巡業（9月29日～10月3日カ）の内。	内侍（紋二郎）、静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）、いがみの権太（辰五郎）、弥左衛門（紋市）、お里（紋十郎）、弥助実は平維盛（紋之助）、梶原平三景時（作十郎）。
△	一九五四	昭和29	10月30日	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	鮎屋の段（山城少掾＝藤蔵）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（10月30日）に拠る。	
	一九五四	昭和29	11月24日	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	寿し屋の段。 ※素人義太夫藤波和泉特別進歩賞披露祝賀人形浄瑠璃大会。	若葉内侍（文雀）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（兵次）、娘お里（栄三）、下男弥助（玉男）、梶原平三景時（淳造）。

	一九五五	昭和30	2/26~3/2	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
△	一九五五	昭和30	3月20日	盛岡市 岩手県公会堂 <因会>	義経千本桜	すしやの段（綱、津）。 ※3月16日静岡・静岡市公会堂、3月19日青森市・国際劇場、3月21日秋田市・スポーツセンター（山王体育館）で同公演あり。 ※「岩手日報」（3月3・9・20~21日）、「静岡新聞」（3月13日の広告）、「東奥日報」（3月16日）、「秋田魁新報」（3月20日の記事と広告）に拠る。	いがみの権太（玉助）、弥左衛門（玉市）、お里（文五郎）。
			3月23日	山形市 山形市公民館 <因会>		すしやの段（綱=弥七、後津=寛弘）。 ※巡業（3月16日～、静岡・東北・北陸）の内。 ※「山形新聞」（3月12・24日の記事、3月21日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九五五	昭和30	3月22日	高松市 香川県公会堂 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路。 ※中国・四国巡業（3月20日～）の内。3月23日香川県・坂出市公民館で同公演あり。 ※「四国新聞」（3月23日の記事、3月20日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九五五	昭和30	4/2~21	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前-松・忠信-雛・織部・弘・伊達路=清六・吉三郎・清友・新三郎・寛弘・清好）、川連法眼館の段（中南部=広助、切綱=弥七・ツレ 錦糸）。 ※千鶴楽は「朝日新聞（大阪版）」（4月20日の広告）に拠る。	源義経（玉男）、静御前（道行=文五郎、川連館=玉五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤忠信（光次）。
						一九五五	昭和30
△	一九五五	昭和30	4月24日	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前-綱子・忠信-相子・南部・津・伊達・綱=藤蔵・新三郎・団二郎・藤二郎・錦糸・清友・藤之助）。 ※第5回因会若手勉強会。	静御前（文雀）、狐忠信（玉昇）。
						一九五五	昭和30
	一九五五	昭和30	5/25~26	和歌山 和歌山市民会館 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前-南部・忠信-織の・相子・相次・伊達路=錦糸・新三郎・団二郎・藤二郎・喜八郎）。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
	一九五五	昭和30	6/2~18	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	【2~9日】道行初音の旅路（静御前-呂・忠信-松島・ツレ 若子・小松・常子=喜左衛門・仙二郎・団作・八助・勝平）。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
						【10~18日】道行初音の旅路（静御前-古住・忠信-松島・ツレ 若子・小松・常子=勝太郎・仙二郎・団作・八助・勝平）。 ※学生の文楽教室。	静御前（紋二郎）、忠信（作十郎）。

一九五五	昭和30	6/10~18	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路（静御前—呂・忠信—松島・ツレ若子・小松・常子＝喜左衛門・八助・団作・勝平・猿二郎）。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
一九五五	昭和30	7/9~11	名古屋 御園座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前—伊達・忠信—雛・弘・十九・伊達路＝八造・清友・新三郎・藤之助・藤二郎・喜八郎）。	静御前（亀松）、狐忠信（玉男）。
一九五五	昭和30	7/26~31	東京 新橋演舞場 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（山城少掾・相生・綱・伊達・津・松・雛・和佐・静・織部・織の・弘・十九・相次・伊達路・綱子・津の子・相子・長子・南部＝藤蔵・松之輔・弥七・八造・寛治郎・清六・吉三郎・猿糸・清友・錦糸・新三郎・寛弘・清好・寛弘・団二郎・藤之助・藤二郎・清治・豊助・喜八郎・広助・清八）、川連法眼館の段（中南部＝広助、切綱＝弥七・ツレ錦糸）。	源義経（玉男）、静御前（道行＝文五郎、川連館＝玉五郎）、狐忠信（道行＝玉助、川連館＝栄三）、佐藤忠信（光次）。
一九五五	昭和30	8/22~26	京都 南座 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（山城少掾・綱・伊達・津・雛・静・松・織部・南部・十九・織の・綱子・伊達路・津の子・相子＝藤蔵・八造・弥七・清友・寛治郎・清六・錦糸・清好・寛弘・清治・団二郎・藤二郎・喜八郎・藤之助・清八・広助）、川連法眼館の段（中南部＝広助、切綱＝弥七・ツレ錦糸）。	源義経（玉男）、静御前（道行＝文五郎、川連館＝玉五郎）、狐忠信（玉助）、佐藤忠信（光次）。
一九五五	昭和30	9/15~18	神戸 仏教会館 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前—呂賀改め呂・忠信—古住・ツレ小松／常子＝燕三／団作／勝平／友若）。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
一九五五	昭和30	10月15日	福岡 大博劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前—古住・忠信—松島・ツレ小松・常子＝友若・仙二郎・団作・勝平）。 ※九州巡業（9月27日～）の内。四代目豊竹呂太夫襲名披露。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
一九五五	昭和30	10/28~29	四ツ橋文楽座 <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫合同公演。	若葉の内侍（文雀）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（兵次）、娘お里（栄三）、弥助実は三位中将維盛（玉男）、梶原景時（淳造）。
一九五五	昭和30	10月31日	大手前会館 <両派>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前—呂・忠信—古住・松島・小松・常子＝燕三・勝太郎・仙二郎・団作・勝平・八助・友若・猿二郎）。 ※芸術祭文楽合同公演。	静（紋之助）、狐忠信（勘十郎）、狐（紋十郎）。
一九五五	昭和30	12月18日	茨城 龍ヶ崎市立龍ヶ崎小学校講堂 <三和会>	義経千本桜	初音旅路道行の段（静—古住・忠信—小松・常子・貴代＝燕三・仙次郎・団作・勝平）。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
一九五五	昭和30	12月24日	徳島日和佐町 弁天座 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路（静御前—古住・狐忠信—松島・ツレ小松・常子・貴世＝叶太郎・仙二郎・団作・勝平・猿二郎）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。

△	一九五五	昭和30	12/25～26	徳島市 歌舞伎座 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路道行の段。 ※「徳島新聞」（12月20日の広告）、『三和会公演控』、『文楽 因会三和会興行記録』に拠る。	(不明)
△	一九五六	昭和31	1月1日	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（綱）。 ※「毎日新聞（大阪版）」（1月1日）に拠る。	
	一九五六	昭和31	1月30日	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜 道行の段	道行初音旅（松・雛・長子・相子＝清六・徳太郎・新三郎・清 好・藤之助・猿糸）。 ※昭和31年度大丸会。	静御前（玉五郎）、忠信（栄三）。
	一九五六	昭和31	2/20～25	京都 祇園甲部歌舞練場 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前－織部・忠信－十九・伊達路・相子＝広助・ 徳太郎・清好・団二郎・藤二郎）。 ※京都文楽会第10回記念公演。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
	一九五六	昭和31	2月26日	姫路 姫路市公会堂 <三和会>	義経千本桜	すしやの段（若＝綱造）。	若葉ノ内侍（紋四郎）、権太（勘十郎）、弥左衛門 （紋市）、お里（紋十郎）、弥助実は平惟盛（紋之 助）、梶原平三（作十郎）。
	一九五六	昭和31	3/2～27	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（山城少掾・相生・綱・伊達・津・雛・松・和佐・ 静・織部・織の・相次・弘・十九・綱子・伊達路・相子・津の 子・南部・長子＝藤蔵・松之輔・弥七・八造・寛治・吉三郎・清 六・徳太郎・猿糸・新三郎・錦糸・清好・団六・藤之助・団二 郎・清治・藤二郎・豊助・喜八郎・清八・広助）。 ※千穉楽は「朝日新聞（大阪版）」（3月27日の広告）に拠る。 ※千穉楽の一部を第6回若手勉強会。人形役割は、静御前が吉田小 玉（左が桐竹亀松、足が吉田玉五郎）、忠信が吉田玉昇（左が吉 田玉市、足が吉田玉男）（『文楽興行記録昭和篇』）。	静御前（亀松）、狐忠信（玉助）。
	一九五六	昭和31	3/2カ～27	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－織部・忠信－織の・相子＝錦糸・新三 郎・藤二郎・藤之助）。 ※第2回文楽教室。	静御前（亀松）、狐忠信（玉助）。
	一九五六	昭和31	3月11日	福岡 大博劇場 <三和会>	義経千本桜	すし屋の段（切若＝勝太郎）。 ※地方公演（中国・九州・東海）の内。	若葉の内侍（紋四郎）、いがみの権太（勘十郎）、 親弥左衛門（辰五郎）、娘お里（紋十郎）、弥助実 は平惟盛（紋二郎）、梶原平三景時（作十郎）。
	一九五六	昭和31	4/11～24	地方公演 （中国・四国・九 州・北陸） <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－和佐・忠信－静・相子・伊達路＝清友改 め 徳太郎・寛弘改め 団六・団二郎・藤二郎・藤之助）。 ※4月12日小倉・豊前座と15日長崎・佐世保市公会堂では竹本相子 太夫が竹本相次太夫に代わる。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
	一九五六	昭和31	4月25日	石川 山中温泉会館 <因会>	義経千本桜	酢屋の段。 ※豊沢仙八披露浄瑠璃大会。	お里（玉五郎）。

	一九五六	昭和31	6/12~16	東京 東横ホール <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前-南部・忠信-静・弘・十九・伊達路=藤蔵・清友改め 徳太郎・寛弘改め 団六・錦糸・豊助）。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
	一九五六	昭和31	8/10~24	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜 通し狂言	椎の木の段（口 弘=猿糸//十九=錦糸、奥 相生=松之輔）、小金吾討死の段（主馬野小金吾-雛・若葉の内侍-南部・六代君-津の子・猪熊大之進-弘/十九・庄屋作-伊達路・鮎屋弥左衛門-静=清八）、釣瓶寿し屋の段（前 綱=弥七、後 津=寛治）。	若葉の内侍（玉五郎）、主馬野小金吾（亀松）、いがみの権太（玉助）、鮎屋弥左衛門（玉市）、娘お里（文五郎）、弥助実は維盛（栄三）、梶原景時（兵次）。
	一九五六	昭和31	8月19日	貝塚市 貝塚市公会堂 <三和会>	義経千本桜	初音の旅路（静御前-古住・狐忠信-松島・ツレ 三和・常子・真砂=叶太郎・仙二郎・団作・勝平・猿二郎）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。
△	一九五六	昭和31	9月25日	福岡 八幡製鉄労働会館 <三和会>	義経千本桜	道行初音旅路。 ※九州巡業（9月18日～、11日間）の内。9月23日飯塚市・嘉穂劇場で同公演あり。 ※「西日本新聞（小倉版）」（9月15日の広告）、「朝日新聞（筑豊版）」（9月22日の広告）に拠る。	（不明）
△	一九五六	昭和31	11月6日	横浜 神奈川県立音楽堂 <三和会>	義経千本桜	すしやの段。 ※東海道巡業（11月4日～、6日間）の内。 ※「神奈川新聞」（10月28日）、「朝日新聞（神奈川版）」（10月23日・11月4日）に拠る。	（不明）
	一九五六	昭和31	12/5~10	東京 東横ホール <因会>	義経千本桜 通し狂言	椎の木の段（弘=猿糸、相生=松之輔）、小金吾討死の段（小金吾-織の・若葉の内侍-織部・六代君-相子・猪熊大之進-弘・弥左衛門-静・五人組-伊達路=八造）、釣瓶寿し屋の段（前 綱=弥七、後 津=寛治）。	若葉の内侍（玉五郎）、主馬の小金吾（亀松）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（兵次）、娘お里（文五郎）、下男弥助実は維盛（栄三）、梶原景時（玉男）。
△	一九五六	昭和31	12月17日	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行（つばめ・古住・小松=勝太郎・市治郎・勝平）。 ※第1回今井栄子、藤間紋寿郎、桐竹紋十郎舞踊と人形による発表会。 ※12月18日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月18日）に拠る）。	（紋十郎）。
△	一九五七	昭和32	4月6日	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（源）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月6日）に拠る。	
△	一九五七	昭和32	4月13日	ラジオ放送 <三和会>	義経千本桜	すしやの段（若=燕三）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月13日）に拠る。	
	一九五七	昭和32	4/18~23	京都 南 座 <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（前 綱=弥七、後 津=寛治）。 ※吉田難波掾位受領披露興行。	若葉内侍（文昇）、いがみ権太（玉助）、鮎屋弥左衛門（兵次）、娘お里（文五郎事 難波掾）、弥助実は維盛（栄三）、梶原景時（淳造）。

△	一九五七	昭和32	5月2日	三重 伊勢会館 <三和会>	義経千本桜	道行。 ※「伊勢新聞」(4月30日)に拠る。	(不明)
	一九五七	昭和32	5月26日	大津 滋賀会館 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路(静御前-小松・忠信-松島・ツレ 常子=燕三・仙二郎・団作・勝平・友若)。 ※地方公演(東北・北海道、5月10日～)の内。	静御前(紋之助)、忠信(勘十郎)。
	一九五七	昭和32	6/1～9	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	寿しやの段(前住=勝太郎、後つばめ=喜左衛門)。 ※初代桐竹紋十郎五十回忌追善公演。 ※6月6日ラジオ放送(「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(6月6日)に拠る)。	若葉内侍(一日交替 紋寿/紋四郎)、いがみの権太(辰五郎)、弥左衛門(国秀)、お里(紋十郎)、弥助実(平惟盛(紋二郎)、梶原景時(勘十郎))。
△	一九五七	昭和32	7月1日	北海道砂川町 三井砂川中央会館 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路。 ※地方公演(北海道・東北)の内。 ※「砂川春秋」(6月15日)に拠る。	(不明)
	一九五七	昭和32	8/20～25	京都 南座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅(山城少掾・相生・綱・土佐・津・雛・松・和佐・静・織部・織の・相次・弘・十九・伊達路・綱子・津の子・相子・松子・長子・南部=藤蔵・豊助・弥七・八造・寛治・徳太郎・清六・新三郎・吉三郎・清好・錦糸・藤二郎・団六・清治・団二郎・藤之助・清八・喜八郎)。 ※伊達大夫改め七代竹本土佐大夫襲名披露。	静御前(栄三)、狐忠信(玉助)。
	一九五七	昭和32	11/1～17	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅(相生・雛・和佐・静・南部・織部・織の・相次・弘・十九・伊達路・津の子・相子・松子・長子=松之輔・吉三郎・八造・徳太郎・錦糸・新三郎・団六・清好・団二郎・藤二郎・藤之助・清八・豊助)。	静御前(玉五郎)、狐忠信(玉男)。
	一九五八	昭和33	2/12～16	東京 読売ホール <因会>	義経千本桜	道行初音の旅路(静御前-南部・忠信-織の・ツレ 織部・伊達路=藤蔵・八造・錦糸・団二郎・藤二郎)、川連法眼館の段(切相生=松之輔・ツレ 団六)。	源義経(東太郎)、静御前(玉五郎)、狐忠信(道行=玉男、川連館=亀松)。
	一九五八	昭和33	3/29～	地方公演 (中国・九州) <三和会>	義経千本桜	初音の旅路(忠信-松島・静御前-小松・ツレ 常子=市治郎・仙二郎・団作・勝平)。 ※三和会10周年記念公演。	静御前(紋之助)、忠信(勘十郎)。
△	一九五八	昭和33	4月6日	ラジオ放送 <因会>	花の吉野山 千本桜道行	(織の・綱・織部)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(4月6日)に拠る。	
	一九五八	昭和33	5/30～	地方公演 (伊勢) <三和会>	義経千本桜	初音の旅路(忠信-松島・静御前-小松・ツレ 常子=市治郎・仙二郎・団作・勝平)。 ※三和会10周年記念公演。	静御前(紋之助)、忠信(勘十郎)。
	一九五八	昭和33	6月9日	中ノ島新大阪ホテル <三和会>	義経千本桜	道行初音ノ旅路(静御前-源・忠信-古住・松島・小松=叶太郎・市治郎・仙二郎・団作・勝平・猿二郎)。	静御前(紋十郎)、忠信(勘十郎)。

	一九五八	昭和33	7月1日	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	寿し屋の段。 ※故鶴澤綱造追善義太夫大会。	若葉の内侍（紋寿）、いがみの権太（勘十郎）、親弥左衛門（国秀）、娘お里（紋十郎）、弥助実は平維盛（紋之助）、梶原景時（作十郎）。
	一九五八	昭和33	7/21~28	地方公演 （東海道） <三和会>	義経千本桜	初音の旅路（忠信－松島・静御前－小松・ツレ 常子＝市治郎・仙二郎・団作・勝平）。 ※三和会10周年記念公演。	静御前（紋之助）、忠信（勘十郎）。
△	一九五八	昭和33	8/3~23	地方公演 （近畿） <因会>	義経千本桜	道行。 ※『松竹百年史』に拠る。	（不明）
△	一九五八	昭和33	8月28日	テレビ放送 <合同>	道行初音旅	※読売テレビ開局記念番組。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（8月28日）に拠る。	
	一九五八	昭和33	9/1~11	道頓堀文楽座 <合同>	義経千本桜	道行初音旅（狐忠信－津・静御前－南部・ツレ 織部・十九・小松＝寛治・吉三郎・団六・勝平・市治郎・叶太郎）、川連法眼館の段（中 つばめ＝喜左衛門、切 綱＝弥七・ツレ 錦糸）。 ※六世竹本住大夫引退披露興行。	源義経（紋之助）、静御前（道行＝栄三、川連館<前>＝玉五郎、川連館<後>＝難波掾）、狐忠信（道行＝亀松、川連館＝玉助）、佐藤忠信（作十郎）。
	一九五八	昭和33	10/5~18	地方公演 （東海道） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（シテ 小松・ワキ 松島・ツレ 古住＝市治郎・勝平・団作）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。
	一九五八	昭和33	10月22日	貝塚市 貝塚市公会堂 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅（静－小松・忠信－松島＝市治郎・八助・団作・猿二郎・勝平）。	静（紋之助）、忠信（勘十郎）。
△	一九五八	昭和33	10月25日	滋賀 膳所東洋レーヨン <三和会>	義経千本桜	道行。 ※『文楽因会三和会興行記録』に拠る。	静御前（紋十郎）。
	一九五八	昭和33	11/1~23	道頓堀文楽座 <合同>	義経千本桜	釣瓶寿司屋の段（前 津＝寛治//つばめ＝喜左衛門、中 松＝清六、切 若＝勝太郎）。 ※11月11日ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（11月11日）に拠る）。15日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（11月15日）に拠る）。	若葉の内侍（栄三）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（前＝紋十郎、後＝文五郎事 難波掾）、弥助実は維盛（玉男）、梶原景時（辰五郎）。
	一九五八	昭和33	11/24~25	神戸 神戸新聞会館 <合同>	義経千本桜	釣瓶寿司屋の段（前 津＝寛治//つばめ＝喜左衛門、中 松＝清六、切 若＝勝太郎）。	若葉の内侍（栄三）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（前＝紋十郎、後＝文五郎事 難波掾）、弥助実は維盛（玉男）、梶原景時（辰五郎）。
	一九五八	昭和33	12/11~	地方公演 （東海道・東京） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（シテ 小松・ワキ 松島・ツレ 古住＝市治郎・勝平・団作）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。

△	一九五八	昭和33	12月20日	三越劇場 <因会>	義経千本桜	すし屋の段（土佐＝藤蔵）。 ※第94回三越名人会。大阪市民文化祭賞受賞者特集。	（難波掾）。
	一九五九	昭和34	1月1日	テレビ放送 <因会>	義経千本桜	道行初音旅（綱）。 ※「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（1月1日）に 拠る。	（難波掾）、（栄三）。
	一九五九	昭和34	2/17～20	東京 新橋演舞場 <合同>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（前 相生＝松之輔、後 綱＝弥七）。 ※豊竹山城少掾引退披露公演。	若葉の内侍（玉五郎）、いがみの権太（玉助）、親 弥左衛門（玉市）、娘お里（紋十郎）、下男弥助実 は三位中将維盛（玉男）、梶原平三景時（辰五 郎）。
	一九五九	昭和34	2/21～	地方公演 （東京方面） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（シテ 小松・ワキ 松島・ツレ 古住＝市治郎・勝 平・団作・仙二郎）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。
	一九五九	昭和34	3/25～	地方公演 （東北） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（シテ 小松・ワキ 松島・ツレ 古住＝市治郎・勝 平・団作・仙二郎）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。
△	一九五九	昭和34	3月31日	ラジオ放送 <三和会>	義経千本桜	すし屋（つばめ）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」（3月31日）に 拠る。	
	一九五九	昭和34	6/19～	地方公演 （中国・九州） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（シテ 小松・ワキ 松島＝燕三・勝平・団作・仙二 郎）。	静御前（紋之助）、狐忠信（勘十郎）。
	一九五九	昭和34	6/20～21	地方公演 （北陸・佐渡） <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前一弘・忠信一伊達路・津の子＝徳太郎・錦 糸・団二郎・藤二郎）。 ※6月21日佐和田町立河原田小学校講堂では竹本伊達路太夫が豊竹 十九太夫、鶴沢徳太郎が野沢吉三郎に代わる。	静御前（玉五郎）、狐忠信（玉男）。
	一九五九	昭和34	7月16日	栃木県足利市 興国化学講堂 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（小松・松島・若子＝市治郎・勝平・団作・猿二 郎）。 ※学生の文楽教室。	静御前（清十郎）、忠信（勘十郎）。
△	一九五九	昭和34	10月3日	大津 滋賀会館大ホール <因会>	義経千本桜	道行初音旅。 ※「滋賀日日新聞」（9月24日）に拠る。	（不明）
	一九五九	昭和34	10月18日	和歌山 和歌山経済センター 大ホール <因会>	義経千本桜	道行初音旅（静御前一弘・忠信一十九・津の子＝錦糸・団二郎・ 藤二郎）。	静御前（亀松／栄三）、狐忠信（玉助）。
	一九五九	昭和34	11/9～12	東京 新橋演舞場 <合同>	義経千本桜	すし屋の段（いがみの権太一若・娘お里一土佐・下男弥助実は三位 中将維盛一津・村の歩き一弘／十九・梶原平三景時一綱・六代 君一津の子・若葉の内侍一松・弥左衛門女房一つばめ・親弥左衛 門一相生＝前 清六、後 勝太郎）。	若葉の内侍（玉五郎）、いがみの権太（玉助）、親 弥左衛門（辰五郎）、娘お里（前＝亀松、後＝難波 掾）、下男弥助実は三位中将維盛（玉男）、梶原平 三景時（勘十郎）。

△	一九五九	昭和34	11月18日	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（大夫三味線総出演）。 ※輝く文化功労者 吉田難波掾を祝う会。	静御前（前＝難波掾、後＝亀松）、忠信（玉助）。
△	一九六〇	昭和35	1月2日	ラジオ放送 <合同>	義経千本桜	道行初音の旅（綱・つばめ＝喜左衛門・弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」「週刊NHK新聞」（1月1日）に拠る。	
△	一九六〇	昭和35	2月12日	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	川連館の段（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（2月12日）に拠る。	
△	一九六〇	昭和35	4月10日	奈良 中の千本勝手神社境内 <因会>	義経千本桜	道行の段（織の＝団六）。 ※「大阪日日新聞」（4月9日）に拠る。	（文雀）。
	一九六〇	昭和35	4/24～5/15	道頓堀文楽座 <合同>	義経千本桜	小金吾討死の段（主馬野小金吾－つばめ・若葉の内侍－南部・六代君－津の子・猪熊大之進－伊達路・五人組－弘・鮎屋弥左衛門－長子＝喜左衛門）、釣瓶寿し屋の段（前 静改め 大隅＝吉三郎、後 若＝勝太郎）。 ※静大夫改め五代竹本大隅大夫襲名披露。 ※5月10日「寿し屋の段」ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月10日）に拠る）。	若葉の内侍（玉五郎）、主馬野小金吾（勘十郎）、いがみの権太（玉助）、鮎屋弥左衛門（玉市）、娘お里（亀松）、弥助実は維盛（玉男）、梶原景時（辰五郎）。
	一九六〇	昭和35	6/21～29	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	椎の木の段（松島＝仙二郎）、小金吾討死の段（小松＝燕三）、鮎屋の段（前 文字＝叶太郎、後 つばめ＝喜左衛門）。	若葉内侍（一日替り 紋寿／勘之助）、小金吾（清十郎）、いがみの権太（辰五郎）、弥左衛門（勘十郎）、娘お里（清十郎）、弥助実は三位中将維盛（紋二郎）、梶原平三景時（作十郎）。
△	一九六〇	昭和35	8月6日	大阪ABCホール <三和会>	（義経千本桜）	道行。 ※全国公立幼稚園園長会議。 ※『吉田文雀ノート』、「朝日新聞（大阪版）」（8月15日）に拠る。	（不明）
△	一九六〇	昭和35	9月8日	大阪府箕面市 牧落宇宙の宮 <因会>	（義経千本桜）	※奉納。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	（不明）
△	一九六〇	昭和35	9/不明	テレビ収録 <因会>	義経千本桜	渡海屋の段（綱＝弥七）。 ※NHKテレビ番組「芸術の窓」収録。 ※『文楽の男 吉田玉男の世界』、『吉田玉男文楽藝話』に拠る。	知盛（玉男）。
△	一九六〇	昭和35	10/4～12	地方公演 （四国） <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（織の・伊達路・津弥＝錦糸・団六・団二郎・藤二郎）。 ※『昭和35年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前（文雀）、狐忠信（玉男）。

一九六〇	昭和35	12/12・14	滋賀 琵琶湖ヘルスセン ター ＜合同＞	(義経千本桜)	道行（静一小松・忠信一松島・文字＝市治郎・勝平・仙二郎・団 作）。	(不明)
		12月13日			道行（静一文字・忠信一松島・小松＝勝太郎・仙二郎・団作・勝 平）。 ※文楽教室。	(不明)
一九六一	昭和36	3/25～4/15	地方公演 (東海・関東・長 野) ＜三和会＞	義経千本桜	道行初音の旅路（静一小松・忠信一松島・文字＝市治郎・勝平・ 団作・仙二郎）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
一九六一	昭和36	4月25日	兵庫 宝塚市木本邸 ＜因会＞	義経千本桜	初音の旅路（狐忠信一木本淡司・静御前一春子＝東重・ツレ徳太 郎）。 ※故四代目鶴澤清六師を偲ぶ会。	(玉男)、(玉五郎)。
一九六一	昭和36	4月26日	兵庫カ 大原劇場 ＜三和会＞	義経千本桜	道行初音の旅路（小松・松島＝勝太郎・勝平・仙二郎・猿二郎・ 燕三）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
一九六一	昭和36	4月28日	毎日ホール ＜因会＞	義経千本桜	吉野山の段（綱・津・織の・綱子＝弥七・錦糸・団六・団二 郎）。 ※国家指定芸能特別鑑賞会。 ※4月30日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪 版）」「読売新聞（大阪版）」（4月30日）に拠る）。	静御前（難波掾／紋十郎）、忠信（玉助）。
一九六一	昭和36	6月24日	横浜 共立学園 ＜三和会＞	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前一小松・忠信一松島＝勝平・仙二郎・団 作・猿二郎）。 ※大講堂落成記念公演。	静御前（紋二郎）、忠信（勘十郎）。
一九六一	昭和36	6/28～7/9	東京 三越劇場 ＜三和会＞	義経千本桜	道行初音旅路（小松・松島＝市治郎・勝平・仙二郎・団作）。 ※第14回学生の文楽教室。	静御前（簀助）、忠信（勘十郎）。
一九六一	昭和36	7/10～22	地方公演 (関東・東北) ＜三和会＞	義経千本桜	道行初音の旅路（静一小松・忠信一松島・文字＝市治郎・勝平・ 団作・仙二郎）。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』では12～18日とする。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
		7/12～13	水戸市 茨城会館 ＜三和会＞		道行初音の旅路（小松・文字・松島＝勝平・仙二郎・猿二郎・団 作・燕三・市治郎）。 ※学生の文楽教室。 ※地方公演（関東・東北、7月10日～）の内。	
一九六一	昭和36	7/19～23	京都 南座 ＜因会＞	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（前後毎日替 相生＝重造//津＝寛治）、道行初音 の旅（静御前一土佐／春子・狐忠信一織の・津の子・松香＝藤蔵 ／松之輔・徳太郎・団六・団二郎・清治・錦糸）。	若葉内侍（文雀）、静御前（玉五郎）、狐忠信（玉 男）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉 市）、娘お里（栄三）、弥助実は維盛（東太郎）、 梶原景時（玉男）。

一九六一	昭和36	8/4~6	毎日ホール <合同>	義経千本桜	道行初音の旅（若子・綱子・津の子・相子・小松・津弥・松香・伊達路・十九・織の・文字＝勝平・団二郎・藤二郎・清治・団六・勝之輔・勝太郎・弥七）。 ※文楽嫩会第9回例会夏季大発表会。	静御前（紋二郎改め 簀助）、忠信（玉昇）。
一九六一	昭和36	10/6~21	地方公演 （東海・関東） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静－小松・忠信－松島・文字＝市治郎・勝平・団作・仙二郎）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
一九六一	昭和36	11月21日	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－つばめ・忠信－文字・小松・若子＝喜左衛門・勝太郎・燕三・市治郎・勝平・猿二郎）。 ※外国人向け公演。	静御前（紋十郎）、忠信（勘十郎）。
一九六二	昭和37	2/12~16	地方公演 （東京） <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静－小松・忠信－松島・文字＝市治郎・勝平・団作・仙二郎）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
一九六二	昭和37	2月17日	横浜 ニューグランドホテル <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前－小松・狐忠信－松島＝市治郎・勝平・仙二郎）。 ※『文楽興行記録昭和篇』では3月17日、『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』は2月27日とする。 ※役名は『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
△	一九六二	昭和37	3月9日	毎日ホール <因会>	（義経千本桜） 道行（織の・十九＝団六・団二郎）。 ※大正中学校卒業生を送る会。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	静（文雀）、忠信（東太郎）。
△	一九六二	昭和37	3月19日	兵庫 甲南女子高等学校 <因会>	（義経千本桜） 道行。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	
一九六二	昭和37	3月20日	松坂会館 <因会>	千本桜	三段目 すしやの段。 ※有楽会文楽人形入素人浄瑠璃。	若葉の内侍（小玉）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（玉市）、娘お里（玉五郎）、弥助実は維盛（文雀）、梶原平三（東太郎）。

	一九六二	昭和37	4/1~3	毎日ホール <両派>	義経千本桜 通し狂言	伏見稻荷の森の段（口津弥=団六、奥伊達路=団二郎）、渡海屋の段（中綱子=清治、次十九=団六、奥文字=勝太郎）、道行初音の旅（綱子・松香・静御前-相子・狐忠信-若子・津弥=団六・弥七・団二郎・清治・勝太郎・勝平）、川連法眼館の段（中小松=勝平、奥織の=弥七・ツレ勝之輔）。 ※文楽嫩会第10回記念大発表会。 ※4月9日「伏見稻荷の段」、4月10日「渡海屋の段」、4月11日「道行初音の旅」、4月12~13日「川連法眼館の段」ラジオ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月9~11・13日）に拠る）。 ※5月3日「川連法眼館の段」テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月3日）、『吉田文雀ノート』に拠る。	源義経（稻荷森=文雀、渡海屋=蓑助、川連館=紋弥）、武蔵坊弁慶（玉幸）、静御前（稻荷森=蓑助、道行=小玉、川連館=勘之助）、狐忠信（稻荷森・川連館=東太郎、道行=蓑助）、女房おりう実は典侍局（文雀）、渡海屋銀平実は新中納言知盛（玉昇）、佐藤忠信（玉幸）。
△	一九六二	昭和37	4月1日	テレビ収録 <因会カ>	義経千本桜	道行。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	
△	一九六二	昭和37	4月3日	テレビ収録 <因会カ>	義経千本桜	渡海屋。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	
	一九六二	昭和37	4/18~23	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅。 ※床は女流義太夫の出演。	静御前（玉五郎）、狐忠信（亀松）。
△	一九六二	昭和37	5月10日	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	（春子=松之輔）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月10日）に拠る。	
	一九六二	昭和37	6/1~7	東京 東横ホール <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（松香・相子・十九・大隅・春子・土佐・相生・津・南部・織の・伊達路・津弥=団二郎・団六・吉三郎・重造・松之輔・藤蔵・寛治・弥七・徳太郎・錦糸・新三郎）。 ※文楽座因会初の自主公演。	静御前（亀松）、狐忠信（玉助）。
	一九六二	昭和37	6月2日	神戸 神戸海員会館 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅路（静御前-小松・忠信-松島・ツレ文字=燕三・勝平・仙二郎・勝之輔）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
	一九六二	昭和37	6/9~10	横浜 松竹映画劇場 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅 吉野山の場。 ※床は女流義太夫。	静（文雀）、狐忠信（東太郎）。
△	一九六二	昭和37	6月24日	東京 本牧亭 <三和会>	義経千本桜	鮎屋（若=広若）。 ※若大夫会。 ※『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	

△	一九六二	昭和37	7/23～29	アメリカ（シアトル） ワールドフェアプレイハウス <両派>	義経千本桜	道行初音の旅（春子・津・文字・織の＝喜左衛門・勝太郎・弥七・松之輔・団六・勝平・寛治）。 ※『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	(不明)
△	一九六二	昭和37	8/8～23	カナダ・アメリカ・ハワイ <両派>	義経千本桜	道行初音の旅（春子・津・文字・織の＝喜左衛門・勝太郎・弥七・松之輔・団六・勝平）。 ※8月8～11日カナダ・バンクーバー（ジョン・オリバーオーデトリウム）、16～19日アメリカ・ロスアンゼルス（フライデーモーニングクラブプレイハウス）、22～23日ハワイ・ホノルル（マッキンレー・ハイ大講堂）。 ※マッキンレー・ハイ講堂では、鶴沢寛治なし、人形役割は静御前が吉田簗助、忠信が吉田玉男。	
	一九六三	昭和38	1/1～10	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	釣瓶鮫屋の段（前／後 相生＝重造//津＝寛治）。 ※竹本織の大夫改め五代目竹本織大夫襲名披露。	若葉の内侍（玉五郎）、権太（玉助）、弥左衛門（玉市）、お里（栄三）、弥助（玉男）、梶原景時（玉昇）。
	一九六三	昭和38	1月11日	道頓堀文楽座 <因会>	義経千本桜	寿し屋の段（前 伊達路＝団二郎、中 小松＝勝平、後 十九＝団六）。 ※若手勉強発表会。	若葉の内侍（勘之助）、いがみの権太（玉昇）、親弥左衛門（紋弥）、娘お里（簗助）、弥助実は三位中将惟盛（一暢）、梶原平三景時（玉幸）。
	一九六三	昭和38	1/29～2/3	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－若子・忠信－松島・ツレ 小松＝燕三・仙二郎・団作・広若・勝之輔・猿二郎）。 ※文楽三和会「お別れ」公演（筋書）。	静御前（簗助）、忠信（清十郎）。
	一九六三	昭和38	1/30～2/10	東京 三越劇場 <三和会>	義経千本桜	道行初音旅（交替出演）。 ※第17回学生の文楽教室。	静御前（交替出演 清十郎／簗助）、狐忠信（交替出演 勘十郎／作十郎）。
	一九六三	昭和38	2/8～13	東京 東横ホール <因会>	義経千本桜	釣瓶寿し屋の段（前 織の改 織＝藤蔵、後 津＝寛治）。 ※東京御名残り自主公演。織の大夫改め五代目竹本織大夫襲名披露。	若葉の内侍（玉五郎）、権太（玉助）、弥左衛門（玉市）、お里（栄三）、弥助（玉男）、梶原景時（玉昇）。
	一九六三	昭和38	2/14～15	東京 東横ホール <合同>	義経千本桜	小金吾討死の段（若子＝勝平）、釣瓶寿し屋の段（前／後 相生＝重造//津＝寛治）。 ※文楽因会三和会合同若手公演。国家指定芸能鑑賞会。	若葉の内侍（小金吾討死＝勘之助、寿し屋＝玉五郎）、主馬小金吾（紋寿）、権太（玉助）、弥左衛門（小金吾討死＝東太郎、寿し屋＝玉市）、お里（栄三）、弥助（玉男）、梶原景時（玉昇）。

	一九六三	昭和38	2月20日	サンケイホール <合同>	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－土佐・狐忠信－相生・文字・伊達路・相子＝藤蔵・重造・燕三・団二郎・清治）、河連法眼館の段（中文字＝勝太郎、切つばめ＝喜左衛門・ツレ勝平）。 ※NHK人形浄瑠璃新作発表会。 ※3月31日「河連法眼館の段」、4月27日「道行初音の旅」テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月31日・4月27日）、プログラムに拠る）。	源義経（清十郎）、静御前（道行＝栄三、河連館＝玉五郎）、狐忠信（道行＝玉助、河連館＝亀松）、佐藤忠信（玉市）。
△	一九六三	昭和38	3/14・4/3	ラジオ放送 <因会>	義経千本桜	道行初音の旅（土佐・文字・小松＝藤蔵・吉三郎）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月14日）に拠る。	
	一九六三	昭和38	3月23日	道頓堀文楽座	義経千本桜	椎の木の段。	御台（文昇）、小金吾（玉幸）、権太（玉昇）。
			3月24日	<因会>		すし屋の段。 ※文楽素人人形浄瑠璃公演会。	内侍（文昇）、権太（玉男）、弥左衛門（淳造）、お里（亀松）、弥助（玉五郎）、梶原（玉市）。
△	一九六三	昭和38	9月10日	ラジオ放送	義経千本桜	すしやの段（織＝藤蔵）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（9月10日）に拠る。	
△	一九六四	昭和39	1月8日	愛知 小牧市味岡中学校体育館	（義経千本桜）	道行。 ※お岩稲荷神社奉納文楽。 ※「中部日本新聞」（1月8～9日）に拠る。	（不明）
	一九六四	昭和39	1月25日	NHK大阪TV第一スタジオ	道行初音の旅	（つばめ・文字・伊達路・小松＝喜左衛門・錦糸・団六・勝平・団二郎）。 ※同日にテレビ放送あり。	静（栄三）、忠信（玉助）。
	一九六四	昭和39	2/1～14	東京 三越劇場	道行初音の旅	（春子・坐り文字／織・相子／小松・津弥／松香＝松之輔・坐り燕三／徳太郎・勝平・広若）。 ※「文五郎事 吉田難波掾三回忌追善／三回忌に因んで」。	静御前（紋十郎）、忠信（清十郎）。
	一九六四	昭和39	3/3～22	朝日座	義経千本桜	すしやの段（前文字＝燕三、後相生＝重造）。 ※3月28日テレビ放送（「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月28日）に拠る）。	若葉の内侍（清十郎）、いがみの権太（玉助）、親弥左衛門（勘十郎）、娘お里（亀松）、弥助実は維盛（玉男）、梶原景時（玉昇）。
	一九六四	昭和39	5月1日	サンケイホール	義経千本桜	道行初音の旅（土佐・相生・伊達路・綱子・相子・津弥・松香＝吉兵衛・燕三・団六・団二郎・清治・寛弘・勝之輔）。 ※第1回なにわ芸術祭。	静御前（簗助）、狐忠信（清十郎）。
△	一九六四	昭和39	5月30日	神戸 神戸海員会館	義経千本桜	道行初音の旅（織・十九・伊達路・相子・津弥＝藤蔵・団六・清治・寛弘）。 ※国連協会主催公演。 ※文楽協会資料、『昭和39年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前（簗助）、狐忠信（勘十郎）。

△	一九六四	昭和39	6/15~20	東京 豊島公会堂	二人禿／お里／段畑	(春子・南部・織・綱子＝松之輔・錦糸・団六・団二郎・広若)。 ※「文楽小品集三題」。 ※東京勤労者音楽協議会(労音)	お里(文昇)。
			6月21日	東京 九段会館			
△	一九六四	昭和39	7/18~8/3	地方公演 (関東・甲信越)	義経千本桜	道行初音の旅(源・文字・松香＝叶太郎・団二郎・清治・団作)。	静御前(簗助)、狐忠信(勘十郎)。
						道行初音旅(小松・伊達路・松香＝叶太郎・団二郎・清治・団作)。 ※文楽教室。7月23日静岡・浜松市民会館では鶴沢叶太郎が鶴沢徳太郎に代わる。 ※文楽協会資料に拠る。	静御前(簗助)、狐忠信(玉昇)。
	一九六四	昭和39	9月12日	東京 日生劇場小ホール	(義経千本桜)	道行初音の旅(相生・織・伊達路・小松＝重造・吉兵衛・燕三・団二郎)。 ※文楽と箏曲。	静御前(栄三)、狐忠信(玉男)。
	一九六四	昭和39	10/21~27	地方公演 (四国・九州)	義経千本桜	道行初音の旅(源・伊達路・相子＝叶太郎・吉兵衛・団作・寛弘)。	静御前(簗助)、狐忠信(玉昇)。
△	一九六四	昭和39	11月18日	フェスティバルホール	義経千本桜	道行初音の旅(静一土佐・忠信一相生・伊達路・相子＝吉兵衛・重造・団六・寛弘)。 ※全国中学校会議。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』、『昭和39年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前(文雀)、狐忠信(清十郎)。
△	一九六五	昭和40	2月4日	ラジオ放送	義経千本桜	すし屋の段(若＝勝太郎)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(2月4日)に拠る。	
	一九六五	昭和40	4月2日	フェスティバルホール	義経千本桜	吉野山道行(忠信一相生・綱・土佐・津・文字・織・十九・綱子・相子・小松・津弥＝寛治・弥七・吉兵衛・勝太郎・叶太郎・錦糸・徳太郎・勝平・団二郎・清治・勝之輔)。 ※ライオンズ国際協会三〇二W I 地区第11回年次大会。	静御前(栄三)、狐忠信(亀松)。
	一九六五	昭和40	4月28日	サンケイホール	義経千本桜	小金吾討たれの段(織＝勝太郎)、釣瓶すし屋の段(前綱＝弥七、後津＝寛治)、道行初音の旅(忠信一相生・静御前一土佐・伊達路・相子・津弥＝吉兵衛・叶太郎・燕三・団二郎・勝之輔)、川連法眼館の段(南部＝徳太郎、つばめ＝喜左衛門・勝之輔)。 ※第2回なにわ芸術祭。	源義経(簗助)、若葉の内侍(文雀)、主馬小金吾(簗助)、静御前(亀松)、狐忠信(玉男)、いがみの権太(勘十郎)、鮎屋弥左衛門(辰五郎)、娘お里(紋十郎)、弥助実(平維盛(清十郎)、梶原景時(玉昇)、佐藤忠信(作十郎)。

△	一九六五	昭和40	6月6日	フェスティバルホール	道行初音旅	(静一綱・忠信一相生・春子・つばめ・文字・南部・伊達路・十九・小松・綱子・小春・松香=喜左衛門・叶太郎・弥七・錦糸・吉兵衛・勝平・団六・新三郎・団二郎・清治・団作)。 ※ライオンズクラブ年次大会。文楽バラエティーの内。 ※文楽協会資料、『昭和40年度人形浄瑠璃因協会年報』、「文楽友の会通信」第10号、『吉田文雀ノート』に拠る。	静御前(栄三)、狐忠信(亀松)。
	一九六五	昭和40	9月13日	東京 NHKホール	道行初音の旅	(忠信一つばめ・静御前一春子・南部・文字・伊達路・小松・松香=喜左衛門・松之輔・重造・錦糸・燕三・勝平・団二郎)。	静御前(紋十郎)、忠信(玉男)。
	一九六五	昭和40	9/25~26	名古屋 愛知文化講堂	義経千本桜	すしやの段(前若=勝太郎、後津=寛治)。	若葉の内侍(簗助)、いがみの権太(勘十郎)、親弥左衛門(辰五郎)、娘お里(亀松)、弥助実は維盛(玉五郎)、梶原景時(玉昇)。
△	一九六五	昭和40	9月26日	テレビ放送	道行初音の旅	※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(9月26日)に拠る。	(紋十郎)、(玉男)。
	一九六五	昭和40	10/22~24	京都 祇園会館	義経千本桜	すしやの段(前綱=弥七、後つばめ=喜左衛門)。	若葉の内侍(文昇)、いがみの権太(玉男)、親弥左衛門(勘十郎)、娘お里(紋十郎)、弥助実は平維盛(清十郎)、梶原景時(作十郎)。
△	一九六五	昭和40	11月6日	電気くらぶ	義経千本桜	道行初音の旅(春子・織・小春=松之輔・錦糸・団二郎)。 ※文楽協会資料、『昭和40年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前(紋十郎)、狐忠信(清十郎)。
	一九六五	昭和40	11月12日	大阪市立中央体育館	義経千本桜	道行初音の旅(静一土佐・忠信一つばめ・文字・織・小春=喜左衛門・吉兵衛・叶太郎・燕三・寛弘)。 ※「文楽ヴァラエティ」として「二人三番」「伊達娘恋緋鹿子 お七火の見櫓の段」「義経千本桜 道行初音の旅」を上演。 ※第16回全日本中学校長会大阪大会。	静御前(紋十郎)、狐忠信(玉男)。
△	一九六六	昭和41	1/29~	地方公演 (東海・関東)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一南部・狐忠信一文字・伊達路・小春=徳太郎・燕三・勝平・寛弘)。 ※文楽協会資料、「文楽友の会通信」第12号に拠る。	静御前(簗助)、狐忠信(玉男)。
	一九六六	昭和41	3/6~16	地方公演 (東海道)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一十九・狐忠信一相子・小春=叶太郎/徳太郎・団二郎・清治)。	静御前(小玉)、狐忠信(作十郎)。
△	一九六六	昭和41	4/22~5/2	地方公演 (東海道・関東)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一文字・狐忠信一伊達路・小春=錦糸・勝平・寛弘)。 ※4月26日神奈川・神奈川県立上溝高等学校の文楽教室公演では、人形役割の静御前を桐竹亀松、狐忠信を吉田栄三に変更。同日神奈川・相模原市民会館では、人形役割の静御前を桐竹亀松、狐忠信を吉田玉男に変更(文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る)。	静御前(簗助)、狐忠信(玉男)。

		5月1日			道行（源・伊達路・小春＝叶太郎・勝平・新三郎）。 ※「政教新聞」（5月1日）、文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	静（亀松）、忠信（玉男）。	
△	一九六六	昭和41	4月23日	ラジオ放送	義経千本桜	河連法眼館の段（綱＝弥七）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（4月23日）に拠る。	
△	一九六六	昭和41	5月1日	ラジオ放送	義経千本桜	（綱＝燕三）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月1日）に拠る。	
	一九六六	昭和41	5/19～21	京都 祇園会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一織・狐忠信＝十九・ツレ 綱子・相子・小松＝燕三・勝平・団二郎・清治・叶太郎）。 ※アメリカ公演帰朝記念。	静御前（亀松）、狐忠信（清十郎）。
△	一九六六	昭和41	6月26日	テレビ放送	義経千本桜	渡海屋の段（綱＝弥七、団二郎、清治）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月17日）、文楽協会資料に拠る。	源義経（栄三）、武蔵坊弁慶（勘十郎）、典侍の局（紋十郎）、平知盛（玉男）。
△	一九六六	昭和41	6/28・7/5	ラジオ放送	義経千本桜	椎の木の段（伊達路＝団六）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月28日）に拠る。	
△	一九六六	昭和41	8/14～15	東京 文京公会堂	義経千本桜	道行初音の旅（静御前＝春子・狐忠信＝文字・ツレ 小松・松香・小春＝松之輔・徳太郎・勝平・清治・勝之輔）。 ※東京労音公演。 ※文楽協会資料、『東京労音機関誌 ひびき』155号に拠る。	静御前（栄三）、狐忠信（玉男）。
△	一九六六	昭和41	9月20日	神戸 神戸海員会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前＝小松・狐忠信＝相子・小春＝団六・団二郎・清治・勝之輔//静御前＝南部・狐忠信＝織・ツレ 相子・小松・小春＝錦糸・団六・団二郎・清治・勝之輔）。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』、『昭和41年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前（簗助/亀松）、狐忠信（玉昇/勘十郎）。
△	一九六六	昭和41	10月20日	太 閤 園	義経千本桜	道行初音旅（南部・文字＝錦糸・勝平・清治）。 ※文楽協会資料に拠る。	静御前（栄三）、狐忠信（亀松）。
△	一九六六	昭和41	12月17日	ラジオ放送	義経千本桜	四段目（綱）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（12月17日）に拠る。	
	一九六七	昭和42	1/8～22	朝 日 座	義経千本桜	釣瓶すしやの段（織＝錦糸、切若＝勝太郎）。 ※1月8～16日吉田作十郎休演のため、梶原景時を吉田玉昇が代演。豊竹若太夫休演のため、竹本春子太夫が代演（『吉田文雀ノート』に拠る）。	若葉の内侍（文雀）、いがみの権太（玉男）、親弥左衛門（勘十郎）、娘お里（紋十郎）、弥助実は維盛（清十郎）、梶原景時（作十郎）。
	一九六七	昭和42	1月23日	朝 日 座	義経千本桜	釣瓶すしやの段（伊達路、十九＝勝平）。	若葉の内侍（勘寿）、いがみの権太（紋弥）、親弥左衛門（文昇）、娘お里（一暢）、弥助実は維盛（玉幸）、梶原景時（玉之助）。

		1月24日			釣瓶すしやの段（十九、伊達路＝勝平）。 ※復活第1回文楽若手向上会。		
△	一九六七	昭和42	2月13日	竹本綱大夫宅	義経千本桜	川連法眼館（織＝団二郎、咲＝燕三・琴勝之輔）。 ※第8回大序会。 ※『昭和41年度人形浄瑠璃因協会年報』、文楽協会資料に拠る。	
△	一九六七	昭和42	3月2日	小田原 小田原市民会館	義経千本桜	道行初音の旅（狐忠信－伊達路・静御前－若子・松香＝勝平・団二郎・清治）。 ※文楽協会資料、『昭和41年度人形浄瑠璃因協会年報』、『吉田文雀ノート』に拠る。	静御前（簗助）、狐忠信（玉昇）。
△	一九六七	昭和42	3月13日	中央公会堂	義経千本桜	すしやの段（さわりお里）。 ※文楽協会資料に拠る。	お里（玉五郎）。
	一九六七	昭和42	4/18～30	朝日座	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－南部・狐忠信－十九・ツレ伊達路・松香・小春＝吉兵衛・錦糸・団二郎・勝之輔・叶太郎）、川連法眼館の段（織＝団六、春子＝松之輔・ツレ清治）。	源義経（玉昇）、静御前（玉五郎）、狐忠信（栄三）、佐藤忠信（作十郎）。
△	一九六七	昭和42	4月30日	大阪市立体育館	義経千本桜	道行初音の旅（南部・十九・松香・小春＝吉兵衛・錦糸・団二郎・勝之輔）。 ※全国看護婦人大会。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	静御前（玉男）、狐忠信（栄三）。
	一九六七	昭和42	5/8～25	地方公演 （関東・東海）	義経千本桜	道行初音の旅（狐忠信－伊達路・静御前－若子・小春＝叶太郎・勝平・団二郎／清治・燕三）。	静御前（簗助）、狐忠信（玉昇）。
			5月12日	神奈川 横浜市文化体育館		道行初音の旅（狐忠信－伊達路・静御前－若子・松香＝勝平・団二郎・叶太郎）。	〃
	一九六七	昭和42	5/27～28	名古屋 中日劇場	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－南部・狐忠信－十九・若子・小松・咲＝徳太郎・団六・勝平・団二郎・燕三）。 ※中日劇場開場1周年記念公演。	静御前（栄三）、狐忠信（玉男）。
△	一九六七	昭和42	6月24日	ラジオ放送	義経千本桜	渡海屋の段（綱＝弥七、団二郎）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（6月24日）に拠る。	
△	一九六七	昭和42	7月8日	奈良 釣瓶すし屋内	義経千本桜	すしやのお里（サワリ）。 ※高島屋友の会例会。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	
	一九六七	昭和42	8月22日	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音の旅（津・春子・織・若子・松香＝寛治・勝太郎・団六・勝平・清治）。 ※国際生化学会総会。	静御前（清十郎）、狐忠信（玉男）。
△	一九六七	昭和42	10月3日	大和屋	義経千本桜	すしやの段 お里のさわり（土佐＝吉兵衛）。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	お里（玉男）。

△	一九六七	昭和42	10月10日	兵庫 兵庫県立三原高等学校 校体育館	義経千本桜	すしやの段（伊達路＝錦糸、津＝団六）。 ※「朝日新聞（淡路版）」（10月6日）、文楽協会資料に拠る。	若葉の内侍（紋寿）、いがみの権太（亀松）、親弥左衛門（辰五郎）、娘お里（玉五郎）、弥助実は維盛（簗助）、梶原景時（玉幸）。
△	一九六七	昭和42	10/24・11/7	ラジオ放送	義経千本桜	鮎屋（十九＝錦糸）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（10月24日）に拠る。	
	一九六七	昭和42	11月28日	朝日座	義経千本桜	三段目 すしやの段。 ※日本素人浄瑠璃会主催人形浄瑠璃大会に人形参加。	（不明）
△	一九六八	昭和43	3月23日	ラジオ放送	義経千本桜	（綱）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（3月23日）に拠る。	
△	一九六八	昭和43	4月7日	大阪港中央突堤 ク イン・フレデリカ号 船上	（義経千本桜）	すしやのお里のさわり（録音テープ使用）。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	お里（文雀）。
△	一九六八	昭和43	5月7日	ラジオ放送	義経千本桜	伏見稻荷の森の段（伊達路＝団二郎）、道行初音の旅（相生・文字＝重造）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（5月7日）に拠る。	
△	一九六八	昭和43	6月4日	大阪市立桃陽小学校 講堂	（義経千本桜）	すしやのお里のさわり（録音テープ使用）。 ※文楽協会資料に拠る。	お里（玉五郎）。
△	一九六八	昭和43	8/28～9/5	京都 愛染倉	義経千本桜	※文楽三百年展。 ※文楽協会資料、「京都新聞」（8月28日の記事、8月24日の広告）に拠る。	（不明）
	一九六八	昭和43	9/6～8	京都 弥栄会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－文字・忠信－伊達路・ツレ 松香・英＝重造・徳太郎・新三郎・叶太郎）。	静御前（簗助）、狐忠信（清十郎）。
△	一九六八	昭和43	9月29日	ラジオ放送	義太夫さわり くどき 集	お里（土佐＝藤蔵）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞（大阪版）」（9月29日）に拠る。	
△	一九六八	昭和43	10月2日	厚生年金会館大ホ ール	義経千本桜	道行初音の旅（忠信－相生・静－春子・ツレ 伊達路＝重造・勝太郎・錦糸・清治）。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	静御前（紋十郎）、狐忠信（栄三）。
△	一九六八	昭和43	10月19日	兵庫 氷上郡公会堂	義経千本桜	道行初音の旅（忠信－十九・静御前－島・ツレ 松香・英＝団六・清治・勝之輔）。	静御前（簗助）、狐忠信（清十郎）。
		10月20日	兵庫 西脇市民会館	※兵庫県文化祭。 ※文楽協会資料に拠る。			
△	一九六八	昭和43	11月16日	兵庫 伊丹市立文化会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－相生・忠信－伊達路・ツレ 相子・英＝重造・吉兵衛・勝之輔）。 ※兵庫県文化祭。 ※文楽協会資料に拠る。	静御前（清十郎）、狐忠信（玉昇）。

	一九六八	昭和43	11月19日	兵庫 尼崎市文化会館大 ホール	義経千本桜	道行初音の旅。 ※素人義太夫に三味線・人形参加。	静御前（文雀）、狐忠信（清十郎）。
	一九六八	昭和43	11/29～12/14	地方公演 （中国・九州）	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－春子・忠信－呂・ツレ 伊達路＝勝太郎・ 団六・勝之輔）。 ※文楽渡欧・明治百年記念。 ※12月3日広島・広島学院の文楽教室公演では（忠信－文字・静御 前－小松・ツレ 呂＝重造・徳太郎・勝之輔）、同日広島皆実高等 学校では、人形役割の静御前が桐竹紋十郎、狐忠信が桐竹勘十郎 に変更（文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る）。	静御前（文雀）、狐忠信（清十郎）。
	一九六九	昭和44	1/2～19	朝日座	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－南部・忠信－呂・ツレ 咲・松香・緑＝松 之輔・叶太郎・団二郎・清治・勝之輔）。	静御前（栄三）、狐忠信（亀松）。
△	一九六九	昭和44	2/2～3	朝日座	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－十九・忠信－咲・ツレ 英・緑＝吉兵衛・ 錦糸・団二郎・勝之輔）。 ※大阪労音公演。 ※文楽協会資料、『昭和43年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	静御前（栄三）、狐忠信（亀松）。
△	一九六九	昭和44	3月9日	ラジオ放送	義経千本桜	川連法眼館の段（文字、春子）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞 （大阪版）」（3月9日）に拠る。	
△	一九六九	昭和44	4月27日	ラジオ放送	義経千本桜	道行初音の旅（津）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞 （大阪版）」（4月27日）に拠る。	
	一九六九	昭和44	6/11～26	地方公演 （北陸・関東・東 海）	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－相子・忠信－伊達路・ツレ 緑＝重造・吉 兵衛・叶太郎・仙二郎）。 ※6月19日東京・青梅市民会館の文楽教室公演では、三味線が（吉 兵衛・叶太郎・仙二郎・団六）、20日東京・立川教育会館では （重造・吉兵衛・団六）、21日東京・九段会館では太夫役割の静 御前が豊竹十九太夫、三味線は（重造・吉兵衛・仙二郎・団六） に変更（文楽協会資料、『昭和44年度人形浄瑠璃因協会年報』に 拠る）。	静御前（清十郎）、狐忠信（玉昇）。
△	一九六九	昭和44	7月11日	厚生年金会館	義経千本桜	道行初音の旅（越路・南部・文字・島・英＝松之輔・弥七・団 六・勝平・勝之輔）。 ※文楽協会資料に拠る。	静御前（栄三）、狐忠信（勘十郎）。
△	一九六九	昭和44	7月27日	テレビ放送	義経千本桜	鮎屋の段（津＝寛治）。 ※「朝日新聞（大阪版）」「毎日新聞（大阪版）」「読売新聞 （大阪版）」（7月27日）、『吉田文雀ノート』に拠る。	

一九六九	昭和44	9/14~21	東京 国立劇場 小劇場	道行初音旅	(静一咲/小松・忠信一呂/相子・松香・英・緑=弥七・清治・ 団二郎・勝之輔・団六/勝平)。	静御前(文昇)、忠信(紋弥)。
一九六九	昭和44	12月4日	広島 府中市文化会館	義経千本桜	道行初音の旅(静一文字/相子・忠信一織・ツレ英・緑=吉兵 衛・燕三・団二郎・勝之輔)。	静御前(簗助)、忠信(玉昇)。
一九七〇	昭和45	1月23日	京都 京都府立文化芸術会 館	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一南部・忠信一文字・ツレ相子・松香=勝 太郎・徳太郎・勝平・団二郎)。	静御前(簗助)、狐忠信(清十郎)。
一九七〇	昭和45	3/4~11	地方公演 (東海・関東)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一小松・忠信一相子・ツレ緑=団六・勝 平・勝之輔)。	静御前(簗助)、狐忠信(勘十郎)。
一九七〇	昭和45	4/3~19	朝日座	義経千本桜 通し狂言	初段 仙洞御所評議の段(嶋=叶太郎)、北嵯峨草庵の段(南部= 松之輔)、堀川御所夜討の段(織=勝太郎)、三段目 椎の木の段 (相生=重造)、小金吾討死の段(呂=吉兵衛)、釣瓶すしやの段 (文字=錦糸、十九=弥七)、二段目 伏見稻荷鳥居前の段(伊達 路=団六)、渡海屋大物浦の段(相子=団二郎、咲=燕三、津= 寛治)、四段目 道行初音の旅(静御前一越路・狐忠信一津・ツレ 文字・十九・緑=徳太郎改め道八・寛治・弥七・団六・団二郎・ 清治)、川連法眼館の段(小松=清治、越路=喜左衛門・ツレ勝 之輔、覚範一松香・義経一英=勝平)。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。 ※徳太郎改め二代鶴沢道八襲名披露。襲名披露狂言「道行初音の 旅」。 ※山口廣一=改修・演出、大塚克三=装置。野沢松之輔=作曲 (「北嵯峨草庵の段」)。 ※昼の部=初段・三段目、夜の部=二段目・四段目。 ※豊松清十郎16~17日休演のため、源義経を、「仙洞御所評議の 段」吉田小玉、「堀川御所夜討の段」「伏見稻荷鳥居前の段」 「渡海屋大物浦の段・切」吉田作十郎、「渡海屋大物浦の段・ 口」桐竹紋寿、「川連法眼館の段・口」桐竹一暢、「川連法眼館 の段・切」吉田玉昇が代演。桐竹勘十郎19日休演のため、いがみ の権太・能登守平教経を吉田玉昇が代演(『吉田文雀ノート』に 拠る)。	九郎判官源義経(清十郎)、義経の家臣武蔵坊弁慶 (玉昇)、維盛の北の方若葉の内侍(文雀)、維盛 の旧臣小金吾武里(亀松)、義経の愛妾静御前(道 行以外=簗助、道行=紋十郎)、鎌倉の使者川越太 郎重頼(栄三)、義経の家臣佐藤忠信実は源九郎狐 (栄三)、女房おりう実は典侍局(紋十郎)、渡海 屋銀平実は新中納言知盛(玉男)、いがみの権太 (勘十郎)、すしや弥左衛門(辰五郎)、娘お里 (紋十郎)、弥助実は平維盛(玉男)、梶原景時 (作十郎)、吉野山法師横川禅師覚範実は能登守平 教経(勘十郎)、義経の家臣佐藤忠信(作十郎)。
		4月13日				
△ 一九七〇	昭和45	5月10日	中之島ロイヤルホテ ル	義経千本桜	道行初音の旅(静一南部・忠信一文字・相子=道八・団二郎・清 治・勝之輔)。 ※文楽協会資料、『吉田文雀ノート』に拠る。	静御前(紋十郎)、狐忠信(栄三)。

△	一九七〇	昭和45	5月19日	ラジオ放送	義経千本桜	(小松)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(5月19日)に拠る。	
	一九七〇	昭和45	5/24~6/7	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜 通し狂言	大序 仙洞御所の段(嶋=叶太郎)、北嵯峨の段(南部=松之輔)、堀川御所の段(織=勝太郎)、三段目 椎の木の段(相子=勝之輔、相生=重造)、小金吾討死の段(呂=吉兵衛)、すしやの段(前文字=錦糸、後十九=弥七)、二段目 伏見稻荷の段(伊達路=団六)、渡海屋・大物浦の段(相子=団二郎、咲=燕三、津=寛治)、四段目 道行初音旅(静御前-越路・狐忠信-津・ツレ文字・十九・緑=徳太郎改め道八・寛治・弥七・団六・団二郎・清治)、河連法眼館の段(小松=清治、越路=喜左衛門・ツレ勝之輔、覚範-松香・義経-英=勝平)。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。 ※徳太郎改め二世鶴沢道八襲名披露。襲名披露狂言「道行初音旅」。 ※山口廣一=改修・演出。野沢松之輔=作曲(「北嵯峨の段」)。野沢喜左衛門=作曲(「河連法眼館の段」)。 ※大序 鶴沢清八の許にあった朱を使い、4月の大阪での略式の手と違う正統的な大序を聴かせる(『文楽 二十世紀後期の輝き』)。	九郎判官源義経(清十郎)、武蔵坊弁慶(玉昇)、若葉の内侍(文雀)、主馬小金吾武里(亀松)、静御前(道行以外=簗助、道行=紋十郎)、川越太郎重頼(栄三)、佐藤忠信実は源九郎狐(栄三)、女房おりう実は典侍局(紋十郎)、渡海屋銀平実は新中納言知盛(玉男)、いがみの権太(勘十郎)、すしや弥左衛門(辰五郎)、娘お里(紋十郎)、弥助実は平維盛(玉男)、梶原平三景時(作十郎)、横川禅師覚範実は能登守教経(勘十郎)、佐藤忠信(作十郎)。
	一九七〇	昭和45	8月22日	自安寺	義経千本桜	渡海屋の段(口津梅=錦弥、中津国=勝司)、道行初音旅(静御前-千歳・狐忠信-文字栄・ツレ文字登=浅造・燕太郎・燕二郎)。 ※若葉会素浄瑠璃勉強会。	
			8月23日	京都 京都府立文化芸術会館			
△	一九七〇	昭和45	12月14日	ラジオ放送	義経千本桜	渡海屋大物浦の段(津=寛治)。 ※「朝日新聞(大阪版)」「毎日新聞(大阪版)」「読売新聞(大阪版)」(12月14日)に拠る。	
	一九七一	昭和46	3/16~28	地方公演 (東海・信越・関東)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前-呂・狐忠信-伊達路・ツレ松香=錦糸・団六・勝之輔)。	静御前(簗助)、狐忠信(清十郎)。
	一九七一	昭和46	6/11~23	地方公演 (北陸・信越・関東)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前-嶋・狐忠信-呂・ツレ緑=道八・団二郎・勝之輔)。	静御前(文雀)、狐忠信(玉昇)。
	一九七一	昭和46	9月30日	兵庫 相生市民会館	義経千本桜	道行初音の旅(静御前-越路・忠信-文字・ツレ小松=喜左衛門・燕三・錦糸・勝平・団二郎)。 ※県民文化のつどい。	静御前(簗助)、狐忠信(勘十郎)。
	一九七二	昭和47	5月9日	京都 国際会館	義経千本桜	道行初音の旅(静御前-越路・忠信-文字・ツレ小松=弥七・錦糸・団二郎・清治)。 ※(社)日本電気協会第51回通常総会記念芸能。	静御前(栄三)、狐忠信(玉男)。

一九七二	昭和47	6/3~5	京都 京都府立文化芸術会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一織・狐忠信一咲・ツレ 相生・津駒＝弥七・錦糸・団二郎・清治・清友）、川連法眼館の段（小松＝道八、越路＝喜左衛門・ツレ 勝之輔、覚範一松香・義経一英＝勝平）。	九郎判官義経（玉男）、義経の愛妾静御前（簗助）、狐忠信（栄三）、吉野山法師横川禅師覚範実ハ能登守平教経（勘十郎）、義経の家臣佐藤忠信（作十郎）。
一九七二	昭和47	8/1~6	地方公演 （名古屋・関東）	義経千本桜	道行初音の旅（小松・十九・英＝錦糸・団二郎・清治）。 ※青少年芸術劇場。	静御前（栄三）、狐忠信（玉男）。
一九七二	昭和47	8/20~9/3	地方公演 （近畿・東海・関東）	義経千本桜	道行初音の旅（忠信一伊達路・静一相生・ツレ 松香＝道八・団六・清友）。	静御前（栄三）、狐忠信（玉男）。
一九七二	昭和47	12/1~4	地方公演 （和歌山・明石）	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一嶋・忠信一相生・ツレ 緑＝道八・清治・勝之輔）。	静御前（清十郎）、狐忠信（玉男）。
一九七二	昭和47	12/10~17	地方公演 （中国・九州）	義経千本桜	釣瓶すしやの段（伊達路＝団六、津＝勝太郎、十九＝吉兵衛）。	若葉の内侍（文雀）、いがみの権太（勘十郎）、親弥左衛門（辰五郎）、娘お里（亀松）、弥助実ハ平維盛（玉昇）、梶原景時（作十郎）。
一九七三	昭和48	4/25~5/6	朝日座	義経千本桜	道行初音の旅（静一嶋・忠信一呂・ツレ 松香・貴＝重造・道八・団二郎・勝之輔・勝司）。 ※アメリカ公演帰朝記念。	静御前（簗助）、狐忠信（勘十郎）。
一九七三	昭和48	6/7~17	地方公演 （関東・東北）	義経千本桜	道行初音の旅（静一南部・忠信一伊達路・ツレ 松香＝叶太郎・清治・勝之輔・清友）。 ※(財)民主音楽協会主催公演。	静御前（亀松）、狐忠信（清十郎）。
一九七三	昭和48	8	地方公演 （四国・九州・北陸）	義経千本桜	道行初音の旅（静一南部・忠信一伊達路・ツレ 松香＝道八・勝之輔・清友・新三郎）。	静御前（亀松）、狐忠信（勘十郎）。
一九七四	昭和49	5/16~18	京都 京都府立文化芸術会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一南部・忠信一咲・ツレ 英・貴・三輪＝喜左衛門・燕三・勝平・勝之輔・清友）。 ※文楽第2回渡欧歓送公演。	静御前（文雀）、狐忠信（玉昇）。
一九七四	昭和49	5/22~7/10	地方公演 （近畿・中国・九州・北陸・信越・関東・東海）	義経千本桜	道行初音の旅（静一嶋・忠信一英・ツレ 津駒・三輪／貴＝道八・勝平／勝之輔・勝司・清友）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
△ 一九七四	昭和49	7月13日	兵庫 明石市民会館	義経千本桜	道行初音旅（ツレ 緑＝勝平）。 ※富岡泰作成「竹本緑大夫舞台年表」に拠る。	
一九七四	昭和49	10/30~11/7	地方公演 （近畿・東海）	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一南部・狐忠信一十九・ツレ 松香・緑＝松之輔・団六・勝司・寛平）。 ※文化庁移動芸術祭。	静御前（清十郎）、狐忠信（玉昇）。
一九七五	昭和50	4/18~5/1	朝日座	義経千本桜	釣瓶すしやの段（南部＝吉兵衛、十九＝弥七）。	若葉の内侍（玉昇）、いがみの権太（勘十郎）、親弥左衛門（作十郎）、娘お里（亀松）、弥助実ハ平維盛（玉男）、梶原景時（小玉）。

一九七五	昭和50	8/6~9	地方公演 (九州)	義経千本桜	道行初音の旅(静-南部・忠信-伊達路・ツレ 松香・文字栄=道八・団六・寛平・清介)。 ※(財)民主音楽協会主催公演。	静御前(文雀)、狐忠信(玉昇)。
一九七五	昭和50	11/14~16	京都 京都府立文化芸術会館	義経千本桜	釣瓶すしやの段(文字=錦糸、伊達路=叶太郎)。	若葉の内侍(紋寿)、いがみの権太(勘十郎)、親弥左衛門(作十郎)、娘お里(亀松)、弥助実ハ平維盛(玉男)、梶原景時(小玉)。
一九七五	昭和50	12月22日	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音旅(呂・英・緑・津国・文字栄=団二郎・勝司・清友・寛平・浅造)。 ※文楽研修生第3回試演会。	静(紋寿)、忠信(小玉)。
一九七六	昭和51	10/15~25	地方公演 (近畿・信州・東海・岡山・四国)	義経千本桜	釣瓶すしやの段(十九=吉兵衛、津=勝太郎)。 ※文化庁移動芸術祭。	若葉の内侍(文雀)、いがみの権太(玉男)、親弥左衛門(作十郎)、娘お里(亀松)、弥助実ハ平維盛(清十郎)、梶原景時(玉松)。
△一九七七	昭和52	11月6日	京都 毎日ホール	義経千本桜	椎の木の段(津国=松也)。 ※文楽若手による素浄瑠璃の会(若葉会)第2回京都公演。 ※朝日座文楽公演プログラム(昭和53年1月)に拠る。	
一九七七	昭和52	11/9~30	地方公演 (関東・東海・信越・北陸・近畿)	義経千本桜	釣瓶すしやの段(津=吉兵衛、伊達路=団二郎)。	若葉の内侍(紋寿)、いがみの権太(玉男)、親弥左衛門(作十郎)、娘お里(文雀/簗助)、弥助実ハ平維盛(玉昇)、梶原景時(玉幸)。
一九七八	昭和53	4/9~25	朝日座	義経千本桜 通し狂言	初段 仙洞御所評議の段(文字登、津国、文字栄、南司、津駒=錦市、八介、燕太郎、浅造、松也、弥三郎)、北嵯峨草庵の段(嶋=団二郎)、堀川御所夜討の段(織=錦糸)、三段目 椎の木の段(松香=燕太郎/八介、十九=重造)、小金吾討死の段(呂=勝太郎)、釣瓶すしやの段(津=吉兵衛)、二段目 伏見稻荷鳥居前の段(相生=叶太郎)、渡海屋大物浦の段(松香=勝司/清友、咲=勝平、文字=燕三)、四段目 道行初音の旅(静御前-南部・狐忠信-伊達路・ツレ 咲・英/緑・津駒・貴/三輪=道八・団二郎・清介・松也・浅造・弥三郎)、川連法眼館の段(小松=団六、越路=清治・ツレ 清介、覚範-緑/英・義経-三輪/貴=清友/勝司)。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。 ※文楽協会創立15周年記念。 ※山口廣一=改修・演出、大塚克三=装置。野沢松之輔=作曲(「北嵯峨草庵の段」)。 ※野沢勝太郎休演のため、17日より「小金吾討死の段」を野沢勝平が代演。吉田玉昇休演のため、初段の小金吾と四段目の教経を桐竹一暢が、三段目の小金吾を吉田簗助が代演。	九郎判官源義経(玉松)、義経の家臣武蔵坊弁慶(作十郎)、維盛の北の方若葉の内侍(文昇)、維盛の旧臣小金吾武里(玉昇)、義経の愛妾静御前(簗助)、鎌倉の使者川越太郎重頼(清十郎)、佐藤忠信実は源九郎狐(勘十郎)、女房おりう実は典侍局(清十郎)、渡海屋銀平実は新中納言知盛(玉男)、いがみの権太(玉男)、すしや弥左衛門(勘十郎)、娘お里(亀松)、弥助実ハ平維盛(文雀)、梶原景時(作十郎)、吉野山法師横川禅師覚範実は能登守平教経(玉昇)、義経の家臣佐藤忠信(文雀)。
一九七八	昭和53	9月5日	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	鮎屋の段(咲=吉兵衛)。 ※花光會。素浄瑠璃。	

一九七九	昭和54	4月9日	広島 呉市民会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－南部・狐忠信－十九・ツレ 松香・緑＝錦 糸・団二郎・勝司・清友）。 ※日新製鋼株式会社発足20周年記念。	静御前（清十郎）、狐忠信（玉男）。
		4月10日	山口 徳山市民館			
一九七九	昭和54	5/12～27	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音旅（静－小松・忠信－相生・津駒・津国・文字登＝燕 三・清介・弥三郎・燕太郎・八介）、河連法眼館の段（中嶋＝団 二郎、切越路＝清治・ツレ 清介）。 ※桐竹勘十郎17日休演のため、佐藤忠信実は源九郎狐を「道行初 音旅」は吉田蓑助が、「河連法眼館の段」は吉田文雀が代演。	源義経（文昇）、静御前（清十郎）、佐藤忠信実は 源九郎狐（勘十郎）、佐藤四郎兵衛忠信（玉幸）。
一九七九	昭和54	5月28日	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音旅（津駒・貴・文字登・千歳・津梅＝清友・燕太郎・錦 弥・燕二郎・研修生）。 ※文楽若手会・第5期文楽研修生第2回試演会。	静御前（蓑太郎）、狐忠信（玉女）。
一九七九	昭和54	9/28～10/4	地方公演 （北陸・東北・関 東・近畿）	義経千本桜	道行初音の旅（静－南部・忠信－呂・ツレ 松香・英・文字登＝団 六・団二郎・清介・浅造・燕太郎）。 ※文化庁移動芸術祭。	静御前（文雀）、狐忠信（清十郎）。
一九八〇	昭和55	3/7～25	地方公演 （関東・東海・山 陽・九州）	義経千本桜	道行初音の旅（静－小松・忠信－伊達路・ツレ 津駒・南司＝団 六・勝司・清友・燕太郎）。	静御前（一暢）、狐忠信（文雀）。
一九八〇	昭和55	4/13～29	朝日座	義経千本桜	道行初音の旅（静－南部・忠信－咲・ツレ 津駒・三輪・南司・文 字登・千歳＝燕三・勝司・清介・弥三郎改め 吉之助・燕太郎・燕 二郎）。	静御前（一暢）、狐忠信（小玉）。
△ 一九八〇	昭和55	5月28日	東京 早稲田大学 大隈講堂	義経千本桜	道行初音の旅。 ※早稲田大学学生文楽教室。 ※『文楽 二十五周年を記念して－文楽協会』に拠る。	
一九八〇	昭和55	11/1～3	京都 京都府立文化芸術会 館	義経千本桜	釣瓶すしやの段（織＝団六、津＝道八）。 ※鶴沢道八休演のため、「釣瓶すしやの段」を竹沢団二郎が代演。	若葉の内侍（紋寿）、いがみの権太（玉男）、親弥 左衛門（作十郎）、娘お里（亀松）、弥助実ハ平維 盛（蓑助）、梶原景時（玉幸）。

一九八一	昭和56	5/16~31	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜 通し狂言	大序 仙洞御所の段（津梅、千歳、文字登、文字栄、南司、津国＝ 団治、燕二郎、錦弥、八介、燕太郎、吉之助、浅造）、初段 北嵯 峨の段（嶋＝勝司）、堀川御所の段（口津駒＝錦弥、奥十九＝錦 糸、後三輪＝燕二郎）、三段目 椎の木の段（口貴＝吉之助、奥 伊達路＝叶太郎）、小金吾討死の段（小松＝道八）、すしやの段 （切越路＝清治、奥文字＝勝平）、二段目 伏見稻荷の段（相生＝ 清友）、渡海屋・大物浦の段（口松香＝浅造、中呂＝清介、切津 ＝団二郎改め 団七）、四段目 道行初音旅（静御前＝南部・狐忠 信＝呂／小松・松香・津国／南司／文字栄・文字登／千歳／津梅 ＝団六・清友・浅造・八介・団治）、河連法眼館の段（中咲＝勝 司、奥織＝燕三・ツレ 燕二郎）、同 奥庭の段（英・緑＝燕太 郎）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※山田庄一＝補綴・演出。野沢松之輔＝作曲（「北嵯峨の 段」）。鶴沢燕三＝作曲（「河連法眼館奥庭の段」）。 ※鶴沢清治休演のため、「すしやの段・切」を竹沢団六が代演。	九郎判官源義経（仙洞御所＝清之助、仙洞御所以外 ＝玉松）、武蔵坊弁慶（仙洞御所＝玉也、堀川御 所・伏見稻荷・大物浦＝玉幸）、若葉の内侍（文 昇）、主馬小金吾武里（清十郎）、静御前（簗 助）、川越太郎重頼（文雀）、静御前（簗助）、佐 藤忠信実は源九郎狐（清十郎）、女房おりう実は典 侍局（文雀）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉 男）、いがみの権太（玉男）、すしや弥左衛門（作 十郎）、娘お里（簗助）、弥助実は平維盛（文 雀）、梶原平三景時（小玉）、横川禅師覚範実は能 登守教経（小玉）、佐藤忠信（作十郎）。
一九八一	昭和56	6月1日	東京 昭和女子大学人見記 念講堂	義経千本桜	道行初音の旅（静御前＝小松・狐忠信＝相生・英・津駒＝団六・ 清友・浅造・八介）。 ※文楽＝古典鑑賞のつどい。	静御前（簗助）、狐忠信（清十郎）。
一九八一	昭和56	6/26~29	京都 京都府立文化芸術会 館	義経千本桜	渡海屋・大物浦の段（松香＝吉之助、呂＝清介、津＝団二郎改メ 団七）。	九郎判官源義経（文昇）、武蔵坊弁慶（玉幸）、女 房おりう実ハ典侍局（文雀）、渡海屋銀平実ハ新中 納言知盛（玉男）。
一九八二	昭和57	9/25~10/1	地方公演 （東海・近畿）	義経千本桜	渡海屋・大物浦の段（口緑＝浅造、中伊達路＝清介、切津＝団 七）。 ※文化庁移動芸術祭。	九郎判官義経（玉松）、武蔵坊弁慶（作十郎）、女 房おりう実ハ典侍局（文雀）、渡海屋銀平実ハ新中 納言知盛（玉男）。
一九八三	昭和58	3/8~27	地方公演 （近畿・中国・九 州・中京・関東）	義経千本桜	椎の木の段（口貴＝錦弥／団治、奥嶋＝清介）、小金吾討死の段 （小金吾＝津駒・内侍＝貴・弥左衛門＝南司・六代君＋五人組＝文 字久＝浅造／弥三郎）、釣瓶すしやの段（切文字＝勝平、後伊達 路＝団六）。 ※豊松清十郎休演のため、娘お里を桐竹紋寿が、紋寿が遣う筈 だった若葉の内侍を桐竹勘寿が代演。	若葉の内侍（紋寿）、主馬野小金吾（文吾）、いが みの権太（玉男）、すしや弥左衛門（作十郎）、娘 お里（清十郎）、弥助実ハ平維盛（文雀）、梶原景 時（玉女）。
一九八三	昭和58	4/9~25	朝日座	義経千本桜	道行初音の旅（静御前＝小松・狐忠信＝咲・ツレ 緑・三輪・津 梅・南都／織美／文字久＝団六・清介・浅造・錦弥・燕二郎・団 治）。	静御前（文雀）、狐忠信（勘十郎）。
△ 一九八三	昭和58	8月13日	二ツ井戸自安寺	義経千本桜	渡海屋（中緑＝勝司）。 ※若葉会。 ※富岡泰作成「竹本緑大夫舞台年表」、『文楽』第2号に拠る。	

	一九八三	昭和58	9/29~10/2	地方公演 (北陸・中京・近畿)	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一嶋・狐忠信一咲・ツレ千歳・文字久=清友・清介・八介・清二郎)。 ※文化庁移動芸術祭。	静御前(一暢)、狐忠信(文吾)。
△	一九八三	昭和58	10月3日	尼崎 アルカイクホール	義経千本桜	道行初音の旅(静御前一嶋・狐忠信一咲・ツレ千歳・文字久=清友・清介・八介・清二郎)。 ※近松門左衛門二百六十年祭記念文楽特別公演。 ※『文楽』第2号に拠る。	静御前(一暢)、狐忠信(文吾)。
△	一九八三	昭和58	11月11日	大阪屋ホール	義経千本桜	狐忠信の段(咲=清介・燕二郎)。 ※咲大夫の会。 ※『文楽』第2号に拠る。	
	一九八四	昭和59	4/6~25	国立文楽劇場	義経千本桜	初段 堀川御所の段(口貴=清二郎、奥十九=錦糸、後津梅=団治)、二段目 伏見稲荷の段(相生=燕二郎)、渡海屋・大物浦の段(口松香=弥三郎、中咲=清介、切津=団七)、三段目 椎の木段(口千歳=八介、奥伊達路=叶太郎)、小金吾討死の段(小金吾一英・弥左衛門一緑・内侍一津駒・六代+五人組一織美=錦弥)、すしやの段(切越路=清治、後呂=勝司改め富助)、四段目 道行初音旅(静御前一南部・狐忠信一咲・津国・文字久・織美=団六・清友・浅造・団治・清二郎)、河連法眼館の段(中嶋=清介、奥織=燕三・ツレ燕二郎)。 ※国立文楽劇場開場記念公演。 ※竹沢弥三郎休演のため、「渡海屋・大物浦の段・口」を鶴沢浅造が代演。豊松清十郎7日途中より休演のため、娘お里を桐竹一暢が代演。吉田文吾23日より休演のため、主馬小金吾武里を吉田玉幸が代演。 ※13日、舞台の地下でスプリンクラーの弁のテストをしたところ、水が止まらなくなり、「小金吾討死」で公演を中止した(『上方芸能今昔がたり』に拠る)。	九郎判官源義経(玉松)、武蔵坊弁慶(玉幸)、若葉の内侍(文昇)、主馬小金吾武里(文吾)、静御前(簗助)、川越太郎重頼(作十郎)、佐藤忠信実(源九郎狐(勘十郎)、女房おりう実(典侍局(文雀)、渡海屋銀平実(中納言知盛(玉男)、いがみの権太(玉男)、すしや弥左衛門(文雀)、娘お里(清十郎)、弥助実(平維盛(簗助)、梶原平三景時(作十郎)、佐藤忠信(玉幸)。
	一九八四	昭和59	5月28日	東京 東京証券会館ホール	義経千本桜	渡海屋・大物浦の段(口津国=燕二郎、奥咲=清介)。 ※素浄瑠璃の会(一楽会)。	
	一九八四	昭和59	10/17~25	地方公演 (関東・仙台)	義経千本桜	道行初音の旅(狐忠信一十九・静御前一相生・ツレ津駒・文字久=団六・清介・浅造・団治)。	静御前(一暢)、狐忠信(玉松)。
△	一九八四	昭和59	10/26~30	地方公演 (不明)	義経千本桜	道行初音の旅(狐忠信一十九・静御前一相生・ツレ津駒・他=団六・清介・他)。 ※中学校芸術鑑賞教室。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	静御前(一暢)、狐忠信(玉松)。

△	一九八五	昭和60	3月10日	枚方市民会館	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－小松・狐忠信－相生・他＝富助・清友・他）。 ※大阪府民劇場。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	静御前（簗助）、狐忠信（文吾）。
	一九八五	昭和60	3/10～26	地方公演 （近畿・山陽・九州・関東）	義経千本桜	道行初音の旅（静御前－小松・狐忠信－相生・ツレ津国・織美＝富助・清友・八介・清二郎）。	静御前（簗助）、狐忠信（文吾）。
△	一九八五	昭和60	4/26～27	京都 京都府立文化芸術会館	（義経千本桜）	道行初音の旅（咲・他）。 ※四人の会「源平の世界」。 ※『文楽』第4号に拠る。	
	一九八五	昭和60	11月5日	国立文楽劇場	義経千本桜	四段目 道行初音の旅（忠信－津・静－住・ツレ緑・津駒・文字栄＝燕三・団七・富助・弥三郎・燕二郎）。 ※文化庁主催「上方芸能歳時記」。	忠信（玉男）、静（簗助）。
	一九八七	昭和62	7/3～19	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂・狐忠信－相生・津国・千歳・南寿＝燕三・清介・燕二郎・団治・清吾）。 ※二世桐竹勘十郎一周年忌追善狂言。	静御前（簗助）、狐忠信（簗太郎）。
	一九八八	昭和63	5/25～29	東京 ラフォーレミュージアム原宿	義経千本桜	伏見稻荷の段（英＝弥三郎）、道行初音旅（静御前－津駒・狐忠信－千歳・ツレ呂勢＝錦弥・燕二郎・団治）、河連法眼館の段（呂＝富助・ツレ団治）。 ※第2回原宿文楽。	九郎判官源義経（玉女）、静御前（文昇）、狐忠信・佐藤忠信（一暢）。
	一九八九	平成1	3/3～16	国立文楽劇場	義経千本桜	椎の木の段（口千歳＝弥三郎、奥咲＝錦弥）、小金吾討死の段（小金吾－松香・弥左衛門－津国・内侍－南都・六代+五人組－呂勢＝八介）、すしやの段（十九＝清治）。	若葉の内侍（和生）、主馬小金吾武里（玉女）、いがみの権太（玉男）、すしや弥左衛門（作十郎）、娘お里（文雀）、弥助実は平維盛（玉松）、梶原平三景時（一暢）。
	一九八九	平成1	3月17日	国立文楽劇場	義経千本桜	椎の木の段（口千歳＝弥三郎、奥咲＝錦弥）、小金吾討死の段（小金吾－松香・弥左衛門－津国・内侍－南都・六代君+五人組－呂勢＝八介）。 ※第12期文楽研修修了発表会、第13期文楽研修生発表会、文楽既成者研修発表会。 ※豊竹咲太夫＝講師出演。	主馬の小金吾（亀次）、いがみの権太（玉志）、すしや弥左衛門（玉也）。
△	一九八九	平成1	9月27日	横浜 横浜教育文化ホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前－嶋・狐忠信－津国・千歳＝清介・燕二郎・清太郎）。 ※横浜文楽同好会主催「文楽人形の美をさぐる」。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	静御前（簗助）、狐忠信（簗太郎）。
	一九八九	平成1	12/7～19	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－小松・狐忠信－松香・貴・津梅・南都＝燕二郎・浅造・清太郎・団吾・喜一朗）、河連法眼館の段（中英＝八介、奥咲＝錦弥・ツレ清二郎）。 ※鶴沢八介休演のため、「河連法眼館の段・中」を鶴沢清二郎が代演。	九郎判官源義経（玉女）、静御前（一暢）、佐藤忠信実は源九郎狐（玉松）、佐藤忠信（玉輝）。

	一九九〇	平成2	4/6~24	国立文楽劇場	義経千本桜	伏見稻荷の段（松香＝燕二郎）、渡海屋・大物浦の段（口南都＝団治、中咲＝錦弥、切住＝富助）、道行初音旅（静御前一嶋・狐忠信＝英・三輪・津国・文字久＝喜左衛門・清友・弥三郎・清太郎・喜一郎）、河連法眼館の段（中呂＝清介、奥十九＝清治・ツレ清二郎）。 ※鶴沢清治11～12日休演のため、「河連法眼館の段・奥」を鶴沢清介が代演。	九郎判官義経（玉松）、武蔵坊弁慶（玉幸）、静御前（文昇）、佐藤忠信実は源九郎狐（文雀）、女房おりう実は典侍局（簗助）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉男）、佐藤忠信（紋寿）。
△	一九九〇	平成2	8月31日	国際花と緑の博覧会 会場内大阪府パビリオン いちよう館好きやねん広場	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一嶋・狐忠信＝千歳・津国＝清介・燕二郎・清太郎）。 ※国際花と緑の博覧会文楽特別公演。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	静御前（簗太郎）、狐忠信（玉女）。
	一九九一	平成3	2月28日	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一津駒・狐忠信＝文字久・ツレ文字栄＝燕二郎・清二郎・団吾・団市）。 ※第14期文楽研修生発表会、文楽既成者研修発表会。	静御前（前＝玉英、後＝勘弥）、狐忠信（前＝文司、後＝亀次）。
	一九九一	平成3	3/1~25	地方公演 （近畿・東海・関東・中京・中国・九州）	義経千本桜	道行初音の旅（静御前一津駒・狐忠信＝文字久・ツレ文字栄＝燕二郎・清二郎・団吾・団市）。	静御前（紋寿／一暢）、狐忠信（文吾）。
△	一九九一	平成3	3月26日	阪南町サラダホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前一津駒・他＝燕二郎・他）。 ※大阪府民劇場。 ※国立文楽劇場第40回文楽公演解説書（平成3年4月）に拠る。	静御前（一暢）、狐忠信（文吾）。
	一九九一	平成3	9/5~23	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜 通し狂言	大序 仙洞御所の段（呂勢、文字栄、文字久、南都＝団市、喜一郎、団吾、清太郎）、北嵯峨の段（貴／三輪＝弥三郎）、堀川御所の段（奥嶋＝富助、後津梅＝浅造）、二段目 伏見稻荷の段（相生＝清二郎）、渡海屋・大物浦の段（口千歳＝団治、中呂＝清友、奥十九＝清治）、三段目 椎の木（口文字久＝清太郎、奥咲＝団七）、小金吾討死の段（英／緑＝燕二郎）、すしやの段（切住＝燕三、後伊達＝喜左衛門）、四段目 道行初音旅（静御前一小松・狐忠信＝松香・緑／英・三輪／貴・南都＝清介・燕二郎・清二郎・喜一郎・団吾）、河連法眼館の段（中津駒＝錦弥、奥織＝団六・ツレ団治、後津国＝八介）。 ※国立劇場開場25周年記念。 ※野沢松之輔＝作曲（「北嵯峨の段」）。野沢喜左衛門＝作曲（「河連法眼館の段・後」）。 ※豊竹小松太夫休演のため、「道行初音旅」の静御前を豊竹嶋太夫が代演。竹沢団六休演のため、「河連法眼館の段・奥」を鶴澤清介が代演。	九郎判官源義経（文昇）、武蔵坊弁慶（玉幸）、若葉の内侍（紋寿）、主馬小金吾武里（玉松）、静御前（簗助）、川越太郎重頼（文吾）、佐藤忠信実は源九郎狐（文雀）、女房おりう実は典侍局（文雀）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉男）、いがみの権太（玉男）、すしや弥左衛門（作十郎）、娘おり（簗助）、弥助実は平維盛（一暢）、梶原平三景時（文吾）、横川覚範実は平教経（玉幸）、佐藤忠信（簗太郎）。

△	一九九二	平成4	4/28~29	近鉄アート館	碓 知 盛 一義経千本桜 渡海屋・大物浦 の段よりー	(口 呂勢=弥三郎、中 英=清二郎、奥 呂=錦弥)。 ※第6回原宿文楽大阪公演。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	九郎判官源義経(清之助)、武蔵坊弁慶(玉也)、 女房おりう実は典侍局(簗太郎)、渡海屋銀平実は 新中納言知盛(玉女)。
△	一九九二	平成4	5/26~28	東京 ラフォーレミュージ アム原宿	碓 知 盛 一義経千本桜 渡海屋・大物浦 の段よりー	(口 呂勢=弥三郎、中 英=清二郎、奥 呂=錦弥)。 ※第6回原宿文楽。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	九郎判官源義経(清之助)、武蔵坊弁慶(玉也)、 女房おりう実は典侍局(簗太郎)、渡海屋銀平実は 新中納言知盛(玉女)。
	一九九二	平成4	11月27日	国立文楽劇場 小ホール	義 経 千 本 桜	渡海屋の段・幽霊(南都=団吾)。 ※第11回若手向上素浄瑠璃の会。	
	一九九四	平成6	3/4~5	ニュージーランド	義 経 千 本 桜	道行初音の旅(静御前一嶋・狐忠信一緑・ツレ 文字久・始=団 七・清友・弥三郎・清二郎)。 ※ニュージーランド国際芸術祭。	静御前(紋寿)、狐忠信(文吾)。
△	一九九四	平成6	3/9~13	アデレード	義 経 千 本 桜	道行初音の旅(静御前一嶋・狐忠信一緑・ツレ 文字久・始=団 七・清友・弥三郎・清二郎)。 ※アデレード芸術祭文楽公演。 ※『国立文楽劇場十年史』に拠る。	静御前(紋寿)、狐忠信(文吾)。
△	一九九四	平成6	3月15日	国際交流基金シド ニー文化センター多 目的ホール	義 経 千 本 桜	道行初音の旅(静御前一嶋・狐忠信一緑・他=団七・清友・弥三 郎・他)。 ※国立文楽劇場第54回文楽公演解説書(平成6年4月)、『国立文 楽劇場十年史』に拠る。	静御前(紋寿)、狐忠信(文吾)。
△	一九九四	平成6	6月11日	大阪市役所玄関ホー ル	義 経 千 本 桜	川連法眼館の段(咲=錦弥・ツレ 清二郎)。 ※シティホールフェスティバル。 ※上演資料集<383>に拠る。	九郎判官義経(文司)、静御前(清之助)、狐忠信 (簗太郎)。
△	一九九四	平成6	8/28~29	長野 北野文芸座	義 経 千 本 桜	道行初音旅(静御前一嶋・狐忠信一緑・他=団六・弥三郎・ 他)、川連法眼館の段(咲=錦弥・他)。 ※善光寺公演。 ※国立文楽劇場第58回文楽公演解説書(平成7年4月)に拠る。	九郎判官義経(玉女)、静御前(簗助)、狐忠信 (簗太郎)。
	一九九五	平成7	4/1~23	国立文楽劇場	義 経 千 本 桜	伏見稻荷の段(英/緑=団治改め 宗助)、渡海屋・大物浦の段 (口 文字久=喜一郎//呂勢=団吾、中 伊達=清友、切 住=燕 三)、道行初音旅(静御前一呂・狐忠信一英・貴・呂勢・始=団 六・弥三郎・清太郎・団市・清志郎)、河連法眼館の段(中 津駒 =錦弥、切 嶋=富助・ツレ 清太郎)。	九郎判官義経(玉松)、武蔵坊弁慶(玉幸/文 吾)、静御前(簗助)、佐藤忠信実は源九郎狐(文 昇/紋寿)、女房おりう実は典侍局(文雀)、渡海 屋銀平実は中納言知盛(玉男)、佐藤忠信(和 生)。
△	一九九五	平成7	8月25日	国立文楽劇場 小ホール	義 経 千 本 桜	知盛幽霊の段(新=団吾)。 ※若手素浄瑠璃の会。 ※国立文楽劇場第62回文楽公演解説書(平成8年4月)に拠る。	

△	一九九五	平成7	9/30～10/20	地方公演 (四国・近畿・中 京・関東・東北・北 海道)	義経千本桜	道行初音旅(狐忠信-緑・静御前-千歳・他=団七・弥三郎・ 他)。 ※9月30日～10月1日愛媛・内子座文楽第1回公演も含む。 ※国立文楽劇場第62回文楽公演解説書(平成8年4月)に拠る。	静御前(紋寿)、狐忠信(玉女)。
△	一九九六	平成8	3/3～27	地方公演 (九州・中国・近 畿・東海・関東・中 部・北陸)	義経千本桜	道行初音旅(静御前-津駒・狐忠信-英・ツレ 呂勢=清友・八 介・団吾・団市)。 ※国立文楽劇場第62回文楽公演解説書(平成8年4月)に拠る。	静御前(文昇)、狐忠信(玉幸)。
	一九九六	平成8	5/11～26	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音旅(静御前-咲・狐忠信-英・ツレ 貴・始・咲甫=団 七・弥三郎・喜一郎・団吾・団市)。	静御前(紋寿)、狐忠信(一暢)。
	一九九六	平成8	6/28～30	京都 南 座	義経千本桜	道行初音旅(静御前-呂・狐忠信-津駒・ツレ 津国/南都・文字 久/呂勢/文字栄=清治・八介・喜一郎・清志郎)、河連法眼館 の段(中英=清友、切 織改め 綱=清二郎・ツレ 清太郎)。 ※織大夫改め九代竹本綱大夫襲名披露。	九郎判官義経(玉男)、静御前(道行=文雀、河連 館=和生)、狐忠信(道行=簗助、河連館=簗太 郎)、佐藤忠信(簗二郎)。
△	一九九六	平成8	12/19～20	ドーンセンター	義経千本桜	椎の木の段(三輪=弥三郎)、小金吾討死の段(呂勢=宗助)、 すしやの段(相生=団七)。 ※第4回十色会。 ※国立文楽劇場第66回文楽公演解説書(平成9年4月)に拠る。	若葉内侍(紋若)、主馬小金吾武里(玉佳/勘 市)、いがみの権太(文司/幸助)、すしや弥左衛 門(勘緑)、娘お里(一輔/清五郎)、弥助実は平 維盛(亀次/勘弥)、梶原平三景時(玉勢/文 哉)。
	一九九七	平成9	4/5～27	国立文楽劇場	義経千本桜 通し狂言	初段 仙洞御所の段(咲甫、始、新、呂勢=清志郎、団市、喜一 朗、団吾)、北嵯峨の段(千歳=宗助)、堀川御所の段(奥 伊達 =清治、後 文字久=団吾)、二段目 伏見稻荷の段(津駒=弥三 郎)、渡海屋・大物浦の段(口 三輪=八介、中 咲=団七、切 綱= 清二郎)、三段目 椎の木の段(口 呂勢=清太郎、奥 小松=燕二 郎)、小金吾討死の段(相生=喜左衛門)、すしやの段(切 住= 錦弥、切 十九=清介)、四段目 道行初音旅(静御前-呂・狐忠 信-松香・緑/英・南都・文字栄=富助・宗助・清二郎・清太 郎・清志郎)、河連法眼館の段(中英/緑=清友、切 嶋=団六・ ツレ 団市、後 覚範-貴・義経-津国=喜一郎)。 ※角書「大物船矢倉/吉野花矢倉」。 ※野沢松之輔=作曲(「北嵯峨の段」)。野沢喜左衛門=作曲 (「河連法眼館の段・後」)。 ※竹本緑太夫休演のため、「道行初音旅」の5～15日、「川連法眼 館の段・中」の17～27日を、豊竹英太夫が代演。	九郎判官源義経(文昇)、武蔵坊弁慶(簗太郎/玉 女)、若葉の内侍(紋寿)、主馬小金吾武里(一 暢)、静御前(簗助)、川越太郎重頼(作十郎)、 忠信実は源九郎狐(文吾)、女房おりう実は典侍局 (文雀)、渡海屋銀平実は中納言知盛(玉男)、い がみの権太(玉幸)、すしや弥左衛門(文雀)、娘 お里(簗助)、弥助実は平維盛(玉男)、梶原平三 景時(玉也)、横川覚範実は平教経(玉女/簗太 郎)、佐藤忠信(玉松)。

	一九九七	平成9	5/10~25	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜 通し狂言	初段 仙洞御所の段（咲甫、始、新、呂勢＝清志郎、団市、喜一郎、団吾）、北嵯峨の段（千歳＝宗助）、堀川御所の段（奥伊達＝清治、後文字久＝団吾）、二段目 伏見稻荷の段（津駒＝弥三郎）、渡海屋・大物浦の段（口三輪＝八介、中咲＝団七、切綱＝清二郎）、三段目 椎の木の段（口呂勢＝清太郎、奥小松＝燕二郎）、小金吾討死の段（相生＝喜左衛門）、すしやの段（切住＝錦弥、切十九＝清介）、四段目 道行初音旅（静御前一呂・狐忠信＝松香・緑／英・南都・文字栄＝富助・宗助・清二郎・清太郎・清志郎）、河連法眼館の段（中栄／緑＝清友、切嶋＝団六・ツレ 団市、後 覚範一貴・義経＝津国＝喜一郎）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※野沢松之輔＝作曲（「北嵯峨の段」）。野沢喜左衛門＝作曲（「河連法眼館の段・後」）。 ※竹本緑太夫休演のため、「道行初音旅」の10～17日、「河連法眼館の段・中」の18～25日を豊竹英太夫が代演。竹沢団六休演のため、「河連法眼館の段・切」を豊沢富助が代演。	九郎判官源義経（文昇）、武蔵坊弁慶（簗太郎／玉女）、若葉の内侍（紋寿）、主馬小金吾武里（一暢）、静御前（簗助）、川越太郎重頼（作十郎）、忠信実は源九郎狐（文吾）、女房おりう実は典侍局（文雀）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉男）、いがみの権太（玉幸）、すしや弥左衛門（文雀）、娘お里（簗助）、弥助実は平維盛（玉男）、梶原平三景時（玉也）、横川覚範実は平教経（玉女／簗太郎）、佐藤忠信（玉松）。
△	一九九七	平成9	9月22日	東京 鍬仙会能楽研修所	義経千本桜	渡海屋の段－幽霊－（咲甫＝団吾）。 ※第2回七歩会東京公演。 ※国立文楽劇場第70回文楽公演解説書（平成10年4月）に拠る。	
△	一九九七	平成9	10/13~23	パリ市立劇場（テアトル・ド・ラ・ヴィル）	義経千本桜	道行初音旅（静御前一十九・狐忠信＝千歳・他＝清治・燕二郎・他）。 ※パリ公演。 ※国立文楽劇場第70回文楽公演解説書（平成10年4月）に拠る。	静御前（一暢）、狐忠信（簗太郎／玉女）。
△	一九九七	平成9	11月29日	国立文楽劇場 小ホール	義経千本桜	渡海屋の段－幽霊－（咲甫＝団吾）。 ※第2回七歩会大阪公演。 ※国立文楽劇場第70回文楽公演解説書（平成10年4月）に拠る。	
△	一九九八	平成10	2/28~3/1	ドーンセンター	義経千本桜	道行初音旅（呂勢・始・咲甫＝清二郎・清太郎・喜一郎・清志郎）。 ※第5回十色会。 ※国立文楽劇場第70回文楽公演解説書（平成10年4月）に拠る。	静御前（一輔／清五郎）、忠信（玉佳／幸助）。
△	一九九八	平成10	春	大阪国際交流センター小ホール	（義経千本桜）	すしや（英＝燕二郎）。 ※第1回英大夫の会。 ※『文楽・六代豊竹呂太夫 五感のかなたへ』に拠る。	
△	一九九八	平成10	春	東京 紀尾井ホール	（義経千本桜）	すしや（英＝燕二郎）。 ※第1回英大夫の会。 ※『文楽・六代豊竹呂太夫 五感のかなたへ』に拠る。	
	二〇〇〇	平成12	9/30~10/15	地方公演 （近畿・中京・東海・関東）	義経千本桜	釣瓶すしやの段（切十九＝清治、後伊達＝清友）。	若葉の内侍（亀次）、いがみの権太（文吾）、親弥左衛門（一暢）、娘お里（文雀）、弥助実ハ平維盛（和生）、梶原景時（玉志）。

△	二〇〇〇	平成12	10/17~19	地方公演 (近畿)	義経千本桜	釣瓶すしやの段(切十九=清治、後伊達=清友)。 ※文化庁移動芸術祭。 ※国立文楽劇場第82回文楽公演解説書(平成13年4月)に拠る。	若葉の内侍(亀次)、いがみの権太(文吾)、親弥左衛門(一暢)、娘お里(文雀)、弥助実ハ平維盛(和生)、梶原景時(玉志)。
	二〇〇〇	平成12	10月28日	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	河連法眼館の段(咲=燕二郎・ツレ清志郎)。 ※第12回文楽素浄瑠璃の会(第113回邦楽公演)。文化財保護法50年記念。 ※豊竹呂太夫急逝のため豊竹咲太夫に変更。	
△	二〇〇〇	平成12	12/22~23	近鉄アート館	義経千本桜	道行初音旅(津駒・咲甫・つばさ=清二郎・喜一郎・団吾・清丈)、河連法眼館の段(津駒=清介・喜一郎)。 ※ミレニアム文楽。 ※国立文楽劇場第82回文楽公演解説書(平成13年4月)に拠る。	源義経(玉女)、静(道行=簗太郎、河連館=勘弥)、忠信実は減九郎狐(道行=玉女、河連館=簗太郎)。
	二〇〇一	平成13	2/27~3/15	地方公演 (山陽・九州・東海・関東・北陸)	義経千本桜	釣瓶すしやの段(切嶋=富助、後英=錦糸)。	若葉の内侍(清之助)、いがみの権太(簗太郎)、親弥左衛門(玉幸)、娘お里(文雀)、弥助実ハ平維盛(和生)、梶原景時(幸助)。
	二〇〇一	平成13	4/7~29	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅(静御前-津駒・狐忠信-三輪・ツレ呂勢・新・睦=清友・弥三郎・団吾・清丈・寛太郎)。	静御前(簗太郎)、狐忠信(玉女)。
	二〇〇一	平成13	6/24~25	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅(静御前-南都・狐忠信-新・ツレ呂勢・相子・つばさ=団吾・清丈・喜一郎・清志郎・寛太郎)。 ※第1回文楽若手会(文楽劇場)。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	静御前(清三郎)、狐忠信(勘緑)。
△	二〇〇一	平成13	12/22~23	京阪百貨店ギャラリー	義経千本桜	道行(千歳=燕二郎)。 ※京阪文楽。 ※『演劇界』(平成14年3月号)に拠る。	(紋寿)。
△	二〇〇二	平成14	9月3日	東京 サントリーホール	義経千本桜	二段目 渡海屋・幽霊の段(咲甫=清志郎)。 ※旬翔けるin Suntory Hall。 ※チラシに拠る。	
△	二〇〇三	平成15	6月11日	HEP HALL	(義経千本桜)	河連法眼館の段(英=清友)。 ※「上方の芸 落語と文楽のあやしい関係Ⅲ」。 ※『演劇界』(平成15年9月号)に拠る。	
△	二〇〇三	平成15	6月20日	東京 紀尾井ホール	義経千本桜	河連法眼館の段(千歳=清治・ツレ清志郎)。 ※紀尾井ホール主催公演日本の伝統音楽シリーズ。	
	二〇〇三	平成15	7月3日	国立文楽劇場小ホール	義経千本桜	二段目 渡海屋の段(咲甫=清志郎、咲=燕二郎)。	
			7月4日	ル		三段目 釣瓶寿し屋の段(咲=富助)。	
			7月5日			四段目 道行初音旅(静-南都・忠信-咲甫・つばさ・咲寿=富助・清志郎・龍串・龍爾)、川連法眼館の段(咲=燕二郎・清志郎)。 ※舞台生活五十周年記念、豊竹咲大夫の会。	

二〇〇三	平成15	9/6~21	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜 通し狂言	初段 仙洞御所の段（芳穂、相子、睦、つばさ＝龍爾、龍聿、清丈、清尙）、北嵯峨の段（文字久＝清太郎）、堀川御所の段（切嶋＝清介、後新＝清志郎）、二段目 伏見稻荷の段（松香＝宗助）、渡海屋・大物浦の段（口 呂勢＝喜一朗、中 千歳＝燕二郎、切 十九＝富助）、三段目 椎の木の段（口 始＝団吾、奥 伊達＝団七）、小金吾討死の段（小金吾＝三輪・弥左衛門＝文字栄・内侍＝咲甫・六代+五人組＝つばさ＝喜左衛門）、すしやの段（切住＝錦糸、奥 咲＝清治）、四段目 道行初音旅（静御前＝英・狐忠信＝文字久・南都・相子・睦＝寛治・弥三郎・龍聿・清丈・龍爾）、河連法眼館の段（中 津駒＝清友、切 綱＝清二郎・ツレ 清丈、後 義経一貴・覚範＝津国＝清尙）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※野沢松之輔＝作曲（「北嵯峨の段」）、野沢喜左衛門＝作曲（「河連法眼館の段・後」）。 ※竹本文字久太夫休演のため、「北嵯峨の段」を豊竹呂勢太夫が、「道行初音旅」狐忠信を竹本千歳太夫が代演。鶴沢清太郎休演のため、「北嵯峨の段」を鶴沢清志郎が代演。吉田玉幸休演のため、佐藤忠信を吉田玉輝が代演。	九郎判官源義経（和生）、武蔵坊弁慶（文司）、若葉の内侍（清之助）、主馬小金吾武里（玉女）、川越太郎重頼（玉女）、静御前（紋寿）、忠信実は源九郎狐（文吾）、女房おりう実は典侍局（文雀）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉男）、いがみの権太（簗助）、すしや弥左衛門（玉也）、娘お里（勘十郎）、弥助実は平維盛（文吾）、梶原平三景時（玉輝）、横川覚範実は平教経（玉志）、佐藤忠信（玉幸）。
△ 二〇〇四	平成16	2月24日	東京 京王プラザホテル5F エミネンスホール	義経千本桜	四段目 道行初音旅（津駒・他＝宗助・他）。 ※ぷらざ文化フォーラムスペシャル。 ※チラシに拠る。	（勘十郎）、（玉女）。
二〇〇四	平成16	4/3~25	国立文楽劇場	義経千本桜 通し狂言	初段 仙洞御所の段（呂茂、芳穂、睦、つばさ、相子＝寛太郎、龍爾、龍聿、清丈、清尙）、堀川御所の段（切嶋＝清介、アト 始＝清志郎）、二段目 伏見稻荷の段（呂勢＝宗助）、渡海屋・大物浦の段（口 三輪＝団吾、中 十九＝富助、切 綱＝清二郎）、三段目 椎の木の段（口 津国＝喜一朗、奥 千歳＝清治）、小金吾討死の段（小金吾＝松香・弥左衛門＝貴・内侍＝南都・六代+五人組＝新＝喜左衛門）、すしやの段（切住＝錦糸、奥 伊達＝清友）、四段目 道行初音旅（静御前＝津駒・狐忠信＝文字久・咲甫・睦・相子・文字栄＝寛治・弥三郎・清志郎・清尙・清丈・龍爾）、河連法眼館の段（中 英＝団七、奥 咲＝燕二郎・ツレ 龍聿）。 ※角書「大物船矢倉／吉野花矢倉」。 ※国立文楽劇場開場20周年特別記念公演。 ※竹沢弥三郎8～11日休演。	九郎判官源義経（和生）、武蔵坊弁慶（文司／亀次）、若葉の内侍（清之助）、主馬小金吾武里（玉女）、静御前（勘十郎）、川越太郎重頼（文吾）、忠信実は源九郎狐（文吾）、女房おりう実は典侍局（文雀）、渡海屋銀平実は中納言知盛（渡海屋＝玉女、大物浦＝玉男）、いがみの権太（簗助）、すしや弥左衛門（玉也）、娘お里（紋寿）、弥助実は平維盛（玉男）、梶原平三景時（玉輝）、佐藤忠信（勘弥／清三郎）。

二〇〇四	平成16	6/26~27	国立文楽劇場	義経千本桜	三段目 椎の木の段（口 睦＝龍聿、奥 始／咲甫＝団吾）、小金吾討死の段（小金吾－つばさ・弥左衛門－相子・内侍－芳穂・六代+五人組－呂茂＝清旭）、すしやの段（前 呂勢＝喜一郎、後 新＝清志郎）。 ※第4回文楽若手会（文楽劇場）。文楽既成者研修発表会。 ※国立文楽劇場開場20周年記念。	若葉の内侍（清五郎／和右）、主馬小金吾武里（玉志）、いがみの権太（文司）、すしや弥左衛門（勘緑）、娘お里（簗二郎）、弥助実は平維盛（勘弥）、梶原平三景時（玉佳）。
二〇〇四	平成16	8/27~29	愛媛 内子座	義経千本桜	道行初音旅（静御前－千歳・狐忠信－文字久・ツレ 咲甫＝清治・清志郎・清旭・清丈）。 ※第8回内子座文楽。	静御前（和生）、狐忠信（勘十郎）。
二〇〇四	平成16	10/2~21	地方公演 （関東・東北・北陸・東海・中国）	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－文字久・ツレ 咲甫・つばさ＝清治・清志郎・清旭・清丈）。	静御前（和生）、狐忠信（玉女）。
二〇〇五	平成17	1月27日	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（狐忠信－新・静御前－咲甫・ツレ 睦・つばさ＝燕二郎・宗助・喜一郎・龍爾・寛太郎）。 ※第21期文楽研修生発表会。	静御前（簗二郎）、狐忠信（文司）。
二〇〇五	平成17	3/5~24	地方公演 （中国・九州・近畿・関東・北陸）	義経千本桜	道行初音旅（静御前－津駒・狐忠信－千歳・ツレ 睦・相子＝寛治・弥三郎・龍聿・清丈）。	静御前（紋寿）、狐忠信（勘十郎）。
二〇〇五	平成17	12/22~23	福岡 博多座	義経千本桜	道行初音旅（静御前－千歳・狐忠信－呂勢・ツレ 睦・芳穂・靖＝清治・清志郎・清旭・清丈・龍聿）。	静御前（和生）、狐忠信（玉女）。
二〇〇六	平成18	5月1日	四天王寺五重の塔前 広場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・佐藤忠信実は源九郎狐－咲甫・ツレ 睦＝清介・ツレ 清司郎・清丈・龍聿）。	静御前（勘十郎）、佐藤忠信実は源九郎狐（玉女）。
二〇〇六	平成18	5/12~28	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	椎の木の段（口 津国＝龍聿、奥 伊達＝喜左衛門）、小金吾討死の段（千歳＝清治）、すしやの段（切 住＝錦糸、切 十九＝富助）。 ※野沢喜左衛門休演のため、「椎の木の段・奥」を竹沢宗助が代演。	若葉の内侍（清之助）、主馬小金吾武里（勘十郎）、いがみの権太（玉女）、すしや弥左衛門（玉也）、娘お里（紋寿）、弥助実は平維盛（和生）、梶原平三景時（文司）。
△ 二〇〇六	平成18	5月31日	京都 けいはんなプラザメ インホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前－津駒・狐忠信－文字久・ツレ 睦＝寛治・弥三郎・喜一郎・寛太郎）。 ※けいはんな日本文化デー。 ※チラシに拠る。	静御前（清之助）、狐忠信（玉女）。
二〇〇六	平成18	12/5~17	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	初段 堀川御所の段（口 始＝団吾、奥 文字久／呂勢＝燕三、後 芳穂＝龍爾）、二段目 伏見稻荷の段（松香＝喜一郎）、渡海屋・大物浦の段（口 咲甫／新＝清志郎、中 新／咲甫＝清二郎、奥 千歳＝清介）。 ※国立劇場開場40周年記念。	九郎判官源義経（玉也）、武蔵坊弁慶（勘緑／玉志）、静御前（勘弥）、川越太郎重頼（勘十郎）、佐藤忠信実は源九郎狐（簗二郎）、女房おりう実は典侍局（和生）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉女）。

二〇〇七	平成19	2/2~3	NHK大阪ホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前—津駒・狐忠信—新・ツレつばさ・靖=寛治・団七・団吾・寛太郎）、川連法眼館の段（中文字久=清志郎、奥咲=燕三・ツレ龍聿）。 ※平成18年度 おおさか・元気・文楽。	九郎判官義経（清之助）、静御前（和生）、狐忠信（勘十郎）、佐藤忠信（勘弥）。
二〇〇七	平成19	6/23~24	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前—つばさ・狐忠信—睦・呂茂／芳穂・希・靖=清旭・龍聿・清丈・龍爾・寛太郎・清公）。 ※第7回文楽若手会（文楽劇場）。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	静御前（玉英）、狐忠信（清五郎）。
二〇〇七	平成19	10/5~22	地方公演 （東海・上越・関東・北海道・東北）	義経千本桜	道行初音旅（静御前—咲甫・狐忠信—新・ツレつばさ・南都=宗助・清志郎・清旭・寛太郎）。	静御前（一輔）、狐忠信（幸助）。
二〇〇八	平成20	2/8~24	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	伏見稻荷の段（松香=喜一郎）、道行初音旅（静御前—呂勢・狐忠信—咲甫・相子・つばさ・靖・清治・清志郎・清丈・龍爾・清公）、河連法眼館の段（中津駒=寛治、奥咲=燕三・ツレ寛太郎）。	九郎判官源義経（文司）、武蔵坊弁慶（勘市）、静御前（和生）、忠信実は源九郎狐（勘十郎）、佐藤忠信（玉志）。
二〇〇八	平成20	2月28日	国立文楽劇場 小ホール	義経千本桜	河連法眼館の段（咲甫=清介・ツレ清公）。 ※賛助出演 鶴沢清介。 ※第3回義太夫節に親しむ会。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。	
二〇〇八	平成20	3/2~23	地方公演 （中国・九州・近畿・東海・関東・北陸）	義経千本桜	道行初音旅（静御前—文字久・狐忠信—咲甫・ツレ相子・文字栄=清二郎・清丈・龍爾・清公）。	静御前（清三郎）、狐忠信（清五郎）。
二〇〇八	平成20	5月31日	岐阜 相生座	義経千本桜	道行初音旅（呂勢・千歳・睦・芳穂=燕三・宗助・清志郎・清旭）。 ※第1回相生座文楽。	静御前（清之助）、狐忠信（勘十郎）。
二〇〇八	平成20	7月6日	河内長野 ラプリーホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前—呂勢・狐忠信—咲甫・ツレ睦・靖=清介・清丈・龍爾・清公）。	静御前（一暢）、狐忠信（幸助）。
二〇〇八	平成20	10月25日	大阪市中央公会堂	義経千本桜	道行初音旅（静御前—呂勢・狐忠信—咲甫・ツレつばさ=清介・清丈・清公）、河連法眼館の段（咲=燕三・ツレ清丈）。 ※大阪国際人形劇フェスティバル2008。	九郎判官源義経（玉志）、静御前（清之助改め清十郎）、忠信実は源九郎狐（勘十郎）。
二〇〇九	平成21	1月28日	八尾プリズムホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前—呂勢・狐忠信—文字久・ツレつばさ=清介・清志郎・清丈・清公）、河連法眼館の段（咲=燕三・ツレ清丈）。 ※平成20年度 おおさか・元気・文楽。 ※竹本文字久太夫休演のため、「道行初音旅」狐忠信を豊竹咲甫太夫が代演。	九郎判官源義経（玉志）、静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。

二〇〇九	平成21	1/30～31	NHK大阪ホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－文字久・ツレつばさ＝清介・清志郎・清丈・清公）、河連法眼館の段（咲＝燕三・ツレ清丈）。	九郎判官源義経（玉志）、静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。	
		1/30～31			道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－文字久・ツレつばさ＝清介・清志郎・清丈・清公）。 ※平成20年度 おおさか・元気・文楽。 ※30日昼「道行初音旅」「河連法眼館の段」、30日夜・31日「道行初音旅」。 ※竹本文字久太夫休演のため、「道行初音旅」狐忠信を豊竹咲甫太夫が代演。	静御前（清三郎）、狐忠信（幸助）。	
二〇〇九	平成21	3月7日	大阪ヴィアール座	義経千本桜	道行初音旅（静御前－咲甫・狐忠信－芳穂・ツレ靖＝清介・清丈・清公）。	静御前（簗二郎）、狐忠信（勘十郎）。	
二〇〇九	平成21	4/4～26	国立文楽劇場	義経千本桜 通し狂言	初段 堀川御所の段（英＝清介、アト 相子＝清尙）、二段目 伏見稻荷の段（三輪＝喜一朗）、渡海屋・大物浦の段（口始＝清志郎、中 咲甫＝宗助、切 咲＝燕三）、三段目 椎の木の段（口津国＝団吾、奥 松香＝団七）、小金吾討死の段（小金吾－三輪・弥左衛門－文字栄・内侍－つばさ・六代+五人組－呂茂＝清友）、すしやの段（切住＝錦糸、奥 千歳＝清二郎）、四段目 道行初音旅（静御前－津駒・狐忠信－文字久・ツレ睦・靖・咲寿＝寛治・清志郎・清丈・寛太郎・清公）、河連法眼館の段（中 呂勢＝宗助、切 嶋＝富助・ツレ 龍爾）。 ※国立文楽劇場開場25周年記念。 ※豊竹松香太夫休演のため、「椎の木の段・奥」を豊竹英太夫が代演。	九郎判官源義経（勘弥）、武蔵坊弁慶（勘緑／玉志）、若葉の内侍（清三郎／清五郎）、主馬小金吾武里（幸助）、静御前（堀川御所・伏見稻荷＝簗二郎、道行＝簗助、河連法眼館＝清十郎）、川越太郎重頼（文司）、忠信実は源九郎狐（勘十郎）、女房おりう実は典侍局（文雀）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉女）、いがみの権太（玉也）、すしや弥左衛門（和生）、娘お里（簗助）、弥助実は平維盛（紋寿）、梶原平三景時（玉輝）、佐藤忠信（亀次）。	
二〇〇九	平成21	5月1日	山本能楽堂	義経千本桜	河連法眼館より狐忠信の段。 ※出演は、豊竹咲甫太夫、竹沢宗助、吉田玉女、他。 ※忠信三変化（能・文楽・落語）。	（不明）	
二〇〇九	平成21	12/21～23	福岡博多座	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－英・ツレつばさ・芳穂・靖・希＝清治・清志郎・清尙・清丈・寛太郎・錦吾）、河連法眼館の段（中 咲甫＝清二郎、切 咲＝燕三・ツレ清尙）。 ※博多座開場10周年記念。	九郎判官源義経（玉志）、静御前（簗助）、佐藤忠信実は源九郎狐（勘十郎）、佐藤忠信（簗一郎）。	
△	二〇一〇	平成22	2月23日	東京日経ホール	義経千本桜	※「KANJURO人形の世界」。 ※『演劇界』（平成22年3月号）に拠る。	
△	二〇一〇	平成22	6月30日	上海万博会場	（義経千本桜）	道行初音旅。 ※国立文楽劇場第119回文楽公演解説書（平成22年7月）に拠る。	
	二〇一〇	平成22	7月3日	東京国立劇場小劇場	義経千本桜	河連法眼館の段（咲＝燕三・ツレ清尙）。 ※「邦楽へのいざないpart4／音曲の司 義太夫節の魅力」（第151回邦楽公演）。	

二〇一〇	平成22	11月27日	西宮 白鷹緑水苑宮水ホール	義経千本桜	道行初音旅（呂勢・咲甫＝清二郎・清志郎・清尙）。 ※第3回造り酒屋で愉しむ吉田文雀の会「酒屋万来文楽」。	静（玉佳）、忠信（清三郎）。
二〇一一	平成23	2/5～21	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	渡海屋・大物浦の段（口文字久＝喜一郎、中英＝清介、切咲＝燕三）、道行初音旅（静御前＝津駒・狐忠信＝咲甫・芳穂・靖・咲寿＝寛治・喜一郎・寛太郎・清公・錦吾）。	九郎判官源義経（清三郎改め文昇）、武蔵坊弁慶（玉志／勘緑）、静御前（簗助）、忠信実は源九郎狐（勘十郎）、女房おりう実は典侍局（和生）、渡海屋銀平実は中納言知盛（玉女）。
二〇一二	平成24	1/3～24	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝呂勢・狐忠信＝文字久・ツレ文字栄・芳穂・靖／希・亘＝清治・清志郎・清尙・清公・錦吾）、河連法眼館の段（中咲甫＝宗助、切咲＝燕三・ツレ清丈）。 ※国立劇場開場45周年記念。	九郎判官源義経（文司）、静御前（清十郎）、忠信実は源九郎狐（勘十郎）、佐藤忠信（清五郎）。
二〇一二	平成24	2/4～20	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	椎の木の段（口芳穂＝寛太郎、奥松香＝清友）、小金吾討死の段（文字久＝喜一郎）、すしやの段（切住＝錦糸、切源＝藤蔵、後千歳＝団七）。 ※国立劇場開場45周年記念。 ※豊竹松香太夫休演のため、「椎の木の段・奥」を豊竹咲甫太夫が代演。竹本源太夫5～20日休演のため、「すしやの段・切」を豊竹英太夫が代演。	若葉の内侍（文昇）、主馬小金吾武里（玉志）、いがみの権太（勘十郎）、すしや弥左衛門（玉也）、娘お里（簗助）、弥助実は平維盛（紋寿）、梶原平三景時（玉輝）。
二〇一二	平成24	6/23～24	国立文楽劇場	義経千本桜	すしやの段（前睦＝喜一郎、中咲甫＝清志郎、後相子＝清尙）、道行初音旅（静御前＝芳穂・狐忠信＝靖・ツレ咲寿・小住＝龍爾・寛太郎・清公・錦吾）。 ※第12回文楽若手会（文楽劇場）。文楽既成者研修発表会。	若葉の内侍（紋秀／簗紫郎）、静御前（紋臣）、狐忠信（玉佳）、いがみの権太（幸助）、すしや弥左衛門（勘市）、娘お里（一輔）、弥助実は平維盛（清五郎）、梶原平三景時（文哉／玉勢）。
二〇一二	平成24	6/29～30	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	すしやの段（前睦＝喜一郎、中咲甫＝清志郎、後相子＝清尙）、道行初音旅（静御前＝芳穂・狐忠信＝靖・ツレ咲寿・小住＝龍爾・寛太郎・清公・錦吾）。 ※第1回文楽若手会。文楽既成者研修発表会。	若葉の内侍（紋秀／簗紫郎）、静御前（紋臣）、狐忠信（玉佳）、いがみの権太（幸助）、すしや弥左衛門（勘市）、娘お里（一輔）、弥助実は平維盛（清五郎）、梶原平三景時（文哉／玉勢）。
二〇一二	平成24	7月8日	山口 ルネッサながと	義経千本桜	道行初音旅（静御前＝呂勢・忠信＝千歳・睦・芳穂・靖＝燕三・宗助・喜一郎・清志郎・清尙）。 ※ルネッサながと文楽公演。	静御前（一輔）、忠信（幸助）。
二〇一二	平成24	9/29～10/21	地方公演 （近畿・東海・関東・東北）	義経千本桜	すしやの段（前英＝清介、後津駒＝藤蔵）。	若葉の内侍（清五郎）、いがみの権太（勘十郎）、すしや弥左衛門（玉也）、娘お里（勘弥）、弥助実は平維盛（幸助）、梶原平三景時（玉輝）。
二〇一二	平成24	10月1日	大阪倶楽部ホール	義経千本桜	道行初音旅（呂勢・咲甫＝藤蔵・清志郎・清尙）。 ※咲くやこの花コレクション・大阪倶楽部公開文化サロン「咲くや花形文楽」。	静御前（一輔）、忠信（幸助）。

二〇一二	平成24	10月28日	奈良 吉野山ふるさとセン ター体育館	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－咲甫・ツレ 咲寿＝宗助・清 志郎・寛太郎）、河連法眼館の段（切 咲＝燕三・ツレ 清丈）。 ※「義経・与一・弁慶・静 合同サミットin吉野」。	九郎判官源義経（玉志）、静御前（清十郎）、狐忠 信（勘十郎）。
二〇一二	平成24	11月29日	大阪市中央公会堂	義経千本桜	すしやの段より（文字久＝藤蔵）。 ※日本経済新聞社主催「第9回文楽の夕べ」。	娘お里（勘弥）、弥助実は平維盛（幸助）。
二〇一三	平成25	1/3～25	国立文楽劇場	義経千本桜	すしやの段（切 源＝藤蔵、奥 津駒＝寛治、後 文字久＝宗助）。 ※竹本源太夫5・10～11日休演のため、「すしやの段・切」を豊竹 英太夫が代演。	若葉の内侍（文昇）、いがみの権太（勘十郎）、す しや弥左衛門（玉輝）、娘お里（紋寿）、弥助実は 平維盛（玉女）、梶原平三景時（亀次）。
二〇一三	平成25	3/3～20	地方公演 （近畿・山陽・四 国・関東・東海）	義経千本桜	すしやの段（前 千歳＝団七、後 文字久＝錦糸）。 ※竹本千歳太夫休演のため、「すしやの段・前」を豊竹呂勢太夫が 代演。	若葉の内侍（一輔）、いがみの権太（玉女）、すし や弥左衛門（勘寿）、娘お里（勘弥）、弥助実は平 維盛（文司）、梶原平三景時（玉佳）。
二〇一三	平成25	6/1～2	名古屋 中日劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－文字久・ツレ 芳穂・靖＝清 治・清志郎・清旭・寛太郎）、河連法眼館の段（中 咲甫＝宗助、 切 咲＝燕三・ツレ 清丈）。 ※第1回中日文楽。公益財団法人文楽協会創立50周年記念・竹本義 太夫三百回忌追善。	九郎判官源義経（玉志）、静御前（清十郎）、忠信 実は源九郎狐（勘十郎）、佐藤忠信（幸助）。
二〇一三	平成25	7月6日	奈良 かしはら万葉ホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前－睦・狐忠信－靖・ツレ 亘＝清志郎・清丈・ 清公）。 ※人形浄瑠璃文楽☆七夕公演「文楽ノススメ」。	静御前（一輔）、忠信実は源九郎狐（玉佳）。
二〇一三	平成25	8月30日	国立文楽劇場 小ホール	義経千本桜	渡海屋の段・幽霊（咲寿＝龍爾）。 ※第1回若手素浄瑠璃の会（文楽劇場）。国立文楽劇場文楽既成者 研修発表会。	
二〇一三	平成25	10月10日	東京新宿 花園神社	義経千本桜	渡海屋の段（中 咲寿＝龍爾）。 ※素浄瑠璃の会。	
二〇一四	平成26	9/27～10/18	地方公演 （近畿・東海・北 陸・関東・東北・甲 信越）	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－咲甫・ツレ 亘＝清治・清志 郎・清丈・燕二郎）。	静御前（清十郎）、忠信実は源九郎狐（幸助）。
二〇一四	平成26	12/20～21	福岡 博多座	義経千本桜	椎の木の段（口 芳穂＝喜一朗、奥 咲甫＝錦糸）、小金吾討死の段 （小金吾－呂勢・弥左衛門－靖・内侍－咲寿・六代+五人組－小住 ＝宗助）、すしやの段（前 千歳＝富助、後 文字久＝清介）。 ※博多座開場15周年記念博多座文楽。	若葉の内侍（勘弥）、主馬小金吾武里（幸助）、い がみの権太（勘十郎）、すしや弥左衛門（玉輝）、 娘お里（紋寿）、弥助実は平維盛（玉女）、梶原平 三景時（玉志）。
二〇一五	平成27	1/3～26	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－津駒・狐忠信－文字久・ツレ 靖・希・小住 ＝寛治・藤蔵・清丈・龍爾・清允）。 ※国立文楽劇場開場30周年記念。	静御前（勘十郎）、狐忠信（幸助）。

二〇一五	平成27	3/7~28	地方公演 (中国・九州・関東・近畿・東海)	義経千本桜	道行初音旅(静御前-呂勢・狐忠信-咲甫・ツレ 靖=錦糸・喜一朗・龍爾・錦吾)。	静御前(一輔)、狐忠信(幸助)。
△ 二〇一五	平成27	5月26日	東京 赤坂区民センター区民ホール	義経千本桜	知盛幽霊の場。 ※赤坂文楽シリーズ12回目(赤坂花形文楽・参)。	
二〇一五	平成27	7月4日	国立文楽劇場	義経千本桜	河連法眼館の段(咲=燕三・ツレ 燕二郎)。 ※第18回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第37回邦楽公演)。	
二〇一五	平成27	8/22~23	愛媛 内子座	義経千本桜	すしやの段(前 津駒=宗助、中英=清介、後 咲甫=清志郎)、道行初音旅(静御前-咲・狐忠信-呂勢・ツレ 希=清治・藤蔵・清旭・清公)。 ※第19回内子座文楽。	若葉の内侍(文昇)、静御前(一輔)、忠信実は源九郎狐(幸助)、いがみの権太(玉女改め 玉男)、すしや弥左衛門(文司)、娘お里(和生)、弥助実は平維盛(清十郎)、梶原平三景時(玉輝)。
二〇一五	平成27	10月24日	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	河連法眼館の段(咲=燕三・ツレ 燕二郎)。 ※第27回文楽素浄瑠璃の会(第175回邦楽公演)。	
二〇一六	平成28	2/6~22	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	渡海屋・大物浦の段(口 靖=宗助、中 睦=錦糸、奥 千歳=富助)、道行初音旅(静御前-津駒・狐忠信-芳穂・ツレ 咲寿・小住・亘=団七・清志郎・清丈・清公・燕二郎)。	九郎判官源義経(玉輝)、武蔵坊弁慶(清五郎/簀一郎)、静御前(文昇)、忠信実は源九郎狐(勘弥)、女房おりう実は典侍局(清十郎)、渡海屋銀平実は中納言知盛(勘十郎)。
二〇一六	平成28	3/12~14	ヒルトンプラザイースト1階アトリウム	義経千本桜	道行初音旅(静御前-呂勢・狐忠信-始・ツレ 芳穂=藤蔵・寛太郎・清公)。 ※さくら文楽。	静御前(一輔)、忠信実は源九郎狐(清五郎)。
二〇一六	平成28	11月24日	大阪市中央公会堂	義経千本桜	道行初音旅(静御前-文字久・狐忠信-小住=藤蔵・寛太郎・燕二郎)。 ※日本経済新聞社主催「第13回文楽の夕べ」。	静御前(一輔)、忠信実は源九郎狐(勘十郎)。
二〇一七	平成29	3/11~14	三重 伊勢神宮外宮特設舞台	義経千本桜	道行初音旅(静御前-文字久・狐忠信-芳穂=藤蔵・寛太郎・清允)。 ※にっぽん文楽in伊勢神宮。	静御前(勘弥)、忠信実は源九郎狐(勘十郎)。
二〇一七	平成29	3/24~26	ナレッジシアター	義経千本桜	河連法眼館の段(希=寛太郎・燕二郎)。 ※うめだ文楽2017。	源義経(玉勢)、静御前(簀紫郎)、狐忠信(幸助)、佐藤忠信(幸助)。
△ 二〇一七	平成29	5月30日	東京 赤坂区民センター区民ホール	義経千本桜 渡海屋・大物浦の段より	渡海屋の場より「幽霊知盛」、大物浦の場より「錨知盛」。 ※出演は豊竹呂勢太夫、鶴沢燕三、吉田玉男、ほか。 ※赤坂文楽#17~文楽の伝統を受け継ぐ 其の八~。 ※チラシに拠る。	
二〇一八	平成30	3月2日	名古屋 中日劇場	義経千本桜	道行初音旅(静御前-呂勢・狐忠信-芳穂・ツレ 希・亘=清治・藤蔵・清旭・友之助)、河連法眼館の段(奥 呂=団七・ツレ 団吾)。 ※中日文楽最終公演。	九郎判官源義経(幸助)、静御前(道行=一輔、館=簀助)、忠信実は源九郎狐(勘十郎)。

二〇一八	平成30	3月3日	東京 めぐろパーシモン ホール小ホール	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－芳穂・ツレ 亘＝藤蔵・清 旭・友之助）。 ※めぐろパーシモンホール開館15周年記念「人形浄瑠璃文楽 レ クチャーと公演」。	静御前（勘十郎）、忠信実は源九郎狐（幸助）。
二〇一八	平成30	4/7～30	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－咲・狐忠信－織・ツレ 津国・南都・咲寿・ 小住・亘・碩・文字栄＝燕三・宗助・清志郎・清旭・清丈・友之 助・清公・燕二郎・清允）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
二〇一八	平成30	5/12～28	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－咲・狐忠信－織・ツレ 津国・南都・咲寿・ 小住・亘・碩・文字栄＝燕三・宗助・清志郎・清旭・清丈・友之 助・清公・清允・燕二郎）。	静御前（清十郎）、狐忠信（勘十郎）。
二〇一八	平成30	9/29～10/18	地方公演 （東海・九州・中 国・関東・信越・北 海道・東北）	義経千本桜	椎の木の段（口 亘＝清丈、奥 呂勢＝清治）、すしやの段（前 呂＝ 清介、後 津駒＝藤蔵）、道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－ 希・ツレ 亘＝清志郎・清旭・清丈・友之助）。	若葉の内侍（勘弥）、主馬小金吾武里（簗紫郎／文 哉）、静御前（勘十郎）、狐忠信（幸助改め 玉 助）、いがみの権太（勘十郎）、すしや弥左衛門 （玉輝）、娘お里（清十郎）、弥助実は平維盛（玉 志）、梶原平三景時（幸助改め 玉助）。
二〇一九	平成31	3/2～24	地方公演 （近畿・九州・中 国・関東・東海）	義経千本桜	椎の木の段（口 南都＝燕二郎、奥 咲＝燕三）、すしやの段（前 津 駒＝宗助、後 織＝清志郎）、道行初音旅（静御前－芳穂・狐忠 信－靖・ツレ 碩＝清旭・寛太郎・錦吾・燕二郎）。	若葉の内侍（紋臣）、主馬小金吾武里（玉勢／紋 秀）、静御前（文昇）、狐忠信（清五郎）、いがみ の権太（玉男）、すしや弥左衛門（玉志）、娘お里 （簗二郎）、弥助実は平維盛（和生）、梶原平三景 時（清五郎）。
二〇一九	平成31	3/29～31	ナレッジシアター	義経千本桜	道行初音旅（希・小住＝寛太郎・清公・燕二郎）。 ※うめだ文楽2019。	静御前（簗紫郎）、佐藤忠信（玉勢）。
二〇一九	令和1	6/22～23	国立文楽劇場	義経千本桜	椎の木の段（口 碩＝清允、奥 咲寿＝友之助）、小金吾討死の段 （小住＝錦吾）、すしやの段（前 芳穂＝清旭、中 靖＝寛太郎、後 亘＝清公）。 ※第19回文楽若手会（文楽劇場）。国立文楽劇場第19回文楽既成 者研修発表会。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。	若葉の内侍（勘次郎）、主馬小金吾武里（玉翔）、 いがみの権太（玉勢）、すしや弥左衛門（文哉）、 娘お里（簗紫郎）、弥助実は平維盛（紋秀）、梶原 平三景時（勘介）。
二〇一九	令和1	6/28～29	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜	椎の木の段（口 碩＝清允、奥 咲寿＝友之助）、小金吾討死の段 （小住＝錦吾）、すしやの段（前 芳穂＝清旭、中 靖＝寛太郎、後 亘＝清公）。 ※第7回文楽若手会。国立劇場第7回文楽既成者研修発表会。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。	若葉の内侍（勘次郎）、主馬小金吾武里（玉翔）、 いがみの権太（玉勢）、すしや弥左衛門（文哉）、 娘お里（簗紫郎）、弥助実は平維盛（紋秀）、梶原 平三景時（玉路）。
二〇一九	令和1	8月17日	国立文楽劇場	義経千本桜	河連法眼館の段（咲＝燕三・ツレ 燕二郎）。 ※第22回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第41回邦楽公演）。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。	

二〇一九	令和1	8月29日	国立文楽劇場 小ホール	義経千本桜	すしやの段（希＝清丈）。 ※第13回若手素浄瑠璃の会（文楽劇場）。国立文楽劇場文楽既成者研修発表会。 ※国立文楽劇場開場35周年記念。	
二〇二〇	令和2	3/21～24	万博記念公園 太陽 の広場	義経千本桜	道行初音旅。 ※にっぽん文楽～1970年大阪万博50周年記念～。 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、公演中止。	
二〇二〇	令和2	3/27～29	ナレッジシアター	義経千本桜	河連法眼館の段。 ※うめだ文楽2020。 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、公演中止。	忠信（玉勢／簗紫郎）。
二〇二〇	令和2	4/4～26	国立文楽劇場	義経千本桜 通し狂言	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止。	
二〇二〇	令和2	5/9～25	東京 国立劇場 小劇場	義経千本桜 通し狂言	※「日本博」参画プロジェクト。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演中止。	
二〇二一	令和3	1/3～24	国立文楽劇場	義経千本桜	道行初音旅（静御前－呂勢・狐忠信－織・ツレ 靖・咲寿・亘＝清治・清志郎・清旭・友之助・清公・清允）。	静御前（一輔）、狐忠信（玉助）。
二〇二一	令和3	3/26～28	ナレッジシアター	義経千本桜	河連法眼館の段（希＝寛太郎・燕二郎）。 ※うめだ文楽2021。 ※チラシに拠る。	忠信（玉勢／簗紫郎）。

本来表記では「芳穂太夫」の草冠は艸を冠とした4画です。「清丈」の丈は異体字です。